

科目名称	がん看護学高度看護実践実習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Practicum for CNS in Cancer Nursing	選択	実習	1～2年次・ 通年	10単位	500時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵(看護学研究科・教授) 寺原敦朗(大森病院放射線科・教授) 祖父江由紀子(大森病院・がん看護専門看護師) 節原光江(大森病院・がん看護専門看護師) 堀孔美恵(大橋病院・がん看護専門看護師) 中村和美(大森病院・緩和ケア認定看護師) 森口容子(大森病院・がん化学療法看護認定看護師) 北爪麻紀(大森病院・がん放射線療法看護認定看護師) 勝俣範之(日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科・教授) 根岸恵(聖隷横浜病院・がん看護専門看護師) 藤原佳美(日本医科大学武蔵小杉病院・がん看護専門看護師) 碓美迫子(大森病院・看護部)					

【1】 教育目標

- がん患者の身体管理方法や有害事象のアセスメント能力、予定治療の遂行に関わる臨床判断能力を習得し、ケア(care)とキュア(cure)を融合させた高度な看護実践能力を開発することができる。
- がん患者および家族あるいはがんサバイバーが、自律した、納得のいく日常生活を送ることができるような専門的な直接ケアと、施設と地域のシームレスな連携をはかる継続看護を実践することができる。
- 看護スタッフが対応困難と感じている患者や家族への看護について、コンサルテーション、倫理的調整、調整、教育などの実践活動を行うことを通して専門看護師の役割について実践的に理解することができる。
- 臨床におけるがん看護の現状や教育ニーズを把握し、がん患者および家族やがんサバイバーへの看護の質向上を図るための教育や研究支援を実施することができる。
- がん看護専門看護師として自己の専門性を発展させる領域(サブスペシャリティ)を見出し、必要な実践能力やケア開発能力を探究できる。
- がん患者および家族やがんサバイバーに対する卓越した看護を開発していくための自身の課題を明確化できる。

【2】 授業方針・テーマ

がん看護学特論ならびに演習での知識を統合し、がん看護領域における特殊性をふまえながら高度な実践能力を養うことができる。また、がん看護専門看護師として必要な役割(コンサルテーション、調整、倫理調整、研究、教育)を自立して行える実践能力の開発をめざす。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

さまざまな臨床問題をもつがん患者および家族への看護について、臨床医およびがん看護専門看護師、教員等のスーパーバイズを受けながら多角的に検討し実践する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	1年春学期 3週間 2単位	1) 実習施設に行き、受け持ち患者に対する直接ケアを行う。 2) 看護スタッフや他職種とコミュニケーションを図る中で、がん看護専門看護師としての役割について探究する。 3) 実習先：東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院	村上・節原・堀
2	1年秋学期 3週間 2単位	1) さまざまな臨床問題をもつがん患者を受け持ち、高度な直接ケアを実践する。 2) 病棟カンファレンスで、受け持ち患者に対する直接ケアの内容を提示したり、看護スタッフが対応困難と感じている患者や家族への看護についてがん看護の専門的な立場から助言する機会をもつ。 3) 実習先：東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター大橋病院	村上・祖父江 節原・堀 森口・中村・北爪 碓
3	2年春学期 2週間 2単位	1) 実際の活動場面に同行し、がん看護専門看護師としての役割(実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整)が、臨床現場において実際にどのように機能しているのか学ぶ。 2) 実習先：聖隷横浜病院	村上・根岸
4	2年 春学期～ 秋学期 4週間 4単位	1) 継続して治療を受ける患者を受け持ち、臨床医の指導のもと、がん患者の身体管理方法や有害事象のアセスメント能力、予定治療の遂行に関わる臨床判断能力を習得し、ケア(care)とキュア(cure)を融合させた高度な看護実践能力を開発する。 2) 実習先：東邦大学医療センター大森病院、日本医科大学武蔵小杉病院	村上・寺原 勝俣・祖父江 節原・藤原

【6】 評価方法

出席状況30%、実習への取り組み50%、レポート20%で総合的に評価する。
評価については実習内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

適宜紹介する。

【8】 参考書

適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

既習の特論・演習での学びや文献検討でえたエビデンスなどを統合して事前学習を丁寧に行うこと。詳細は、がん看護専門看護師高度看護実践実習実習要項を参照すること。

科目名称	助産学特論Ⅶ (コミュニティヘルス論)	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced MidwiferyⅦ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子 (看護学研究科・教授) 松永佳子 (看護学研究科・准教授) 富岡由美 (看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

- 地域母子保健の現状と動向を踏まえ、ヘルスプロモーションに基づく効果的な地域母子保健活動を展開するための理論について説明することができる。
- コミュニティにおける母子保健、女性の健康を推進するための助産師の役割について述べるができる。

【2】 授業方針・テーマ

国内外の文献や地域母子保健活動の実践を通して、コミュニティのケアに関する理論や支援方法について教授する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義とゼミ形式により進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	地域母子保健の現状と動向	母子保健における地域とは	福島
2	地域母子保健の現状と動向	日本における地域母子保健活動の歴史	福島
3	地域母子保健の現状と動向	地域母子保健活動に関する機関・人材	福島
4	コミュニティのケア	コミュニティのケアに関わる概念・理論・支援方法について①	福島・富岡
5	コミュニティのケア	コミュニティのケアに関わる概念・理論・支援方法について②	福島・富岡
6	コミュニティのケア	コミュニティのケアに関わる概念・理論・支援方法の実践	福島・富岡
7	コミュニティのケア	コミュニティのケアに関わる概念・理論・支援方法の現状と未来	福島・富岡
8	母子保健の諸問題	国際比較からみた母子保健の諸問題	福島・富岡
9	地域母子保健活動	地域母子保健活動の実際①ひまわりの会	松永
10	地域母子保健活動	地域母子保健活動の実際②	福島・富岡
11	地域母子保健における支援	地域母子保健における助産師の役割①	福島・富岡
12	地域母子保健における支援	地域母子保健における助産師の役割②	福島・富岡
13	周産期の支援	行政からの周産期の支援	福島・富岡
14	産後育児支援体制	産後育児支援体制のあり方	福島・富岡
15	まとめ	講義内容のまとめ	福島・富岡

【6】 評価方法

レポート80%、講義への取り組み20%を総合的に評価する。
プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については、結果を提示し設問について解説する。

【7】 テキスト

- 1) 金川克子「地域看護診断技法と実際」東京大学出版会・2000年
- 2) 福島富士子, みついひろみ「産後ケアーなぜ必要か何が出来るか」岩波ブックレット・2014年
- 3) E. T. アンダーソン, J. マクファーレイン編集「地域看護学の理論と実際コミュニティアズパートナー第2版」医学出版・2007年
- 4) 福島富士子「産後ケア～ここから始まるコミュニティづくり～」財界研究所・2017年

【8】 参考書

- 1) 金川克子「地域看護診断技法と実際」東京大学出版会・2000年
- 2) 福島富士子, みついひろみ「産後ケアーなぜ必要か何が出来るか」岩波ブックレット・2014年
- 3) E. T. アンダーソン, J. マクファーレイン編集「地域看護学の理論と実際コミュニティアズパートナー第2版」医学出版・2007年
- 4) 福島富士子「産後ケア～ここから始まるコミュニティづくり～」財界研究所・2017年

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子 fujiko.fukushima@med.toho-u.ac.jp
松永佳子 papermw@med.toho-u.ac.jp
富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島富士子 毎週月曜日 10:00～11:00
松永佳子 毎週月曜日 8:00～9:00
富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00

【11】 特記事項

授業科目に関する内容について、あらかじめテキスト等に目を通しておくこと。

科目名称	社会学研究特論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Sociology Research	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	森岡 崇					
担当教員	森岡 崇 (慶應義塾志木高等学校 教諭)					

【1】 教育目標

「社会って何だろう？」これは、なかなか答えるのが難しい問いである。しかし、ベッドサイドも病院も、すべてこの「社会」に含まれる。したがって、看護研究の実践に際しても、一度立ち止まって考えてみる価値がある問いだといえよう。本講義では、テキストをもとに社会学の基礎を学びながら、実践研究へつながる道筋をイメージできるようにすることを目的とする。履修に際し社会学の基礎知識は一切不要である。しかし、自分自身に興味関心を持ち続けることを忘れずに。意外に思われるかもしれないが、社会を読み解く際のカギとなるものといえよう。

【2】 授業方針・テーマ

理論的な講義と並行して、演習（研究講読・データ分析など）も行います。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

理論的な部分に関しては、講義形式をとります。演習は看護研究の作品を読み込みます。また、可能であれば、データ収集についての演習も取り入れたいと思います。各自の研究テーマに基づく発言を期待します。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	社会学概論①	ガイダンス	森岡
2	2 社会学概論②	社会とは何か？	森岡
3	社会学概論③	社会学はなにができるのか —発想の違い	森岡
4	社会学概論④	社会学はなにができるのか —発想の違い	森岡
5	社会学概論⑤	社会学はなにができるのか —日常性へのまなざし	森岡
6	社会学概論⑥	社会学はなにができるのか —日常性へのまなざし	森岡
7	調査方法論①	グラウンデッド・セオリー1	森岡
8	調査方法論②	グラウンデッド・セオリー1	森岡
9	演習①	グラウンデッド・セオリー2	森岡
10	演習②	グラウンデッド・セオリー2	森岡
11	演習③	質的研究の検討	森岡
12	演習④	質的研究の検討	森岡
13	調査方法論③	質的研究と量的研究	森岡
14	調査方法論④	質的研究と量的研究	森岡
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	森岡

【6】 評価方法

課題への取り組み（20%）、各自の分担課題についてのプレゼンテーション（30%）、最終課題レポート（50%）により総合的に評価する。

【7】 テキスト

『違和感から始まる社会学』好井裕明、光文社新書
その他、授業で提示する

【8】 参考書

参考書

『死のアウェアネスと看護 一死の認識と終末期ケア』B. グレイザー&A. ストラウス 木下康仁（訳）、医学書院
『質的研究の基礎 第3版』J. コービン&A. ストラウス 操華子・森岡崇（訳）、医学書院
『フィールドワークの技法』佐藤郁哉、新曜社
『暴走族のエスノグラフィー—モードの叛乱と文化の呪縛』佐藤郁哉、新曜社

【9】 科目担当者連絡先

森岡 崇 morioka ■ shiki.keio.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

授業終了後に質問を受け付ける

【11】 特記事項

社会学の基礎知識は一切不要。
正解が見えない領域に入っていく。「社会って何だろう?」「わたしって何だろう?」といった問いをぐるぐる考え続けるのが好きな方、自分自身に興味を持っている方の履修を期待する。

科目名称	看護政策特論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Nursing policy	選択	2単位	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島 富士子 (看護学研究科 教授) 岸 恵美子 (看護学研究科 教授)					

【1】 教育目標

- 保健医療福祉政策が大きく転換する中で、住民の生活の質を保障するという観点で看護の立場から政策に提言するために必要なプロセスを述べることができる。
- 看護政策の発展過程について政策の背景・展開方法、分析・評価等を踏まえて、新たな看護政策課題を述べることができる。
- 上記を踏まえ、保健医療福祉政策の最新の動向を見据えた政策提言書を作成できる。

【2】 授業方針・テーマ

保健医療福祉政策が大きく転換する中で、看護の立場から政策に提言することは住民の生活の質を保障するという観点から非常に重要である。看護政策の発展過程について政策の背景・展開方法、分析・評価等を踏まえて、新たな看護政策課題を明らかにし、保健医療福祉政策の最新の動向を見据えた政策提言を探究する。院生が関心を持っている看護政策課題について、文献研究およびフィールド研究によって看護政策の現状・課題を明らかにし、新たな政策案をプレゼンテーションし、討論する。院生の主体的発表・討論を重視する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

課題に対する授業、自己学習とプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	行政政策①	行政政策の定義	福島
2	行政政策②	わが国の看護政策の変遷	福島
3	看護政策①	看護政策 変遷と現状・課題①人材育成 資格制度	福島
4	看護政策②	看護政策 変遷と現状・課題②看護教育 看護職員需給計画	福島
5	看護政策③	看護政策 変遷と現状・課題③人材確保	福島
6	看護政策の展開過程①	看護政策の発展過程① 一看護制度を例に一	福島・岸
7	看護政策の展開過程②	看護政策の発展過程② 一看護制度を例に一	福島・岸
8	看護政策の展開過程③	看護政策の問題分析・評価 一看護制度を例に一	福島・岸
9	保健医療福祉制度	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題	福島・岸
10	看護政策提言書の作成①	院生各自が関心ある看護政策について	福島・岸
11	看護政策提言書の作成②	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題 文献研究・フィールド研究等を実施	福島・岸
12	看護政策提言書の作成③	最新の保健医療福祉制度の動向及び諸問題との比較	福島・岸
13	看護政策提言書の発表①	院生による発表と討論①	福島・岸
14	看護政策提言書の発表②	院生による発表と討論②	福島・岸
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	福島・岸

【6】 評価方法

課題への取り組み (20%)、プレゼンテーション (20%)、レポート (50%) で総合的に評価する。プレゼンテーションについては、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【7】 テキスト

課題にそって授業開始時に提示する。

【8】 参考書

課題にそって授業開始時に提示する。

【9】 科目担当者連絡先

福島 富士子 fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp

岸 恵美子 emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島 富士子 毎週月曜日 10:00~11:00

【11】 特記事項

授業科目に関する内容について、事前に提示した資料等がある場合は、目を通しておくこと。

科目名称	臨床病態生理学特論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Clinical Pathophysiology	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	湯浅 玲奈					
担当教員	湯浅玲奈(看護学研究科・教授) 村上好恵(看護学研究科・教授) 瓜田純久(大森病院・教授) 舘田一博(医学研究科・教授) 本多満(大森病院・教授) 中島耕一(大森病院・教授) 片桐由起子(大森病院・教授) 松裏裕行(大森病院・教授) 根本隆洋(大森病院・准教授) 田中耕一郎(大森病院・准教授) 関谷秀樹(大森病院・准教授)					

【1】 教育目標

- 対象の病態生理学的変化を根拠にもとづいて解釈し、看護診断の基盤となる知識を述べることができる。
- 発現している身体症状の原因となる病態生理を説明できる。
- 病状に対する診断法および治療法の知識を深め、根拠に基づいた看護実践を実施できる。

【2】 授業方針・テーマ

臨床症状が生じる原因・病態生理を学ぶことは、看護のアセスメントの根拠となり得る。患者の症状からそのメカニズムを理解することは疾患の原因の推測につながり、異常の早期発見のための観察を可能にし、看護師として重要な役割となる。必要に応じそれぞれの分野の専門家の講義を入れながらの授業の展開をする。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

各専門領域の医師による講義。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染症	・免疫機構 ・細菌・ウイルス・真菌が原因の疾病の病態、診断・治療 ・発熱と感染症との関連	舘田
2	呼吸器および循環器疾患①	・呼吸の異常の病態生理 ・呼吸困難、咳嗽、喀痰、咯血、不整脈などの症状から原因・病態生理との関連 ・循環器疾患に関する病態生理 ・末梢循環不全(ショック)、意識障害に関する病態生理、胸痛の生じるメカニズム	本多
3	呼吸器および循環器疾患②	・呼吸の異常の病態生理 ・呼吸困難、咳嗽、喀痰、咯血、不整脈などの症状から原因・病態生理との関連 ・循環器疾患に関する病態生理 ・末梢循環不全(ショック)、意識障害に関する病態生理、胸痛の生じるメカニズム	本多
4	血液疾患①	血液疾患および播種性血管内凝固に関する病態生理、診断・治療 (特別講義:看護学部客員教授小原明先生)	村上
5	血液疾患②	血液疾患および播種性血管内凝固に関する病態生理、診断・治療 (特別講義:看護学部客員教授小原明先生)	村上
6	甲状腺疾患①	甲状腺疾患の病態生理、診断・治療	湯浅
7	甲状腺疾患②	甲状腺疾患の病態生理、診断・治療	湯浅
8	消化器疾患	食欲不振、腹痛、便秘、下痢の症状から消化器疾患の病態生理の関連	瓜田
9	婦人科疾患	婦人科疾患の病態生理、診断・治療	片桐
10	泌尿器疾患	泌尿器系疾患の病態生理、診断・治療	中島
11	膠原病	膠原病の原因、病態生理、診断・治療 (特別講義:医学部名誉教授川合眞一先生)	村上
12	東洋医学	東洋医学における診断・治療	田中
13	精神疾患	精神疾患の診断・治療	根本
14	小児救急疾患	症状からみた小児救急疾患の病態生理、診断・治療	松裏
15	口腔内疾患	口腔内疾患の病態生理、診断・治療	関谷

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

湯浅玲奈 rnyuasa ■ med. toho-u. ac. jp

村上好恵 ymura ■ med. toho-u. ac. jp

※ ■ を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

今まで体験してきた臨床所見と結びつけ、探求心を持ち学習に臨むこと。履修についての問い合わせは村上まで。

科目名称	臨床薬理学特論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Clinical Pharmacology	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	杉山 篤					
担当教員	杉山篤（医学部・教授）田中耕一郎（大森病院・准教授）中瀬古寛子（医学部・講師） 長澤美帆子（医学部・助教）村上好恵（看護学研究科・教授）越川一誠（大森病院・薬剤部） 木村伊都紀（大森病院・薬剤部）西澤広介（大森病院・薬剤部）大谷真理子（大森病院・薬剤部）柳野紗智子（大森病院・薬剤部）山西由里子（大森病院・薬剤部）大橋隼人（大森病院・薬剤部） 志村翔大（大森病院・薬剤部）青山剛一（大森病院・薬剤部）					

【1】 教育目標

- 1) 人体に対する薬物の作用、作用点、作用機序の概念を説明できる。
- 2) 薬物の吸収・分布・代謝・排泄および薬効に影響する因子について説明できる。
- 3) 生体内活性物質の生理作用と病態との関連を薬物治療の観点から説明できる。
- 4) 基本的な疾患・病態における薬物治療の根拠を説明できる。
- 5) 代表的な薬物の作用、作用機序、副作用を列挙し、説明できる。
- 6) 病態との関連を考慮し、薬剤投与を受ける患者の看護計画立案ができる。

【2】 授業方針・テーマ

薬物は『両刃の剣』と呼ばれるように、治療や診断に極めて有用である反面、副作用や中毒の危険性も有する。臨床看護活動において薬物治療に対する理解は極めて重要である。薬物と人体の相互作用およびそれらの臨床応用について学ぶ。また、臨床現場で活動している臨床薬剤師の講義から実践的に学び、薬剤投与に関する判断、投与後の患者の観察、投薬を余儀なくされた患者の生活調整、回復力の促進、服薬管理に関する看護を考える。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義・宿題発表

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	薬物－受容体相互作用 薬力学 薬物動態学	薬物の作用メカニズム（体内動態・投薬経路、用量など）の基本的知識を学び、臨床薬理学の理解へとつなげる。また、高齢者の薬理作用を理解する。さらにインスリン分泌のメカニズム、糖尿病治療薬について学ぶ。	杉山
2	薬物－受容体相互作用 薬力学 薬物動態学	薬物の作用メカニズム（体内動態・投薬経路、用量など）の基本的知識を学び、臨床薬理学の理解へとつなげる。また、高齢者の薬理作用を理解する。さらにインスリン分泌のメカニズム、糖尿病治療薬について学ぶ。	中瀬古
3	薬物－受容体相互作用 薬力学 薬物動態学	薬物の作用メカニズム（体内動態・投薬経路、用量など）の基本的知識を学び、臨床薬理学の理解へとつなげる。また、高齢者の薬理作用を理解する。さらにインスリン分泌のメカニズム、糖尿病治療薬について学ぶ。	長澤
4	抗感染症薬	抗菌薬の適正使用について薬剤選択、体内動態、薬効、毒性などについて学ぶ。	大谷
5	抗癌薬・免疫	がん化学療法について副作用の症状・管理について学ぶ	越川
6	抗アレルギー薬・抗炎症薬	体内動態・薬効・副作用について学ぶ。	山西
7	呼吸器系に作用する薬物	呼吸器系に作用する薬物のメカニズムについて学ぶ。	柳野
8	中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系の構造・機能について学ぶ。また代表的な麻酔薬・催眠薬・頭痛薬の作用について学ぶ。	木村
9	心臓・血管系に作用する薬物	循環器系に作用する薬物のメカニズムについて学び、代表的な心不全治療薬・抗高血圧症薬・抗狭心症薬および抗不整脈薬の作用について学ぶ。	大橋
10	消化器・生殖器系に作用する薬物	代表的な消化性潰瘍治療薬および制吐薬の作用について学ぶ。また、女性の性と生殖における薬物について学ぶ。	西澤
11	物質代謝に作用する薬物	特に脂質代謝および脂質異常症の作用メカニズムについて学ぶ。	志村
12	救急の際に使用される薬物	救急時使用薬の作用について学ぶ。	青山
13	漢方薬	作用機序・特徴を知る。	田中
14	薬理学の基本的知識と看護を再考する	病態との関連を考え、看護のあり方を考案する。	村上
15	薬理学の基本的知識と看護を再考する	病態との関連を考え、看護のあり方を考案する。	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

- 1) 系統看護学講座薬理学大鹿英世他医学書院
- 2) 病態生理に基づく臨床薬理学清野裕(日本語版監修)MEDS i

【8】 参考書

- 1) 系統看護学講座薬理学大鹿英世他医学書院
- 2) 病態生理に基づく臨床薬理学清野裕(日本語版監修)MEDS i

【9】 科目担当者連絡先

杉山篤 atsushi.sugiyama@med.toho-u.ac.jp
 村上好恵 ymuraka@med.toho-u.ac.jp
 ※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

【11】 特記事項

本科目を受講するにあたり、生理学と薬理学について、十分な基礎知識を習得しておくことが前提となる。テキストを事前に読んでおくこと。履修についての問い合わせは村上まで。

科目名称	疾病論特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Clinical Medicine	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	湯浅 玲奈					
担当教員	湯浅玲奈 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

最先端の看護ケアに必要な医学知識を学び、知識を実践看護に役立てられるよう指導する。生理学的、解剖学的視野から疾病の成り立ちを理解し、検査法、治療まで言及する。また、最近の医学的トピックスをふんだんに取り入れ、未来の看護のあり方を構築する。

【2】 授業方針・テーマ

疾患の病態生理を理解し、医療現場で実際に患者を診る際に役立つ知識を習得する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義、学生によるプレゼンテーションおよび討議。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション	湯浅
2	最先端医療①	よくわかるバイオ・ゲノム治療 1	湯浅
3	最先端医療?	よくわかるバイオ・ゲノム治療 2	湯浅
4	糖尿病学	糖尿病の診断と治療—医学の進歩と治療の変遷—	湯浅
5	感染症学	感染症対策—新型感染症—	湯浅
6	災害と医療	災害時の医療—感染症を中心に—	湯浅
7	未病学	未病とは	湯浅
8	疾病医療学	疾病対策—腎疾患、循環器病を中心に—	湯浅
9	移植学	臓器移植について—腎移植を中心に—	湯浅
10	癌対策	がん対策	湯浅
11	禁煙学	喫煙と疾病—禁煙対策—	湯浅
12	生活習慣病	生活習慣病対策—糖尿病を中心に—	湯浅
13	老年医学①	認知症—治療の現状、今後の展望、社会問題—	湯浅
14	老年医学?	高齢者の特性—誤嚥性肺炎、フレイルなど—	湯浅
15	まとめ	どのような看護がしたいのか—ディスカスを中心に—	湯浅

【6】 評価方法

出席30%、授業中の態度や取組み20%、プレゼンテーション50%から総合的に評価する。
レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、試験については結果を提示し、設問について解説する。

【7】 テキスト

プリントを配布するが、必要に応じ参考書を指示する。

【8】 参考書

プリントを配布するが、必要に応じ参考書を指示する。

【9】 科目担当者連絡先

湯浅玲奈 rnyuasa■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

メールで事前に連絡をすること。

【11】 特記事項

授業に臨むにあたり、講義に関する疾患について各自理解し、討論に参加できるよう準備しておくこと。
積極的な討論への参加を期待する。

科目名称	看護専門職連携演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Nursing Collaboration	選択	演習	1、2年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	横井 郁子					
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授） 藤原和美（看護学研究科・教授） 御任充和子（地域連携教育支援センター・特任講師） 四本竜一（大森病院・看護部） 林弥生（佐倉病院・看護部） 堀孔美恵（大橋病院・看護部） 山本由香（大森病院・看護部） 田中千賀子（田園調布医師会立訪問看護ステーション・所長） 鈴木央（鈴木内科医院・院長）					

【1】 教育目標

- 事例をとおしてさまざまな医療提供の場を分析し、それぞれの看護実践の特徴を見出す能力を養う。
- 医療・ケアの評価として超音波診断装置（エコー）など非侵襲的機器の活用の可能性を探求する。
- ケア対象者の選択を支える看護の連携について検討する。

【2】 授業方針・テーマ

さまざまな場の看護職が「支える医療」のために何をどのようにつなげていくかチームで課題を見出し、その解決に挑戦する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

事例をもとに療養環境の違いによる看護実践の多様性を討議しながら、看護の連携についてプレゼンテーションを行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療と医療的ケア1	家族や介護職が行う「医療的ケア」の現状と課題1	横井、藤原
2	医療と医療的ケア2	家族や介護職が行う「医療的ケア」の現状と課題2	横井、藤原
3	看護専門職の連携1	異なる看護実践の場の理解	田中、横井、藤原
4	看護専門職の連携2	異なる看護実践の場の理解	田中、横井、藤原
5	看護専門職の連携3	異なる看護実践の場の理解	田中、横井、藤原
6	看護専門職の連携4	異なる看護実践の場の理解	田中、横井、藤原
7	支える医療1	ケア対象者を支える医療と技1	四本、御任、藤原、横井
8	支える医療2	ケア対象者を支える医療と技2	四本、御任、藤原、横井
9	支える医療3	ケア対象者を支える医療と技3	四本、御任、藤原、横井
10	支える医療4	ケア対象者を支える医療と技4	四本、御任、藤原、横井
11	意思決定支援1	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセス1	林、堀、山本、横井、藤原
12	意思決定支援2	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセス2	林、堀、山本、横井、藤原
13	医療連携の現状と課題1	ケア対象者の選択を支える医療連携1	鈴木、横井、藤原
14	医療連携の現状と課題2	ケア対象者の選択を支える医療連携2	鈴木、横井、藤原
15	看護専門職連携の展望	プレゼンテーションと討議	横井、藤原

【6】 評価方法

演習への取り組み60%、プレゼンテーション40%で総合的に評価する。

【7】 テキスト

必要に応じて提示する。

【8】 参考書

必要に応じて提示する。

【9】 科目担当者連絡先

横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30～13：00

【11】 特記事項

特になし

科目名称	看護研究法	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Methods of Nursing Research	必修	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	坂本 なほ子					
担当教員	坂本なほ子（看護学研究科・教授） 村上好恵（看護学研究科・教授）					

【1】 教育目標

基本的な研究のあり方と看護研究に関する理論と実際について探究する。
研究課題に適した研究方法を理解し応用し、研究対象を的確に把握、分析・解釈し、その結果を看護学に応用する能力を身につける。

【2】 授業方針・テーマ

実際の研究テーマに即して研究方法を応用可能になるような知識や、研究を計画するための考え方を修得する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	研究過程の概観	研究とは、研究課程を概観する	坂本
2	文献検討	文献検討の意義、文献の読み方	坂本
3	概念枠組みと仮説	概念枠組みと仮説設定の必要性	坂本
4	研究デザイン（1）	量的研究のデザイン	坂本
5	研究デザイン（2）	量的研究のデザイン	坂本
6	研究計画書の作成	研究計画書の必要性と作成方法	坂本
7	データの収集	量的データの収集方法	坂本
8	データの分析	量的データの分析方法	坂本
9	仮説検定	仮説検定とは、検定方法	坂本
10	質問紙作成	質問紙調査の調査項目の作り方	坂本
11	研究結果の活用	研究結果の表現方法、研究成果の公表方法	坂本
12	質的研究①	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
13	質的研究②	質的研究とは、質的研究の流れについて	村上
14	質的研究③	調査方法と分析方法	村上
15	質的研究④	調査方法と分析方法	村上

【6】 評価方法

課題への取り組み(20%)、レポート(80%)から総合的に評価する。

【7】 テキスト

- 1) 南裕子：看護における研究第2版、日本看護協会出版会、2017
- 2) 高木廣文、林邦彦：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方、中山書店、2006

【8】 参考書

- 1) 南裕子：看護における研究第2版、日本看護協会出版会、2017
- 2) 高木廣文、林邦彦：エビデンスのための看護研究の読み方・進め方、中山書店、2006

【9】 科目担当者連絡先

坂本なほ子naoko.sakamoto■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:45~13:00

【11】 特記事項

自身の卒業研究について再確認しておくこと。

科目名称	看護学特別研究	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Nursing Research	必修	実習	1～2年次・秋	6単位	180時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子(看護研究科・教授) 横井郁子(看護学研究科・教授) 小林寅喆(看護学研究科・教授) 出野慶子(看護学研究科・教授) 村上好恵(看護学研究科・教授) 岸恵美子(看護学研究科・教授) 伊藤桂子(看護学研究科・教授) 菊池麻由美(看護学研究科・教授) 原三紀子(看護学研究科・教授) 藤原和美(看護学研究科・教授) 夏原和美(看護学研究科・教授) 湯浅玲奈(看護学研究科・教授) 坂本なほ子(看護学研究科・教授) 松永佳子(看護学研究科・准教授) 藤野秀美(看護学研究科・准教授) 富岡由美 (看護学研究科・准教授) 安岡砂織(看護学研究科・准教授) 勝瀬明子(看護学研究科・准教授) 望月由紀子(看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

- 興味・関心のある現象に関する課題を明らかにするための文献検討、文献クリティークを行う能力を習得する。
- 興味・関心のある現象について、フィールドワークに参加し、諸理論を用いて現象を捉える能力を習得する。
- フィールドワーク、文献検討から研究課題の絞り込みを行い、研究課題を説明できる
- 研究を進めるにあたり、研究課題に適したフィールド、対象、データ収集方法を選択できる。
- 課題の研究的探索に有効な研究方法を明確にし、研究計画を立案できる。
- 研究を進めるにあたり倫理的配慮について理解し、説明できる。
- 収集したデータを分析する能力を習得する。
- 得られた知見を論文として表現する能力を習得する。
- データ収集から論文作成、成果発表までのプロセスにおいて研究者として必要な態度(謙虚さ、忠実性、真摯さ)を獲得する。

【2】 授業方針・テーマ

看護学に関する研究課題を立案・設定し、研究計画書にそって研究を実践することで、修士論文を作成する。研究を通じて研究者として必要な態度(謙虚さ、忠実性、真摯さ)を獲得する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

各指導教員が適切な方法により実施します。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	教育内容	各指導教員の指導のもとに、学生は研究課題にそって、研究計画書の立案から調査研究などの実施、修士論文の作成まで研究の過程を展開する。	各担当教員
2	指導体制	指導教員を中心に、大学院担当教員が協力して指導にあたる。	

【6】 評価方法

課題への取り組み(20%)、研究計画書(20%)、論文(60%)から総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

【8】 参考書

【9】 科目担当者連絡先

各指導教員に確認すること。

【10】 オフィスアワー

各指導教員に確認すること。

【11】 特記事項

各指導教員の元で、専門分野の文献検討などを十分に行った上で、看護学特別研究の準備を進めていくこと。

科目名称	助産学課題実習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Practicum in Midwifery	選択	実習	2年次・通年	6単位	270時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子(看護学研究科・教授) 松永佳子(看護学研究科・准教授) 富岡由美(看護学研究科・准教授) 青島恵美子(看護学研究科・講師) 中田かおり(看護学研究科・講師) 疋田仁美(看護学部・助教) 伏見枝莉(看護学部・助教)					

【1】 教育目標

- 1周産期にある妊産褥婦とその家族に対する助産について、各自の関心に沿った課題に関する文献検討を行い、実習計画を立案することができる。
- 2対象者に対しEvidenceに基づく助産診断および助産ケアを実施することができる。
- 3課題実習を通して明らかとしたい課題を、課題研究論文として作成することができる。

【2】 授業方針・テーマ

周産期にある妊産褥婦とその家族を対象としたケアについて、文献検討を通して課題を抽出し、実習計画を立案する。立案した計画に沿ったケアを提供する。課題実習の中でデータ収集を行い、データを分析し、課題研究論文を作成する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

詳細は、別途要項を参照のこと。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習概要	課題の抽出を行い、実習計画を立案する。実習計画に沿って妊産褥婦または新生児を受持ち助産診断のもと助産ケアを実施する。また、実習を通して課題研究として必要なデータを収集し、データの分析後、課題研究論文を作成する。実習を通して、多様な文化や生活環境にある女性のケアを実践することで、個性性を重視し、周産期各期に応じた質の高い管理・ケアのあり方について学ぶ。	福島・松永・富岡・青島・中田・疋田・伏見
2	実習施設	実習施設は以下の場所とする。 周産期医療施設 診療所 助産所	福島・松永・富岡・青島・中田・疋田・伏見

【6】 評価方法

課題の明確化、実習計画の立案、実習への取り組み、課題研究論文審査会の結果までの全過程を総合的に評価する。

【7】 テキスト

特に指定しない。

【8】 参考書

特に指定しない。

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子 fujiko.fukushima@med.toho-u.ac.jp
 松永佳子 papermwdesu@gmail.com
 富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp
 青島恵美子 emiko.aoshima@med.toho-u.ac.jp
 中田かおり kaori.nakada@med.toho-u.ac.jp
 疋田仁美 hitomi.hikida@med.toho-u.ac.jp
 伏見枝莉 eri-fushimi@ns.toho-u.ac.jp
 ※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

—

【11】 特記事項

各指導教員のもとで、既習の特論、演習、実習での学びや文献検討で得たエビデンスなどを統合した事前学習を丁寧に行うこと。

科目名称	基礎看護学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Nursing Arts I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）安岡砂織（看護学研究科・准教授）					

【1】 教育目標

看護やケアについての文献を分析的に読み、看護やケアの本質、意味や価値を再考する。それをふまえて自分の実践を振り返り、自分が探求しようとする課題を明確化する。

【2】 授業方針・テーマ

検討の成果として、看護、看護実践、看護ケアの関連概念の整理を試みる。
新しい知見を導き出す文献検討の能力を養う機会とする。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションを中心に進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	「看護」、「ケア」とは	「看護」、「ケア」の近似概念	菊池・安岡
2	文献の読み方①	文献の種類	菊池・安岡
3	文献の読み方②	文献の読み方	菊池・安岡
4	文献の読み方③	サブトラクション	菊池・安岡
5	文献検討①	文献の検索	菊池・安岡
6	文献検討②	実証主義的な研究方法による研究論文	菊池・安岡
7	文献検討③	実存主義的な研究方法による研究論文	菊池・安岡
8	質的研究方法①	実証主義と実存主義	菊池・安岡
9	質的研究方法②	質的研究の発展と展望	菊池・安岡
10	質的研究方法③	研究疑問と研究方法	菊池・安岡
11	質的研究方法④	研究プロセス	菊池・安岡
12	文献検討④	サブトラクションシートを用いた文献クリテーク	菊池・安岡
13	文献検討⑤	サブトラクションシートを用いた文献クリテーク	菊池・安岡
14	文献検討⑥	サブトラクションシートを用いた文献クリテーク	菊池・安岡
15	まとめ	授業の総括 各自の課題の明確化	菊池・安岡

【6】 評価方法

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美 mayumi.kikuchi ■ med.toho-u.ac.jp

※ ■ を @ に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 30 - 13 : 00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返りながら、課題に取り組むことを期待する。

プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

科目名称	基礎看護学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Nursing ArtsⅡ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）安岡砂織（看護学研究科・准教授）					

【1】 教育目標

対人援助職、とりわけ看護職者の生成と発達とそれを支援することに関連する理論の概要を理解する。また、概念分析の方法について学修し、看護職者の生成と発達の近似概念を整理する。

【2】 授業方針・テーマ

看護職者の生成と発達とそれを支援することに関連する理論を精読し、看護職者となり発達し続けること、それを支援することについての考察を深める。
概念、概念分析についての理解を深め、研究課題の明確化に役立てる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションを中心にゼミ形式で進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護職者の生成と発達	オリエンテーション 看護職者の生成と発達についての近似概念	菊池・安岡
2	関心テーマの明確化①	問題の所在の言語化	菊池・安岡
3	関心テーマの明確化②	事例分析①	菊池・安岡
4	関心テーマの明確化③	事例分析②	菊池・安岡
5	概念分析①	概念分析とは	菊池・安岡
6	概念分析②	概念分析の方法	菊池・安岡
7	概念分析③	概念分析の実際	菊池・安岡
8	概念分析④	概念分析の実際	菊池・安岡
9	基本理論①	専門職者の発達に関連する理論	菊池・安岡
10	基本理論②	専門職者の発達に関連する理論	菊池・安岡
11	基本理論③	専門職者の発達に関連する理論	菊池・安岡
12	基本理論④	教育・学習に関連する理論	菊池・安岡
13	基本理論⑤	教育・学習に関連する理論	菊池・安岡
14	基本理論⑥	教育・学習に関連する理論	菊池・安岡
15	まとめ	授業の総括	菊池・安岡

【6】 評価方法

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美 mayumi.kikuchi ■ med.toho-u.ac.jp

※ ■ を @ に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 30 - 13 : 00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返りつつ、意欲的に参加することを期待する。
あらかじめ提示した資料を丁寧に抄読して参加してください。

科目名称	基礎看護学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Nursing Arts I	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）安岡砂織（看護学研究科・准教授）					

【1】 教育目標

看護の本質や看護職者の生成と発達に焦点を当てた先行研究を多角的に検討し、看護職者の実践や経験を対象として研究する方法を修得する。各自の看護実践を振り返ることで見出した関心テーマについてのインタビュー、参与観察を行い、看護職者の実践や経験を記述する方法を身につける。

【2】 授業方針・テーマ

文献検討をふまえて、各自の関心に沿ったテーマで参与観察・インタビュー・質問紙調査を計画、実施し、その結果に基づき関心テーマについて考察する。看護職者の実践や経験に関する質的データの収集方法を演習する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

各自の関心に沿って進める。臨床における参与観察・インタビューに基づいて演習する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概論	オリエンテーション	菊池・安岡
2	テーマの絞込①	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池・安岡
3	テーマの絞込②	文献検討	菊池・安岡
4	テーマの絞込③	文献検討結果報告、討議	菊池・安岡
5	演習計画の立案①	対象者の絞込、参加協力の依頼、インタビューガイド作成	菊池・安岡
6	データ収集演習①	インタビューによるデータ収集	菊池・安岡
7	データ収集演習②	インタビューによるデータ収集	菊池・安岡
8	データ分析演習①	逐語録の作成	菊池・安岡
9	データ分析演習②	逐語録の分析	菊池・安岡
10	演習計画の立案②	参与観察計画の作成	菊池・安岡
11	データ収集演習③	参与観察によるデータ収集	菊池・安岡
12	データ収集演習④	参与観察によるデータ収集	菊池・安岡
13	データ収集演習⑤	参与観察によるデータ収集	菊池・安岡
14	データ分析演習③	フィールドノーツの作成	菊池・安岡
15	データ分析演習④	フィールドノーツの分析	菊池・安岡

【6】 評価方法

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

別途、提示する。

【8】 参考書

別途、提示する。

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美 mayumi.kikuchi ■ med.toho-u.ac.jp

※ ■ を @ に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 30 - 13 : 00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

科目名称	基礎看護学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Nursing ArtsⅡ	選択	演習	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）安岡砂織（看護学研究科・准教授）					

【1】 教育目標

看護職者の実践や経験について実際の調査する演習を通して、各自の研究課題を明らかにする。各自の関心に沿って選択したテーマに即してデータを収集し、そのデータを分析する。分析結果に基づいて、各自の関心に即した特定の実践や経験について検討する。これらを通して、質的データの分析方法を学修する。

【2】 授業方針・テーマ

看護職者の実践や経験に関する質的データの分析方法を演習する。各自の看護実践や関心に沿ってテーマを設定し、実際に調査を行い、得られたデータの分析、分析結果の報告を行うことで、課題の明確化および研究方法の修得の機会とする。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

演習の成果を研究計画書の形でまとめる。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概論	オリエンテーション・様々な質的研究	菊池・安岡
2	演習計画立案①	演習テーマの検討	菊池・安岡
3	演習計画立案②	データ収集・分析方法の検討	菊池・安岡
4	データ収集①	テーマに沿ったデータ収集①	菊池・安岡
5	データ収集②	テーマに沿ったデータ収集②	菊池・安岡
6	データ収集③	テーマに沿ったデータ収集③	菊池・安岡
7	データ分析①	収集したデータの分析①	菊池・安岡
8	データ分析②	収集したデータの分析②	菊池・安岡
9	データ分析③	収集したデータの分析③	菊池・安岡
10	データ分析④	収集したデータの分析④	菊池・安岡
11	データ分析⑤	分析結果に基づく検討	菊池・安岡
12	データ分析⑥	分析結果に基づく検討	菊池・安岡
13	演習まとめ	演習成果のレポート作成	菊池・安岡
14	質的な研究方法①	質的なデータの分析の方法：手順と意味①	菊池・安岡
15	質的な研究方法②	質的なデータの分析の方法：手順と意味②	菊池・安岡

【6】 評価方法

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（20%）で総合的に評価する。評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

別途、提示する。

【8】 参考書

別途、提示する。

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美 mayumi.kikuchi ■ med.toho-u.ac.jp
※ ■ を @ に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 30 - 13 : 00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

科目名称	看護技術特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Nursing Arts I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科教授）安岡砂織（看護学研究科准教授）					

【1】 教育目標

「看護実践」、「看護ケア」、「看護技術」など概念について検討し、自分が探求しようとする課題を明確化する。また、看護場における行為が「看護ケア」として成立する要件や看護ケアの成り立ちについて検討する。

【2】 授業方針・テーマ

検討の成果として、看護実践、看護技術、看護ケアの関連概念の整理を試みる。
新しい知見を導き出す文献検討の能力を養う機会とする。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションを中心に進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	「看護技術」とは	「看護技術」の近似概念	菊池・安岡
2	文献の読み方①	文献の種類	菊池・安岡
3	文献の読み方②	文献の読み方	菊池・安岡
4	文献の読み方③	サブトラクション	菊池・安岡
5	文献検討①	文献の検索	菊池・安岡
6	文献検討②	実証主義的な研究方法による研究論文	菊池・安岡
7	文献検討③	実存主義的な研究方法による研究論文	菊池・安岡
8	質的研究方法①	実証主義と実存主義	菊池・安岡
9	質的研究方法②	質的研究の発展と展望	菊池・安岡
10	質的研究方法③	研究疑問と研究方法	菊池・安岡
11	質的研究方法④	研究プロセス	菊池・安岡
12	文献検討：「技術」①	サブトラクションシートを用いた文献クリテーク①	菊池・安岡
13	文献検討：「技術」②	サブトラクションシートを用いた文献クリテーク②	菊池・安岡
14	文献検討：「技」①	サブトラクションシートを用いた文献クリテーク③	菊池・安岡
15	文献検討：「技」②	サブトラクションシートを用いた文献クリテーク④	菊池・安岡

【6】 評価方法

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美 mayumi.kikuchi ■ med.toho-u.ac.jp

※ ■ を @ に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 30 - 13 : 00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返りながら、課題に取り組むことを期待する。
プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

科目名称	看護技術特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Nursing ArtsⅡ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科教授）安岡砂織（看護学研究科准教授）					

【1】 教育目標

「看護実践」、「看護技術」、「看護ケア」に関する研究の動向を多角的に把握する。また、概念分析の方法について理解し、関心テーマの文献検討を試みる。

【2】 授業方針・テーマ

検討の成果として、関心テーマについて用語の操作的定義を試みる。
文献の情報を整理し、新しい知見を導き出す文献検討の能力を培う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションを中心にゼミ形式で進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	関心テーマの明確化①	問題の所在の言語化	菊池・安岡
2	関心テーマの明確化②	事例分析①	菊池・安岡
3	関心テーマの明確化③	事例分析②	菊池・安岡
4	文献検討①	関心テーマについての文献検討	菊池・安岡
5	文献検討②	関心テーマについての文献検討	菊池・安岡
6	文献検討③	関心テーマについての文献検討	菊池・安岡
7	文献検討④	関心テーマについての文献検討	菊池・安岡
8	概念分析①	概念分析とは	菊池・安岡
9	概念分析②	概念分析の方法	菊池・安岡
10	概念分析③	概念分析の実際	菊池・安岡
11	概念分析④	概念分析の実際	菊池・安岡
12	文献検討⑤	関心テーマについての文献検討	菊池・安岡
13	文献検討⑥	関心テーマについての文献検討	菊池・安岡
14	概念の理解	研究課題の主要概念を整理する	菊池・安岡
15	概念の理解	研究課題の主要概念を整理する	菊池・安岡

【6】 評価方法

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美 mayumi.kikuchi ■ med.toho-u.ac.jp

※ ■ を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 30 - 13 : 00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返りつつ、意欲的に参加することを期待する。
あらかじめ提示した資料を丁寧に抄読して参加してください。

科目名称	看護技術演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Nursing Arts I	選択	演習	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美 (看護学研究科教授) 安岡砂織 (看護学研究科准教授)					

【1】 教育目標

各自の看護実践を振り返ることで見出した関心テーマについてのインタビュー、参与観察を行い、看護実践、看護技術、看護ケアを記述する方法を身につける。

【2】 授業方針・テーマ

文献検討をふまえて、各自の関心に沿ったテーマで参与観察・インタビュー・質問紙調査を計画、実施し、その結果に基づき関心テーマについて考察する。看護技術、看護ケア、看護実践能力に焦点を当て、質的データの収集方法を演習する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

各自の関心に沿って進める。臨床における参与観察・インタビューに基づいて演習する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概論	オリエンテーション	菊池・安岡
2	テーマの絞込①	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池・安岡
3	テーマの絞込②	文献検討	菊池・安岡
4	テーマの絞込③	文献検討結果報告、討議	菊池・安岡
5	演習計画の立案①	対象者の絞込、参加協力の依頼、インタビューガイド作成	菊池・安岡
6	データ収集演習①	インタビューによるデータ収集	菊池・安岡
7	データ収集演習②	インタビューによるデータ収集	菊池・安岡
8	データ分析演習①	逐語録の作成	菊池・安岡
9	データ分析演習②	逐語録の分析	菊池・安岡
10	演習計画の立案②	参与観察計画の作成	菊池・安岡
11	データ収集演習③	参与観察によるデータ収集	菊池・安岡
12	データ収集演習④	参与観察によるデータ収集	菊池・安岡
13	データ収集演習⑤	参与観察によるデータ収集	菊池・安岡
14	データ分析演習③	フィールドノーツの作成	菊池・安岡
15	データ分析演習④	フィールドノーツの分析	菊池・安岡

【6】 評価方法

課題への取り組み (50%)、プレゼンテーション (50%) で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

別途、提示する。

【8】 参考書

別途、提示する。

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美 mayumi.kikuchi ■ med.toho-u.ac.jp

※ ■ を @ に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 30 - 13 : 00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

科目名称	看護技術演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Nursing ArtsⅡ	選択	演習	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科教授）安岡砂織（看護学研究科准教授）					

【1】 教育目標

各自の関心に沿って選択したテーマに即したデータを収集し、そのデータを分析する。分析結果に基づいて、看護実践や看護技術、看護ケアについて検討する。これらを通して、質的データの分析方法を学修する。

【2】 授業方針・テーマ

看護実践、看護技術、看護ケアに焦点を当て、質的データの分析方法を演習する。各自の看護実践や関心に沿ってテーマを設定し、実際にプレ調査を行うことで研究課題を検討する機会とする。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

演習の成果を研究計画書の形でまとめる。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概論	オリエンテーション・様々な質的研究	菊池・安岡
2	演習計画立案①	演習テーマの検討	菊池・安岡
3	演習計画立案②	データ収集・分析方法の検討	菊池・安岡
4	データ収集①	テーマに沿ったデータ収集①	菊池・安岡
5	データ収集②	テーマに沿ったデータ収集②	菊池・安岡
6	データ収集③	テーマに沿ったデータ収集③	菊池・安岡
7	データ分析①	収集したデータの分析①	菊池・安岡
8	データ分析②	収集したデータの分析②	菊池・安岡
9	データ分析③	収集したデータの分析③	菊池・安岡
10	データ分析④	収集したデータの分析④	菊池・安岡
11	データ分析⑤	分析結果に基づく検討	菊池・安岡
12	データ分析⑥	分析結果に基づく検討	菊池・安岡
13	演習まとめ	演習成果のレポート作成	菊池・安岡
14	質的な研究方法①	質的なデータの分析の方法：手順と意味①	菊池・安岡
15	質的な研究方法②	質的なデータの分析の方法：手順と意味②	菊池・安岡

【6】 評価方法

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（40%）、レポート（20%）で総合的に評価する。評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

別途、提示する。

【8】 参考書

別途、提示する。

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30-13：00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

科目名称	性・生殖看護学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Reproductive Health Nursing1	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. ライフサイクルの各期を生きる女性の心身の健康問題について説明できる。
2. 女性の健康的な生き方をサポートするための健康教育のあり方を具体的に述べることができる。

【2】 授業方針・テーマ

性に関して論じられた成書から、性に関する自己概念を明確にし、性を科学的に捉える能力を養う。講義形式とセミナー形式で課題を基に討議しながら進める。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

ゼミ形式にて課題に対する自己学習を重視する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	女性のライフサイクルと健康問題	思春期から更・老年期までの性と生殖	福島
2	女性のライフサイクルと支援①	健康教育の行われる場や対象の特性	福島
3	女性のライフサイクルと支援②	思春期の健康問題と予防教育	福島
4	女性のライフサイクルと支援③	成熟期の健康問題と予防教育	福島
5	女性のライフサイクルと支援④	更年期の心身のストレスとコーピング	福島
6	セクシュアリティの理解	時代による性・結婚の概念の変化	福島
7	セクシュアリティの理解	マイノリティの性と社会	福島
8	セクシュアリティの理解	今日における性の概念	福島
9	セクシュアリティの理解	性の諸様相と看護の役割①	福島
10	セクシュアリティの理解	性の諸様相と看護の役割②	福島
11	女性のライフサイクルと健康教育	ヘルスプロモーションの基本的概念	福島
12	健康教育の理論と実際①	健康教育の基本と関連する理論	福島
13	健康教育の理論と実際②	健康教育の進め方・実践例	福島
14	健康教育の理論と実際③	ピアカウンセリングの理論	福島
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	福島

【6】 評価方法

課題に対する取り組みと授業への参加30%、レポート70%にて総合的に評価する。レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【7】 テキスト

課題に沿ってその都度提示する。

【8】 参考書

課題に沿ってその都度提示する。

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子 fujiko.fukushima@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島富士子 毎週月曜日 10:00～11:00

【11】 特記事項

授業科目に関する内容について、あらかじめ提示した資料等がある場合は目を通しておくこと。

科目名称	性・生殖看護学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Reproductive Health Nursing II	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授）松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授）青島恵美子（看護学研究科・講師） 中田かおり（看護学研究科・講師）					

【1】 教育目標

1. リプロダクティブヘルス/ライツの理念および性と生殖に関する理論や概念について説明できる。
2. 母性・助産領域における様々な身体的・心理社会的健康問題に関する研究課題を文献的に考察し、説明できる。
3. 女性が安全で快適な妊娠・出産を体験できるための支援方策を具体的に述べることができる。

【2】 授業方針・テーマ

性と生殖、特に周産期における研究の動向やケアの在り方を追求する。周産期に関連する分野の研究内容を解釈し評価する。また、周産期に関わる専門職としての助産師教育のあり方について探究する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

課題に対する授業、自己学習とプレゼンテーション、ディスカッションを中心とする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	性と生殖に関する概念	リプロダクティブヘルスの概念とわが国の現状	福島
2	研究の動向①	生殖と健康に関する研究の動向	松永
3	研究の動向②	母性看護・助産活動と研究	松永
4	研究課題の文献的考察①	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価①	松永
5	研究課題の文献的考察②	母性看護・助産領域の研究論文の解釈と評価②	松永
6	妊娠期の助産師の役割	妊娠期の助産師の関わり、助産師外来の評価	福島
7	院内助産での助産師の役割	院内助産での助産師の役割、関係者との連携	松永・富岡・青島・中田
8	分娩期の助産師の役割①	分娩期の助産師の関わり、よいお産とは	松永・富岡・青島・中田
9	分娩期の助産師の役割②	分娩の安全・安心・安楽の調和と助産師の役割	松永・富岡・青島・中田
10	産褥期の助産師の役割	産褥期の助産師の関わり	松永・富岡・青島・中田
11	不妊カップルのケア	不妊の現状とカップルに対するケア	富岡
12	支援に関連する概念	ソーシャルサポート、エンパワーメント	松永
13	産後うつ	産後うつの早期発見と予防	中田
14	産後ケアと育児支援	産後ケア・育児支援	青島
15	専門職育成	周産期における専門職の育成	福島

【6】 評価方法

課題に対する取り組みと授業への参加30%、レポート70%にて総合的に評価する。
レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【7】 テキスト

課題にそって授業開始時に提示する。

【8】 参考書

課題にそって授業開始時に提示する。

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子 fujiko.fukushima@med.toho-u.ac.jp

松永佳子 papermw@med.toho-u.ac.jp

富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp

青島恵美子 emiko.aoshima@med.toho-u.ac.jp

中田かおり kaori.nakada@med.toho-u.ac.jp

※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島富士子 毎週月曜日 10:00～11:00

松永佳子 毎週月曜日 8:00～9:00

富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00

青島恵美子 毎週月曜日 10:00～11:00

中田かおり 毎週月曜日 12:00～13:00

【11】 特記事項

授業科目に関する内容について、事前に提示した資料等がある場合は、目を通しておくこと。

科目名称	性・生殖看護学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Reproductive Health Nursing I	選択	演習	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子(看護学研究科・教授) 松永佳子(看護学研究科・准教授) 富岡由美(看護学研究科・准教授) 青島恵美子(看護学研究科・講師) 中田かおり(看護学研究科・講師)					

【1】 教育目標

- 母性、助産、性と生殖などの中から各自の関心のある領域やテーマの研究論文を検索し、最近の研究動向や話題について説明できる。
- 研究論文の研究デザインや研究方法等を信頼性・妥当性の見地からクリティークすることを試みることができる。
- クリティークのプロセスを通じて、各自が関心のある領域の課題を明確にし、自己の研究課題を見出すことができる。

【2】 授業方針・テーマ

少子社会と出産・育児の問題、若者の性行動と性感染症の問題、生殖医療の発達とそれに伴う問題、中高年の健康問題など今日的な課題について概観する。受講生が自ら関心のある領域の課題を追究できるように進める。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義およびゼミナール方式。課題に対して学生各自が個人ワークをして、その内容をプレゼンテーションする。そして、発表内容に関して全員でディスカッションし、学習を深める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	研究計画	研究方法の概要、研究論文の構成	松永
2	文献検討	文献検討の意義、文献検索の方法	松永
3	研究の動向①	母性・助産・性と生殖に関する最近の話題や研究傾向について①	福島
4	クリティーク①	量的研究論文のクリティーク	富岡
5	クリティーク②	質的研究論文のクリティーク	松永
6	研究倫理	研究倫理	富岡
7	クリティークの実際①	課題に対してのクリティーク	富岡
8	研究の動向②	母性・助産・性と生殖に関する最近の話題や研究傾向について②	福島
9	クリティークの実際②	各自の関心領域についてのプレゼンテーション	福島・松永・富岡・青島・中田
10	クリティークの実際③	各自の関心領域についてのプレゼンテーション	福島・松永・富岡・青島・中田
11	クリティークの実際④	各自の関心領域についてのプレゼンテーション	福島・松永・富岡・青島・中田
12	研究課題の探求①	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	福島・松永・富岡・青島・中田
13	研究課題の探求②	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	福島・松永・富岡・青島・中田
14	研究課題の探求③	自己の研究課題の明確化(研究動機・背景・研究目的・研究方法等)	福島・松永・富岡・青島・中田
15	まとめ	演習内容のまとめを行う	福島・松永・富岡・青島・中田

【6】 評価方法

授業およびディスカッションへの取り組み(20%)、課題のプレゼンテーション(50%)、レポート(30%)で評価する。評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、講評および解説する。

【7】 テキスト

テキストは使用しない

【8】 参考書

以下の図書が参考になる。

- 1) 高木廣文、林邦彦「エビデンスのための看護研究の読み方・進め方」中山書店・2006年
- 2) 北素子、谷津裕子「質的研究の実践と評価のためのサブストラクション」医学書院・2009年
- 3) スー・プロクター、メアリー・レンフルー著、前原澄子訳「助産学研究入門エビデンスにもとづく実践をめざして」医学書院・2003年
- 4) ナンシー・バーンズ、スーザン・K・グローブ著、黒田裕子・中木高夫・小田正枝・逸見功監訳「看護研究入門」エルゼビア・ジャパン・2015年(第7版)

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp

松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp

富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp

青島恵美子emiko.aoshima■med.toho-u.ac.jp

中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島富士子毎週月曜日10:00～11:00

松永佳子毎週月曜日？8:00～9:00

富岡由美毎週月曜日10:00～11:00

青島恵美子毎週月曜日10:00～11:00

中田かおり毎週月曜日12:00～13:00

【11】 特記事項

自らの関心のあるテーマについて、基本的な知見を広めておくこと。

科目名称	性・生殖看護学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Reproductive Health NursingⅡ	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子(看護学研究科・教授) 松永佳子(看護学研究科・准教授) 富岡由美(看護学研究科・准教授) 青島恵美子(看護学研究科・講師) 中田かおり(看護学研究科・講師) 疋田仁美(看護学部・助教) 伏見枝莉(看護学部・助教)					

【1】 教育目標

1. 学童期から更年期・老年期の女性をもつ健康問題や性と生殖に関する諸問題について分析検討し、援助のあり方を説明できる。
2. ヘルスプロモーション理論に沿って、学童期から成熟期、更年期・老年期の女性を対象にした健康教育プログラムを作成できる。

【2】 授業方針・テーマ

女性のライフサイクルにおける健康課題と支援の方向を学ぶ。
性教育、月経教育などに対する教育プログラムを作成する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

課題に基づくゼミナール形式で議論を行う。健康教育の実施、関連学会への参加とレポートの提出をする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	女性の健康課題	女性のライフサイクルと健康課題	福島
2	性の成熟過程と避妊教育	避妊、受胎調節法に関する国際的動向	福島
3	様々な国の性教育	性教育(避妊・受胎調節)に関する教育の国際比較	福島
4	避妊教育プログラム	低用量ピルとコンドーム教育プログラム	福島
5	性の成熟過程と性感染症予防教育	我が国の現状と国際比較	福島
6	女性の生涯を通じた健康の保持増進	思春期から更年期の健康教育	福島
7	学会の動向①	自己の課題に関連する学会への参加①	福島
8	学会の動向②	自己の課題に関連する学会への参加②	福島
9	健康教育の技法①	カウンセリングの実際①	福島
10	健康教育の技法②	カウンセリングの実際②	福島
11	健康教育の企画と実際①	健康教育プログラムの作成①	松永・富岡・青島 中田・疋田・伏見
12	健康教育の企画と実際②	健康教育プログラムの作成②	松永・富岡・青島 中田・疋田・伏見
13	健康教育の企画と実際③	健康教育プログラムの作成③	松永・富岡・青島 中田・疋田・伏見
14	健康教育の企画と実際④	健康教育プログラムの作成④	松永・富岡・青島 中田・疋田・伏見
15	まとめ	演習の内容のまとめを行う	福島

【6】 評価方法

授業およびディスカッションへの取り組み(20%)、教育プログラムの成果(50%)、関連学会に参加したレポート(30%)で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【7】 テキスト

課題にそって授業開始時に提示する。

【8】 参考書

課題にそって授業開始時に提示する。

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子 fujiko.fukushima@med.toho-u.ac.jp

松永佳子 papermw@med.toho-u.ac.jp

富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp

青島恵美子 emiko.aoshima@med.toho-u.ac.jp

中田かおり kaori.nakada@med.toho-u.ac.jp

疋田仁美 hitomi.hikida@med.toho-u.ac.jp

伏見枝莉 eri-fushimi@ns.toho-u.ac.jp

※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島富士子 毎週月曜日 10:00～11:00

松永佳子 毎週月曜日 8:00～9:00

富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00

青島恵美子 毎週月曜日 10:00～11:00

中田かおり 毎週月曜日 12:00～13:00

疋田仁美 毎週月曜日 12:00～13:00

伏見枝莉 毎週月曜日 12:00～13:00

【11】 特記事項

授業科目に関する内容について、春学期に学習した内容について復習しておくこと。

科目名称	実践助産学特論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Midwifery Practice	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	富岡 由美					
担当教員	富岡由美（看護学研究科准教授）中田雅彦（大森病院教授）					

【1】 教育目標

- 1周産期医学の変化や女性の社会的立場や意識の変化など助産学に関する社会の動向をふまえ、自然の営みとしての助産のあり方を述べることができる。
- 2高度医療に対応できる助産師としての専門的知識と技術について説明することができる。
- 3保健医療チームにおける助産師の役割や意義について説明できる。

【2】 授業方針・テーマ

講義やグループワークを通して、周産期にある女性とその家族や産科医療提供体制の諸問題について検討する。助産師としての知識・技術を探究する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義、ゼミ形式により進める。超音波検査、会陰切開縫合術については、一部演習を含む。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	助産師の動向と産科医療体制	助産師の動向、産科医療体制の現状と課題	富岡
2	院内助産システム①	院内助産・助産師外来ガイドライン	富岡
3	院内助産システム②	院内助産や助産師外来の実際について	富岡
4	超音波検査①	母体・胎児の健康診査に必要な超音波検査の理論	富岡
5	超音波検査②	母体・胎児の健康診査に必要な超音波検査の実際	富岡
6	産科における診断技術の基礎と実際①	フィジカルイグザミネーションと助産診断①	中田
7	産科における診断技術の基礎と実際②	フィジカルイグザミネーションと助産診断②	中田
8	産科救急と処置①	分娩時の救急処置、会陰切開および縫合術①	中田
9	産科救急と処置②	分娩時の救急処置、会陰切開および縫合術②	中田
10	産科救急と処置?	分娩時の救急処置、会陰切開および縫合術③	中田
11	助産ケアの質保証	総合周産期母子医療センターにおける助産ケアの質保障	富岡
12	助産ケアの質保障	助産所における助産ケアの質保障	富岡
13	産後ケア①	産後ケアの現状と課題①	富岡
14	産後ケア②	産後ケアの現状と課題②	富岡
15	まとめ	授業のまとめを行う	富岡

【6】 評価方法

講義への取り組み（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合し評価を行う。

【7】 テキスト

講義の中で指定する。

【8】 参考書

講義の中で指定する。

【9】 科目担当者連絡先

富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp

※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00

【11】 特記事項

産科医療提供体制や助産師の役割等における諸問題の中から関心のあるテーマを選び、臨床で生じている問題等を整理しておくこと。

科目名称	実践助産学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Midwifery Practice	選択	演習	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	富岡 由美					
担当教員	富岡由美（看護学研究科准教授）					

【1】 教育目標

- 1助産活動の対象や出産の場の違いを把握し、対象に応じた助産ケアおよび支援ができる。
2院内助産活動等の実践能力を高め、女性が妊娠・出産・育児を主体的に行うための助産ケアができる。

【2】 授業方針・テーマ

学生の課題やニーズに応じて演習内容および施設を選択する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

技術演習、課題学習とする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	産後ケア	1) 産後ケア (1) 産後ケアを提供する施設において実習する。 (2) 医療施設を退院した後助産ケアを必要とする母子に対し、育児支援、乳房ケア、褥婦の心のケア等に参加する。 (3) 助産ケア施設の運営・管理の実験を経験する。	富岡
2	助産所実習	2) 助産所実習 助産所における妊婦管理、分娩管理、産褥管理、乳房管理、母子訪問指導、思春期教育や更年期教育等の相談・保健指導、学校や地区での集団教育の実験を経験する。	富岡
3	乳房ケア	3) 乳房ケア (1) 妊娠期および産褥期の乳房ケアの実験を経験し、より高度な技術を習得する。 (2) 乳房ケアの専門家のコンサルテーションを受けながら、正常を逸脱した褥婦の乳房ケアの実験を行う。	富岡
4	総合周産期母子医療センター	4) 総合周産期母子医療センター MFICU、ICU等における高度な周産期医療の実験を経験する。また、医療従事者および関連機関との連携のあり方について学ぶ。	富岡
5	学会参加	5) 関連学会・研修への参加 分娩監視研究会、母子看護および助産関連学会への参加を通し、最新の研究の動向を学ぶと共に、学会の企画・運営の実験を経験する。	富岡
6	まとめ	演習のまとめを行う	富岡

【6】 評価方法

出席状況（20%）演習の態度（30%）、演習記録（50%）を総合して評価する。

【7】 テキスト

必要時に講義の中で紹介する。

【8】 参考書

必要時に講義の中で紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00

【11】 特記事項

事前に自分の関心ある問題について情報収集し、演習で取り組む課題を明らかにしてA4 1枚（1,600字以内）にまとめる。

科目名称	助産学特論 I (助産学概論)	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Midwifery I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子(看護学研究科・教授) 富岡由美(看護学研究科・准教授) 竹下直樹(佐倉病院・教授) 日色雄一(日色鍼灸院・院長)					

【1】 教育目標

1. 助産学における基本概念、助産の変遷と現状、助産師の責任と役割、医療・保健チームの中での協働、社会的意義について説明できる。
2. 母子保健の変遷とこれからの助産師の役割について考察し、助産学の位置付けやこれからの助産師の課題を述べるができる。

【2】 授業方針・テーマ

講義とグループワークを中心に展開する。助産師教育の変遷からこれからの継続教育まで含めて、広く今日の助産師のもつ課題を追求し、助産師としてのアイデンティティを獲得するためのコアとなる科目である。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義をもとにグループワークやプレゼンテーションを行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	助産の定義	オリエンテーション・助産の狭義・広義の定義	福島・富岡
2	助産の概念	助産の概念(意義・助産援助のあり方)	福島
3	助産の歴史と文化①	社会の変化と助産の歴史について①	福島
4	助産の歴史と文化②	社会の変化と助産の歴史について②	福島
5	助産における倫理	守秘義務など	富岡
6	助産師の専門性	ICMやWHOについて	富岡
7	助産師教育	助産師の到達目標	富岡
8	母子保健の基盤施策①	健やか親子21子育て世代包括支援センター	富岡
9	母子保健と基盤施策②	思春期保健、乳幼児事故防止、母乳育児支援	富岡
10	性・生殖と人権	リプロダクティブ・ヘルツライツ、インフォームド・コンセント	富岡
11	出生に関する生命倫理	生命倫理(出生前診断)	竹下
12	東洋医学①	助産と東洋医学①	中田
13	東洋医学②	助産と東洋医学②	日色
14	東洋医学③	助産と東洋医学③	日色
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	富岡

【6】 評価方法

プレゼンテーション40%、レポート40%、ディスカッション20%で総合的に評価する。プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。試験については、結果を提示し設問について解説する。

【7】 テキスト

- 1) 工藤美子「助産師基礎教育テキスト第1巻助産概論」日本看護協会2020年

【8】 参考書

その他、随時参考図書を紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子 fujiko.fukushima@med.toho-u.ac.jp

富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp

※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島富士子 毎週月曜日 10:00～11:00

富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00

竹下直樹 授業修了後に質問を受け付ける。

日色雄一 授業修了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

授業科目に関する内容について、あらかじめ資料を取り寄せ予習をしておくこと。

科目名称	助産学特論Ⅱ（妊娠期の診断と技術）	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Midwifery II	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	富岡 由美					
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授）中田雅彦（大森病院・教授） 竹下直樹（佐倉病院・教授）早田英二郎（大森病院・講師） 池田恭子（大森病院・栄養士）					

【1】 教育目標

1. 妊婦と胎児の経過を理解したうえで、経過診断および健康生活診断を行うことができる。
2. 妊婦とその家族のセルフケア能力を促すために必要な援助方法を述べることができる。

【2】 授業方針・テーマ

講義および演習で進める。正常に経過する妊婦への助産診断とケア、異常の早期発見や異常に移行しない予防的な援助をできるために必要な知識と技術を教授する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義および、課題や事例に関する学生のプレゼンテーションとディスカッションによって進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	妊娠期の成立	妊娠期の助産の特徴・目的、妊娠の成立、妊娠の維持	富岡
2	妊娠経過の診断①	妊娠の早期診断、妊娠に伴う全身の変化	早田
3	妊娠経過の診断②	妊娠経過の診断、妊娠に案練した検査、母子感染症に関する検査	早田
4	妊娠経過の診断③	妊娠と薬物	早田
5	妊娠経過の診断④	胎児の発育の診断	竹下
6	ハイリスク妊娠の診断①	ハイリスク妊娠	中田
7	ハイリスク妊娠の診断②	異常の早期発見と予防	中田
8	ハイリスク妊娠と栄養	ハイリスク妊婦の食事療法	池田
9	妊婦のアセスメント	妊婦の日常生活、セルフケアに関するアセスメント	富岡
10	妊婦のケア	妊婦の日常生活におけるケア、妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア	富岡
11	妊婦の助産課程①	妊娠期の助産診断とケア①	富岡
12	妊婦の助産課程②	妊娠期の助産診断とケア②	富岡
13	妊婦の助産課程③	妊娠期の助産診断とケア③	富岡
14	妊婦の助産課程④	妊娠期の助産診断とケア④	富岡
15	まとめ	助産過程についてプレゼンテーションとディスカッション	富岡

【6】 評価方法

筆記試験70%（中間テストを含む）、課題への取り組み10%、プレゼンテーションおよびレポートの内容20%で総合的に評価する。
プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については、結果を提示し設問について解説する。

【7】 テキスト

- 1) 森恵美「助産師基礎教育テキスト第4巻妊娠期の診断とケア」日本看護学会2020年
- 2) 遠藤俊子「助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」日本看護協会2020年
- 3) 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2020」日本産科婦人科学会事務局・2020（未刊行）

【8】 参考書

- 1) 武谷雄二他「プリンシプル産婦人科学Ⅰ―婦人科編」メジカルビュー社2014年（第3版）
- 2) 武谷雄二他「プリンシプル産婦人科学Ⅱ―産科編」メジカルビュー社2014年（第3版）

【9】 科目担当者連絡先

富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00
中田雅彦 授業終了後に質問を受け付ける。
竹下直樹 授業終了後に質問を受け付ける。
早田英二郎 授業終了後に質問を受け付ける。
池田恭子 授業終了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

助産学実習の基盤となる科目であるため、主体的に取り組むこと。母性看護学を復習して臨むこと。

科目名称	助産学特論Ⅲ（分娩期の診断と技術）	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced MidwiferyⅢ	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	富岡 由美					
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授） 中田雅彦（大森病院・教授） 青島恵美子（看護学研究科・講師）					

【1】 教育目標

1. 分娩の機序やフィジカルアセスメント法を理解したうえで助産過程を展開することができる。
2. 助産診断のもと、産婦とその家族に対して安全で適切な援助の方法を述べることができる。
3. 分娩時の異常や産科救急の処置について述べるができる。

【2】 授業方針・テーマ

分娩期の助産診断に必要な産科学をはじめ、分娩の3要素が分娩進行に与える影響と、3要素の相互関係について理解を深め、助産診断に必要な理論を習得できるよう進める。また、産婦とその家族に対し、分娩各期の具体的なケアについて教授する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義および提示した課題に対し学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	分娩の定義、分娩の3要素	分娩3要素について（娩出力・娩出物・産道）	富岡
2	分娩の3要素	分娩3要素について（娩出力・娩出物・産道）	富岡
3	分娩の機序①	分娩が母児に与える影響について	富岡
4	分娩の機序②	分娩期の心理社会的状況	富岡
5	分娩経過の診断①	産婦の健康診査	富岡
6	分娩経過の診断②	産婦の健康診査と胎児の健康診査	富岡
7	分娩の異常①	分娩3要素の異常	中田
8	分娩の異常②	分娩に伴う偶発疾患・合併症	中田
9	分娩時の異常	産科救急（産科出血・産科ショック）	中田
10	分娩経過の診断?	CTGの判読	中田
11	分娩期の助産過程①	分娩期の助産診断とケア①	青島
12	分娩期の助産過程②	分娩期の助産診断とケア②	青島
13	分娩期の助産過程?	分娩期の助産診断とケア③	青島
14	分娩期の助産過程④	分娩期の助産診断とケア④	青島
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	青島

【6】 評価方法

講義への取り組み（10%）、筆記試験（中間テスト含む）（70%）、課題（20%）から総合的に評価する。
プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については、結果を提示し設問について解説する。

【7】 テキスト

- 1) 町浦美智子「助産師基礎教育テキスト第5巻分娩期の診断とケア」日本看護協会2020年
- 2) 日本産科婦人科学会・日本産科婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2020」日本産科婦人科学会事務局・2020年（未刊行）

【8】 参考書

- 1) 進純郎／堀内成子「正常分娩の助産術トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」医学書院2010年
- 2) 町浦美智子「助産学実習プレブックー助産過程の思考プロセス」医歯薬出版株式会社2015年
- 3) 日本助産診断・実践研究会「マタニティ診断ガイドブック」医学書院2015年第5版

【9】 科目担当者連絡先

富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp
青島恵美子emiko.aoshima■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

富岡由美毎週月曜日10:00～11:00
青島恵美子毎週月曜日10:00～11:00
中田雅彦授業修了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

- ・母性看護学（分娩期）の復習をして臨むこと。
- ・DVDで学ぶ開業助産師の「わざ」フリースタイル分娩介助村上明美医歯薬出版仰臥位分娩を視聴すること。

科目名称	助産学特論Ⅳ（産褥期の診断と技術）	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced MidwiferyⅣ	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	松永 佳子					
担当教員	松永佳子（看護学研究科・准教授）中田かおり（看護学研究科・講師） 杜裕美（大森病院・助産師）野田玲穂（大森病院・助産師）					

【1】 教育目標

- 産褥期にある対象を身体的、心理的、社会的変化を理解し、産褥期の女性及び家族のアセスメントを行い、根拠に基づく助産過程を展開できる。
- 産褥期にある女性やその家族に対する健康の相談・教育・援助活動のための計画立案ができる。

【2】 授業方針・テーマ

講義の他に、事例を用いたグループワーク形式ですすめる。各種ガイドラインを参照し、身体、心理、社会的側面のスタンダードケアについて検討できる思考が身につくことを目指すため予習が不可欠である。乳房管理については、エキスパートによる講義と演習を実施する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義および提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	分娩後2時間まで	分娩後2時間までの助産診断とケア	松永
2	産褥期の解剖・生理	産褥期の解剖・生理	松永
3	産褥期の生理	産褥期の心理	松永
4	産褥期の異常	産褥期の異常	松永
5	産褥期の異常のケア	産褥期の異常のケア	松永
6	グリーフケア	グリーフケア	松永
7	産後1か月健康診査	産後1か月の健康診査の実際	松永
8	産褥期の助産診断とケア①	産褥期の助産診断とケア事例の紹介	中田
9	産褥期の助産診断とケア②	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開①	中田
10	産褥期の助産診断とケア③	産褥期の助産診断とケア助産過程の展開②	中田
11	乳房管理 (1)	ラクテーションコンサルタント (母の立場から)	杜
12	乳房管理 (2)	ラクテーションコンサルタント (新生児の立場から)	野田
13	産後の家族計画指導①	産後の家族計画指導の概要	松永
14	産後の家族計画指導②	産後の家族計画指導計画の立案	松永
15	産後の家族計画指導③	産後の家族計画指導案の発表	松永

【6】 評価方法

講義・演習・課題への参加度 (20%)、筆記試験、レポート等 (80%) で総合的に評価する。
助産過程・保健指導案については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については結果を提示し、設問について解説する。

【7】 テキスト

- 1) 江藤宏美編「助産師基礎教育テキスト産褥期のケア新生児・乳幼児期のケア第6巻」日本看護協会出版会・2020年
- 2) 小林康江編「助産師基礎教育テキストハイリスク妊産褥婦・新生児のケア第7巻」日本看護協会出版会・2020年
- 3) 日本助産診断・実践研究会「マタニティ診断ガイドブック第5版」医学書院・2015年
- 4) 日本助産診断・実践研究会編「実践マタニティ診断第4版」医学書院・2016年
- 5) 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2020」日本産科婦人科学会事務局・

【8】 参考書

—

【9】 科目担当者連絡先

松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp
中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

松永佳子毎週月曜日?8:00~9:00
中田かおり毎週月曜日12:00~13:00
杜裕美授業修了後に質問を受け付ける。
野田玲穂授業修了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

母性看護学（産褥期）を修得していることを前提に講義・演習を行う。

科目名称	助産学特論V（新生児期の診断と技術）	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Midwifery V	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	松永 佳子					
担当教員	松永佳子（看護学研究科・准教授） 與田仁志（大森病院・教授） 西田朋子（大森病院・看護師）					

【1】 教育目標

1. 新生児期生理的特徴や成長発達過程を理解し、新生児のフィジカルアセスメント実施し、根拠に基づく助産過程を展開できる。
2. 新生児の体外生活の適応からの逸脱状態をアセスメントし、必要なケアを述べることができる。
3. 新生児蘇生法をモデルで実施できる。

【2】 授業方針・テーマ

講義および演習で進める。新生児の正常な成長発達を促進していくための助産診断・ケアに加えて、母親や家族に対する支援についても追求する。また、出生直後の緊急時の対応が習得できるように教授する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義および提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	新生児の解剖・生理①	新生児期の助産ケアの特徴、新生児の分類、出生直後の生理的特徴	松永
2	新生児の解剖・生理①	子宮外生活への適応	松永
3	新生児の解剖・生理①	出生直後のフィジカルエグザミネーション、新生児の発育・成熟度の評価	松永
4	新生児の助産過程①	新生児期の助産診断とケア①	松永
5	新生児の助産過程②	新生児期の助産診断とケア②助産過程の展開	松永
6	新生児の助産過程③	新生児期の助産診断とケア③助産過程の展開	松永
7	新生児に関する保健指導	保健指導案の立案（沐浴・啼泣・生理）	松永
8	正常からの逸脱①	正常から逸脱した新生児に対するケア	西田
9	正常からの逸脱②	低出生体重児（早期産児）へのケア（家族へのケアも含む）	西田
10	新生児の異常①	新生児医療の現状、呼吸器・循環器・神経・代謝疾患など	與田
11	新生児の異常②	ハイリスク妊娠によって出生した新生児、多胎児	與田
12	新生児の異常③	低出生体重児（早期産児）に起こりやすい異常（病態・生理）	與田
13	新生児救急蘇生法①	新生児救急蘇生法①	與田・松永
14	新生児救急蘇生法②	新生児救急蘇生法②	與田・松永
15	新生児救急蘇生法③	新生児救急蘇生法③	與田・松永

【6】 評価方法

試験（70%）、課題（15%）、レポート内容（10%）および授業への取り組み（5%）で総合的に評価する。助産過程・保健指導案については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。試験については結果を提示し、設問について解説する。

【7】 テキスト

- 1) 仁志田博司「新生児学入門第5版」医学書院・2018年
- 2) 田村正徳「第3版日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト」メジカルビュー社・2016年
- 3) 日本助産診断・実践研究会編「マタニティ診断ガイドブック第5版」医学書院・2015年
- 4) 江藤宏美編「助産師基礎教育テキスト産褥期のケア新生児・乳幼児期のケア第6巻」日本看護協会出版会・2020年
- 5) 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2020」日本産科婦人科学会事務局・2020年
(未刊行)

【8】 参考書

—

【9】 科目担当者連絡先

松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

松永佳子毎週月曜日?8:00~9:00
與田仁志授業修了後に質問を受け付ける。
西田朋子授業修了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

「母性看護学」の範囲については、復習しておくこと。
新生児救急蘇生法Aコースの認定取得が可能である。

科目名称	助産学特論VI(乳幼児の成長発達と育児支援)	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced MidwiferyVI	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	富岡 由美					
担当教員	富岡由美(看護学研究科・准教授) 出野慶子(看護学研究科・教授) 高月晋一(大森病院・准教授) 松岡正樹(大森病院・助教) 濱崎祐子(大森病院准教授) 早乙女壮彦(大森病院・助教) 青島恵美子(看護学研究科・講師)					

【1】 教育目標

1. 乳幼児期の成長・発達について、身体的・心理的・社会的、生活という視点から説明できる。
2. 乳幼児を持つ家族の健康の保持増進のための相談・教育・援助活動について、説明できる。

【2】 授業方針・テーマ

乳幼児の健全な心身の発育・発達過程とその特徴について講義を通して教授する。また、子どもを取り巻く環境を知り、成長発達に影響を及ぼす因子についてアセスメントできるように事例を通じた学習をすることになるので、主体的な参加を求める。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

分野の専門職者の講義と事例を用いたグループワーク形式ですすめる。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	乳幼児への保健対策	乳幼児への保健対策の現状と課題	富岡
2	乳幼児の成長・発達	乳幼児の成長・発達①	濱崎
3	乳幼児の成長・発達	乳幼児の成長・発達②	早乙女
4	乳幼児健康診断とスクリーニング、乳幼児の疾患①	乳幼児健康診断とマスキング、乳幼児の循環器疾患	高月
5	感染症と予防接種、乳幼児の疾患②	感染症と予防接種、乳幼児の血液疾患	松岡
6	乳幼児の生活と環境	乳幼児の健康的な生活と環境	富岡
7	幼児の事故防止	幼児に起こりやすい事故とその予防	出野
8	子ども虐待①	子ども虐待の現状と課題①	出野
9	子ども虐待②	子ども虐待の現状と課題②	出野
10	乳幼児の栄養と食生活	乳幼児の栄養の特徴と食生活における問題	富岡
11	乳幼児の栄養と食生活	乳幼児の栄養と食生活調理演習(離乳食)①	富岡・青島
12	乳幼児の栄養と食生活	乳幼児の栄養と食生活調理演習(離乳食)②	富岡・青島
13	乳幼児と家族へのヘルスプロモーションと健康教育①	3~4か月乳児健康調査とケア①	富岡・青島
14	乳幼児と家族へのヘルスプロモーションと健康教育②	3~4か月乳児健康調査とケア②	富岡・青島
15	乳幼児と家族へのヘルスプロモーションと健康教育③	5~6か月乳児健康調査とケア①	富岡・青島

【6】 評価方法

講義への取り組み(30%)、課題への参加態度(30%)、課題の評価(40%)を総合的に評価する。プレゼンテーション、課題については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。試験については、結果を提示し設問について解説する。

【7】 テキスト

- 1) 仁志田博司「新生児学入門第4版」医学書院・2018年
- 2) 「日本助産診断・実践研究会編：マタニティ診断ガイドブック第5版」医学書院・2015年

【8】 参考書

- 1) 水野克己「お母さんがもっと元気になる乳児健診 - 健診を楽しくすすめるエビデンス&テクニック」メディカ出版・2015年

【9】 科目担当者連絡先

富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp
出野慶子ideno■med.toho-u.ac.j
青島恵美子emiko.aoshima■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

富岡由美毎週月曜日10:00～11:00
出野慶子各授業日の12:30～13:00
青島恵美子毎週月曜日10:00～11:00
高月晋一授業終了後に質問を受け付ける
松岡正樹授業終了後に質問を受け付ける
濱崎祐子授業終了後に質問を受け付ける
早乙女壮彦授業終了後に質問を受け付ける

【11】 特記事項

小児看護学で学習した、乳幼児期に特有な成長・発達について復習しておくこと。

科目名称	助産学特論Ⅷ（助産管理）	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced MidwiferyⅧ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	松永 佳子					
担当教員	松永佳子（看護学研究科・准教授）加茂あゆみ（大森病院・師長） 内藤智子（大森病院・師長）					

【1】 教育目標

1. 母子保健医療福祉の動向をふまえ、施設の違いによる助産業務管理の過程を説明できる。
2. 助産業務、助産師の役割に関連する法律とその概要を説明できる。
3. 助産業務の質管理及び安全管理について事例展開ができる。

【2】 授業方針・テーマ
講義および演習で進める。助産学実習での経験と「助産管理」が統合できるように講義を進める。

【2】 授業方針・テーマ

講義および演習で進める。助産学実習での経験と「助産管理」が統合できるように講義を進める。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義および提示した課題に対する学生のプレゼンテーションとディスカッション、事例を用いたグループワークによって進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	管理の概念	助産管理の基本	松永
2	助産業務管理	助産業務管理の過程	松永
3	助産管理と医療経済	助産業務管理と医療経済	松永
4	助産の関連法規①	助産師の業務・届け出に関わる関連法律	松永
5	助産の関連法規②	女性・こどもの支援に関わる関連法律	松永
6	助産業務管理①	助産業務管理（病院）	内藤
7	助産業務管理②	助産業務管理（新生児集中治療室）	加茂
8	助産業務管理③	助産業務管理（助産所）	松永
9	周産期における連携	チーム医療における連携	松永
10	助産業務の質管理①	質の管理に関する理論	松永
11	助産業務の質管理②	サービスとしてのケア	松永
12	助産業務の質管理③	リスク・マネジメントに関する事例検討	松永
13	助産が行う医療安全①	安全・災害対策に関する事例検討	松永
14	助産が行う医療安全②	医療事故防止事例検討	松永
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	松永

【6】 評価方法

試験（70%）、課題（15%）、レポート内容（10%）および授業への取り組み（5%）で総合的に評価する。
事例検討の評価については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
試験については結果を提示し、設問について解説する。

【7】 テキスト

- 1) 成田伸「助産師基礎教育テキスト第3巻周産期における医療の質と安全」日本看護協会出版会・2020年

【8】 参考書

その他、随時参考図書を紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

松永佳子毎週月曜日？8:00～9:00

加茂あゆみ授業終了後に質問を受け付ける。

内藤智子授業終了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

助産学実習ⅠおよびⅡの実習の際に実習施設の人、モノ、金、情報の動きについて意識しながら実習すること。

科目名称	助産学演習Ⅰ（妊娠・産褥・新生児の診断と技術）	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Midwifery I	選択	演習	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	富岡 由美					
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授） 早田英二郎（大森病院・講師） 松永佳子（看護学研究科・准教授） 青島恵美子（看護学研究科・講師） 中田かおり（看護学研究科・講師） 足田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）					

【1】 教育目標

1. 妊娠期にある健康な母子に対するヘルスアセスメント技術を学び、安全・安楽に妊婦に提供することができる。
2. 産褥期・新生児期にある対象に対する助産ケアの知識・診断技術を学び、演習で実施することができる。
3. 周産期において対象が正常な経過をたどるために必要な保健指導案を立案することができる。

【2】 授業方針・テーマ

本科目は、妊娠・産褥・新生児期の助産診断に不可欠な診断技術および援助技術の演習を行い、その技術の習得を目指す。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

実習室における演習、産婦人科外来における演習、グループワーク、個人ワークなどを行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	妊娠期に必要な援助技術	妊婦健康診査に必要な技術（フィジカルエグザミネーションを含む）	富岡
2	胎児の健康状態、胎児付属物を査定するために必要な技術	胎児心拍数陣痛図の判定	早田
3	胎児の健康状態、胎児付属物を査定するために必要な技術	超音波断層検査	早田
4	婦人科に関する技術	婦人科検診の実際（パップスメア）	早田
5	対人援助技術	基本的かかわり技法、カウンセリングと保健指導の方法	富岡
6	産褥期の保健指導	褥婦への保健指導（家族計画、産後の運動等に関する保健指導）①	中田
7	産褥期の保健指導	褥婦への保健指導（家族計画、産後の運動等に関する保健指導）②	中田
8	新生児期における保健指導	新生児の保健指導（日々の観察とケアに関する保健指導）①	松永
9	新生児期における保健指導	新生児の保健指導（日々の観察とケアに関する保健指導）②	松永
10	産褥期に必要な援助技術	産褥期に必要な援助技術（進行性変化、退行性変化の観察等）	松永・中田
11	新生児期に必要な援助技術	新生児期に必要な援助技術（全身の観察、沐浴等）	松永・中田
12	妊娠期の健康診査の実際	妊婦健康診査（OSCE）	富岡・青島
13	産褥期・新生児期の健康診査	産褥期・新生児期のヘルスアセスメント（OSCE）	富岡・中田
14	助産外来の実際	産科外来における演習①	富岡・青島・伏見・足田
15	助産外来の実際	産科外来における演習②	富岡・青島・伏見・足田

【6】 評価方法

提出記録およびレポートの内容(40%)、課題や授業への取り組み(30%)、プレゼンテーションの内容(30%)で評価する。レポートについては、A、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【7】 テキスト

- 1) 小林康江編集「助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」日本看護協会出版会・2020年

【8】 参考書

- 1) 池田智明「胎児心拍数モニタリング集中トレーニング」メディカ出版・2010年
- 2) 馬場一憲「基礎から学ぶ産婦人科超音波診断」東京医学社・2010年
- 3) 中井章人「図説CTGテキスト助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証必須研修CTGテキスト」メジカルビュー社・2016年

【9】 科目担当者連絡先

富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp
松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp
青島恵美子emiko.aoshima■med.toho-u.ac.jp
中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp
疋田仁美hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp
伏見枝莉eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

富岡由美毎週月曜日10:00～11:00
青島恵美子毎週月曜日10:00～11:00
中田かおり毎週月曜日12:00～13:00
疋田仁美毎週月曜日12:00～13:00
伏見枝莉毎週月曜日12:00～13:00
早田英二郎授業終了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

技術の習得に向け、主体的に取り組むことを期待する。

科目名称	助産学演習Ⅱ(分娩期の診断と技術)	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in MidwiferyⅡ	選択	演習	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	富岡 由美					
担当教員	富岡由美(看護学研究科・准教授) 早田英二郎(大森病院・講師) 青島恵美子(看護学研究科・講師) 中田かおり(看護学研究科・講師) 疋田仁美(看護学部・助教) 伏見枝莉(看護学部・助教)					

【1】 教育目標

- 産婦及び家族に対して、安全で安楽な助産の実践に必要な分娩介助技術を原理原則に基づいて実施できる。
- 分娩期に必要なとされる産痛緩和技術や呼吸法などの具体的なケア方法を理解し、安全安楽な方法で実施できる。

【2】 授業方針・テーマ

演習を通して分娩介助技術の習得を目指す。診療ガイドライン及び科学的根拠に基づいた安全で安楽な分娩介助技術を探求し、対象者へ提供できる技術レベルに達するまで鍛錬を重ねていく。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

技術演習および、課題を提示した学生のプレゼンテーションとディスカッションによって進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	分娩介助技術①	分娩介助の意義分娩介助の基本姿勢分娩室の環境調整	富岡・青島
2	分娩介助技術②	分娩介助者の準備間接介助者の役割	富岡・青島
3	分娩介助技術③	分娩室の準備分娩介助者の準備	富岡・青島・疋田・伏見
4	分娩介助技術④	清潔野の確保	富岡・青島・疋田・伏見
5	分娩介助技術⑤	肛門保護、会陰保護内診	富岡・青島・疋田・伏見
6	分娩介助技術⑥	臍帯切断、胎盤娩出から分娩第4期まで、胎盤計測	富岡・青島・疋田・伏見
7	分娩介助技術⑦	分娩介助技術(準備から分娩第4期まで)	富岡・青島・疋田・伏見
8	会陰裂傷縫合術	会陰切開・会陰裂傷縫合術①	早田
9	会陰裂傷縫合術	会陰切開・会陰裂傷縫合術②	早田
10	胎盤の精査・計測法	胎盤の精査・計測法	富岡・青島
11	産婦のケア	呼吸法・産痛緩和・リラクゼーション法①	富岡・青島
12	産婦のケア	呼吸法・産痛緩和・リラクゼーション法②	富岡・青島
13	分娩介助技術⑧	分娩介助技術(準備から分娩第4期まで)	富岡・青島・中田・疋田・伏見
14	分娩介助技術⑨	分娩介助技術(準備から分娩第4期まで)	富岡・青島・中田・疋田・伏見
15	分娩介助技術⑩	分娩介助技術(準備から分娩第4期まで)	富岡・青島・中田・疋田・伏見

【6】 評価方法

演習への取り組み状況(20%)、技術評価(80%)で、総合的に評価する。
評価については、演習終了後に講評を伝え、課題を共有する。

【7】 テキスト

町浦美智子編集「助産師基礎教育テキスト第5巻分娩期の診断とケア」日本看護協会出版・2020年

【8】 参考書

- 1) 進純郎／堀内成子「正常分娩の助産術トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」医学書院・2010年
- 2) 進純郎「分娩介助学」医学書院・2014年
- 3) 村上明美「DVDで学ぶ開業助産師の「わざ」フリースタイル分娩介助」医歯薬出版株式会社・2009年
- 4) 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2020」日本産科婦人科学会事務局・2020（未刊行）

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp
松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp
富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp
青島恵美子emiko.aoshima■med.toho-u.ac.jp
中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp
疋田仁美hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp
伏見枝莉eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島富士子毎週月曜日10:00～11:00
松永佳子毎週月曜日？8:00～9:00
富岡由美毎週月曜日10:00～11:00
青島恵美子毎週月曜日10:00～11:00
中田かおり毎週月曜日12:00～13:00
疋田仁美毎週月曜日12:00～13:00
伏見枝莉毎週月曜日12:00～13:00
早田英二郎授業終了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

女性生殖器の構造の復習、分娩の機序および分娩経過の診断に必要な知識の復習（助産学特論Ⅲ）
演習前に基礎看護技術（滅菌操作・手洗い・ガウンテクニック・導尿）の方法の復習をしておくこと
演習時間以外にも分娩介助技術の自己学習・練習をすること

科目名称	助産学実習Ⅰ（継続事例実習）	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Midwifery Practicum I	選択	実習	1年次・春	2単位	90時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授） 松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授） 青島恵美子（看護学研究科・講師） 中田かおり（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）					

【1】 教育目標

1. 正常な経過をたどる妊婦と家族を受け持ち、妊娠期、分娩期、産褥期、育児期、新生児期、乳児期の各期において助産過程を展開し、産後6か月まで継続して個別性を踏まえたケアを実施できる。
2. 妊産褥婦とその家族に対して個別性を踏まえた保健指導を実施できる。

【2】 授業方針・テーマ

妊娠期から受け持ち、直接分娩介助を経て、産褥期の母子の助産ケア、産後の家庭訪問等、産後6か月まで継続的な支援を行う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

詳細は実習要項参照

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習方法①	正常な経過をたどる対象を受け持ち、妊娠期・分娩期・産褥期・育児期・新生児期・乳児期において対象に助産過程を展開し、産後6か月まで継続して対象とその家族に適切なケアを実施する。	福島・松永・富岡・青島中田・疋田・伏見
2	実習方法② 妊娠期	1) 妊婦健康診査に参加し、助産過程を展開し、診断技術を用いて助産診断を行う。 2) 助産計画に基づいて、予測的かつ経過に応じた相談・教育・ケアを行う。 3) 妊婦への個別指導計画を立案し実施する。	福島・松永・富岡・青島中田・疋田・伏見
3	実習方法③ 分娩期	1) 助産過程を展開し、分娩期のケアを行う。 2) 産婦の安全安楽を考えた分娩介助を行う。	福島・松永・富岡・青島中田・疋田・伏見
4	実習方法④ 産褥期・新生児期	1) 産褥入院中の褥婦および新生児の助産過程を展開し、ケアを実施するとともに個別指導計画を立案し、保健指導を行う。 2) 退院後～1か月健診までの間に家庭訪問を行う。 3) 家族計画の個別指導案を立案し、産後1か月健診で家族計画指導を実施する。 4) 産後2～3か月に家庭訪問を行い、対象を取り巻く環境および生活状況を理解し、助産過程に基づいて母親とその家族に対してケアを実施する。	福島・松永・富岡・青島中田・疋田・伏見
5	実習方法⑤ 育児期	1) 産後6か月頃に目安に家庭訪問を行い、対象を取り巻く環境および生活状況を理解し、母親とその家族を含めたケアを実施する。	福島・松永・富岡・青島中田・疋田・伏見

【6】 評価方法

実習態度30%、実習記録50%、出席状況20%で、総合的に評価する。
評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。

【7】 テキスト

—

【8】 参考書

—

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子 fujiko.fukushima@med.toho-u.ac.jp
松永佳子 papermw@med.toho-u.ac.jp
富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp
青島恵美子 emiko.aoshima@med.toho-u.ac.jp
中田かおり kaori.nakada@med.toho-u.ac.jp
疋田仁美 hitomi.hikida@med.toho-u.ac.jp
伏見枝莉 eri-fushimi@ns.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島富士子 毎週月曜日 10:00～11:00
松永佳子 毎週月曜日 8:00～9:00
富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00
青島恵美子 毎週月曜日 10:00～11:00
中田かおり 毎週月曜日 12:00～13:00
疋田仁美 毎週月曜日 12:00～13:00
伏見枝莉 毎週月曜日 12:00～13:00

【11】 特記事項

妊娠、産褥、新生児期のケア計画および指導案の準備
助産学特論Ⅰ～Ⅴ、助産学演習Ⅰ、Ⅱの単位を修得見込みであること。

科目名称	助産学実習Ⅱ（分娩介助実習）	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Midwifery PracticumⅡ	選択	実習	1年次・春	6単位	270時間
科目責任者	富岡 由美					
担当教員	富岡由美（看護学研究科・准教授）松永佳子（看護学研究科・准教授） 青島恵美子（看護学研究科・講師）中田かおり（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教）伏見枝莉（看護学部・助教）					

【1】 教育目標

1. 分娩期の産婦と胎児に、助産診断と助産技術を用いて安全で安楽な分娩介助が実施できる。
2. 正常か否かの診断やリスク状態にある母子へのケアを対象に助産過程を用いて適切な助産ケアが実施できる。

【2】 授業方針・テーマ

正常分娩の直接介助・間接介助、帝王切開事例、吸引・鉗子分娩事例、胎児・新生児仮死、などのリスク事例や無痛分娩等について経験する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

1. 実習施設は、東邦大学医療センター大森病院、大森赤十字病院、前村医院とする。
*詳細は演習要項参照
2. 助産過程における助産診断や助産計画、直接・間接分娩介助の評価等は、所定の記録用紙を用いて展開し、終了後まとめて速やかに提出する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	実習方法① 助産過程の展開	原則として母体・胎児共に妊娠期を正常に経過し、分娩が開始した産婦を受け持つ。助産診断のための母体・胎児の情報収集・アセスメントを行い、個別性に応じた分娩各期の助産計画を立案する。	富岡・松永・青島・中田 疋田・伏見
2	実習方法② 産婦のケア	産痛緩和法・呼吸法を用い産婦のリラクゼーションを図ると同時に、分娩促進のためのケアに努める。産婦の精神的な支えとなり、家族の精神的ケアを実施する。	富岡・松永・青島・中田 疋田・伏見
3	実習方法③ 分娩の直接介助	分娩第2期は（医師・助産師の監督のもと）安全・安楽な分娩の直接介助を行う。出生直後の新生児に対しては胎外生活への適応状態を診断し、適切なケアを実施する。	富岡・松永・青島・中田 疋田・伏見
4	実習方法④ 分娩から分娩第4期のケアの実施	分娩第4期は分娩第3期までの情報をもとに、助産診断および助産計画を立案し、母子の早期接触、母乳栄養確立に向けてのケアを実施する。	富岡・松永・青島・中田 疋田・伏見
5	実習方法⑤ 間接介助	間接介助（直接介助者の補助、分娩中の母体のケア、新生児の測定・ケア等）を経験する。	富岡・松永・青島・中田 疋田・伏見
6	実習方法⑥ 胎盤計測	娩出された胎盤を測定し、母子の評価を行う。	富岡・松永・青島・中田 疋田・伏見
7	実習方法⑦ 新生児のケア	出生児の胎外生活を促進するケアを実施する。	富岡・松永・青島・中田 疋田・伏見
8	実習方法⑧ 正常逸脱に対する対処	帝王切開事例の術前・術後の管理、吸引や鉗子分娩の適応やその介助法について学ぶ。分娩時出血等の分娩時の異常の対処法について学ぶ。会陰切開や裂傷の縫合術について学ぶ。	富岡・松永・青島・中田 疋田・伏見
9	実習方法⑨ 周産期医療チームの連携	ハイリスク分娩における実際と、周産期医療チームの連携について学ぶ。	富岡・松永・青島・中田 疋田・伏見

【6】 評価方法

実習態度20%、実習記録40%、実習評価表40%で総合的に評価する。
評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。

【7】 テキスト

実習前に指定する。

【8】 参考書

実習前に指定する。

【9】 科目担当者連絡先

松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp
富岡由美yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp
青島恵美子emiko.aoshima■med.toho-u.ac.jp
中田かおりkaori.nakada■med.toho-u.ac.jp
疋田仁美hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp
伏見枝莉eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

松永佳子毎週月曜日？8:00～9:00
富岡由美毎週月曜日10:00～11:00
青島恵美子毎週月曜日10:00～11:00
中田かおり毎週月曜日12:00～13:00
疋田仁美毎週月曜日12:00～13:00
伏見枝莉毎週月曜日12:00～13:00

【11】 特記事項

分娩介助技術の復習をすること。
助産学特論Ⅰ～Ⅴ、助産学演習Ⅰ、Ⅱの単位を修得見込みであること。

科目名称	助産学実習Ⅲ（コミュニティヘルス）	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Midwifery PracticumⅢ	選択	実習	1年次・秋	2単位	90時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子（看護学研究科・教授） 松永佳子（看護学研究科・准教授） 富岡由美（看護学研究科・准教授） 青島恵美子（看護学研究科・講師） 中田かおり（看護学研究科・講師） 疋田仁美（看護学部・助教） 伏見枝莉（看護学部・助教）					

【1】 教育目標

1. コミュニティにおける母子保健活動に参加し地域の特性を把握することにより、地区診断をすることができる。
2. 地域における母子の健康問題を踏まえ、安心して子育てができる母子保健のあり方を説明できる。
3. 学童期・思春期にある男女および成熟期にある女性を対象にした健康教育プログラムを作成し、実施評価できる。

【2】 授業方針・テーマ

地域の母子保健事業や母子ケア活動、健康教育に参加する。学生自身も実際に健康教育を実施し、評価する。さらに、地域における助産師の役割について考察する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

助産所実習と病院実習をローテーションしながら実施する。対象者に合わせた健康教育を企画し実施する。
実習施設

1. 助産院：バースあおば、みやした助産院
 2. 産後ケアセンター：世田谷区立産後ケアセンター
 3. 健康教育を実施する施設：大田区立開桜小学校、大田区立蒲田中学校、前村医院
- ※助産学実習ⅢとⅣを組み合わせる。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	助産所における実習	1) 助産所の所在地の地区診断を行い、母子保健の現状および女性の健康問題等について分析する。 2) 地区診断に基づいた助産ケアのプログラムを企画し、実施および評価を行う。 3) 助産所で実施されている出産準備教室、産後の健康教室、各種子育て支援活動および家庭訪問を実施する。	福島・松永
2	育児期における支援	1) 育児教室に参加し、産後の母子保健活動を体験する。 2) 地域における子育て支援などの母子保健事業の実際を見学する。	福島・松永
3	家庭訪問	継続ケースの家庭訪問を行い、離乳食の指導および育児相談を実施する。	福島・富岡・青島・中田・伏見・疋田
4	医療施設・医療機関とのカンファレンス	継続的な支援が必要な事例のカンファレンスに参加し、関係機関との情報交換やネットワークの実際を体験する。	福島・松永
5	健康教育の企画と実施	ピアカウンセリングの技法を用いて、学童期から思春期にある対象に対する性教育を実施する。また、妊産婦に対する健康教育として、母親学級の企画・運営を実施する。	福島・富岡・青島・中田・伏見・疋田

【6】 評価方法

課題への取り組み30%、レポート30%、実習記録30%、出席状況10%で、総合的に評価する。
評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。レポートについてはA、B、C3段階で評価し、返却する。

【7】 テキスト

必要時提示する。

【8】 参考書

必要時提示する。

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子 fujiko.fukushima@med.toho-u.ac.jp
松永佳子 papermw@med.toho-u.ac.jp
富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp
青島恵美子 emiko.aoshima@med.toho-u.ac.jp
中田かおり kaori.nakada@med.toho-u.ac.jp
疋田仁美 hitomi.hikida@med.toho-u.ac.jp
伏見枝莉 eri-fushimi@ns.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島富士子 毎週月曜日 10:00～11:00
松永佳子 毎週月曜日 8:00～9:00
富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00
青島恵美子 毎週月曜日 10:00～11:00
中田かおり 毎週月曜日 12:00～13:00
疋田仁美 毎週月曜日 12:00～13:00
伏見枝莉 毎週月曜日 12:00～13:00

【11】 特記事項

授業科目に関する春学期に学習した内容について復習しておくこと。
助産学特論Ⅰ～Ⅷ、助産学演習Ⅰ、Ⅱの単位を修得見込みであること。

科目名称	助産学実習Ⅳ（助産管理）	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Midwifery PracticumⅣ	選択	実習	1年次・秋	2単位	90時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島 富士子（看護学研究科・教授） 富岡 由美（看護学研究科・准教授） 中田 かおり（看護学研究科・講師） 伏見 枝莉（看護学部・助教）		松永 佳子（看護学研究科・准教授） 青島 恵美子（看護学研究科・講師） 足田 仁美（看護学部・助教）			

【1】 教育目標

1. 助産管理に必要な管理の原則と技法にそって、それぞれの施設の助産業務の範囲と助産管理の特性を妊産婦管理や新生児医療・ケアに参画し、その管理方法の特徴を述べることができる。
2. 施設内、施設間、地域社会において、助産実践と保健・医療・福祉の連携のあり方を説明できる。
3. 組織変革の方策、手順について説明できる。
4. ハイリスク妊産婦の助産過程を展開し、適切な助産ケアが実施できる。

【2】 授業方針・テーマ

主に助産管理に焦点を合わせた実習を行う。業務形態や出産ケアの異なる大学病院と助産所の助産管理上の特徴を、現在の医療環境における位置づけをふまえ、メリット、デメリットを考えながら実習をする。最終的には、様々な出産施設の特徴をふまえた施設内での連携のあり方、さらに保健・医療・福祉等の関連機関との連携のあり方を追究する。ハイリスク妊産婦の管理についても、実際のケアを通じて、経験する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

病院、クリニック、助産院、産後ケアセンターをローテーションしながら実習を行う。

実習施設

1. 病院：東邦大学医療センター大森病院、東邦大学医療センター佐倉病院、愛育病院
2. クリニック：上大岡こどもクリニック
3. 助産院：バースあおば、みやした助産院
4. 産後ケアセンター：世田谷区立産後ケアセンター

※助産学実習ⅢとⅣを組み合わせる。

※佐倉病院、助産院実習は宿泊を伴う。宿泊にかかる費用は学生の実費負担とする。

※詳細は、別途要項を参照のこと。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	病院	1) 地域周産期母子医療センターとしての役割を果たすための助産管理の実際を見学する。 2) 指定の日時のスタッフの配置について考えることができる。 3) 緊急時の医師との連携について事例を用いて、リスクマネジメントに関する事例検討を行う。 4) ハイリスクケースの地域連携の実際を見学する。 5) ハイリスク妊産婦の助産過程を展開し、適切な助産ケアが実施できる。	福島・松永
2	助産院	1) 助産所の助産管理の実際についてオリエンテーションを受け、法的根拠に基づく管理・運営の実際について学ぶ。 2) 助産所の助産実践と地域活動（集団活動・育児サークル、各種学級等）に参加する。 3) 医療安全の確保と医療事故への対応と関連機関等の連携について学ぶ。 4) 助産所においてカンファレンスを行い、緊急時および切れ目ない妊娠、出産、育児をするための協働、連携について学びを深め、共有する。	福島・松永
3	産後ケアセンター	1) 産褥期にある家族のケアを行う上で必要となる施設内の医療専門職や地域関連機関との連携のあり方を見学する。	福島・松永
4	クリニック	1) 組織変革の方策、手順について説明を受け、分娩介助実習をした施設における課題を解決するための方策を検討する。	福島・松永

【6】 評価方法

事前の課題と事後の課題（30%）、実習記録・カンファレンス資料（50%）、実習態度（20%）で総合的に評価する。

実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。

評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。レポートについてはA、B、Cの3段階で評価し、返却する。

【7】 テキスト

別途、必要時に提示する。

【8】 参考書

別途、必要時に提示する。

【9】 科目担当者連絡先

福島 富士子 fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp
松永 佳子 papermw■med.toho-u.ac.jp
富岡 由美 yumi.tomioka■med.toho-u.ac.jp
青島 恵美子 emiko.aoshima■med.toho-u.ac.jp
中田 かおり kaori.nakada■med.toho-u.ac.jp
疋田 仁美 hitomi.hikida■med.toho-u.ac.jp
伏見 枝莉 eri-fushimi■ns.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島	富士子	毎週月曜日	10:00~11:00
松永	佳子	毎週月曜日	8:00~ 9:00
富岡	由美	毎週月曜日	10:00~11:00
青島	恵美子	毎週月曜日	10:00~11:00
中田	かおり	毎週月曜日	12:00~13:00
疋田	仁美	毎週月曜日	12:00~13:00
伏見	枝莉	毎週月曜日	12:00~13:00

【11】 特記事項

授業科目に関する内容について、春学期に学習した内容について復習しておくこと。

科目名称	臨床看護学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Clinical Nursing I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	原 三紀子					
担当教員	原三紀子（看護学研究科・教授）山内英樹（看護学研究科・講師）佐藤由紀子（看護学研究科・講師）					

【1】 教育目標

【2】 授業方針・テーマ

プレゼンテーション、ディスカッションを中心に授業展開を行う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

プレゼンテーションおよびディスカッションを中心に授業展開する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	原
2	発達段階・健康レベルに応じた対象の看護①	臨床看護学概論	原
3 - 6	発達段階・健康レベルに応じた対象の看護①～④	臨床看護領域における対象の健康レベルの特徴と看護	原・山内・佐藤
7	臨床看護学に有用な理論・概念①	セルフケア	原
12 - 13	家族看護①②	家族アセスメント	佐藤
14 - 15	臨床看護学の動向と課題	プレゼンテーション	原・山内・佐藤

【6】 評価方法

授業への取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート80%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【7】 テキスト

参考文献は、開講時に提示する。

【8】 参考書

参考文献は、開講時に提示する。

【9】 科目担当者連絡先

原三紀子 mikiko.hara@med.toho-u.ac.jp
山内英樹 hideki.yamauchi@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45 - 13:00

【10】 特記事項

主体的な参加を期待する。

【11】 特記事項

科目名称	臨床看護学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Clinical Nursing Ⅱ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	原 三紀子					
担当教員	原三紀子(看護学研究科・教授) 山内英樹(看護学研究科・講師) 佐藤由紀子(看護学研究科・講師)					

【1】 教育目標

【2】 授業方針・テーマ

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

プレゼンテーションおよびディスカッションを中心に授業展開する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	原
2	健康問題を抱える対象の看護①	生命の危機状態にある対象の理解	山内
6	健康を支える学習支援①	成人学習理論の基づく学習支援①	原
11 - 14	健康を支えるための学習支援-教育的介入の実際①-④	事例検討・プレゼンテーション	原・佐藤
15	まとめ	学習内容のまとめ	原

【6】 評価方法

授業への取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【7】 テキスト

参考文献は、開講時に提示する。

【8】 参考書

参考文献は、開講時に提示する。

【9】 科目担当者連絡先

原三紀子 mikiko.hara@med.toho-u.ac.jp
山内英樹 hideki.yamauchi@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45 - 13:00

【11】 特記事項

主体的な参加を期待する。

科目名称	臨床看護学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Clinical Nursing I	選択	演習	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	原 三紀子					
担当教員	原三紀子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

臨床看護学領域における各自の関心領域の課題を中心に質的研究・量的研究の文献クリティークを行う。このプロセスを通して研究を遂行するための視点を養う。関心あるテーマを選択し、フィールドワークを行うための計画書を作成する。

【2】 授業方針・テーマ

プレゼンテーションおよびディスカッションを中心に授業展開する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

プレゼンテーションおよびディスカッションを中心に授業展開する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	原

【6】 評価方法

授業へ取り組み20%・プレゼンテーション40%・レポート40%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【7】 テキスト

参考文献は、開講時に提示する。

【8】 参考書

参考文献は、開講時に提示する。

【9】 科目担当者連絡先

原三紀子 mikiko.hara@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45 - 13:00

【11】 特記事項

主体的な参加を期待する。

科目名称	臨床看護学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Clinical Nursing Ⅱ	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	原 三紀子					
担当教員	原三紀子(看護学研究科・教授) 山内英樹(看護学研究科・講師)					

【1】 教育目標

各自が計画立案したフィールドワークを通して研究テーマの妥当性を検討する。また、フィールドワークの振り返りを通して研究を遂行する上での自己の課題を明らかにする。フィールドワークの結果を研究計画書の作成につなげる。

【2】 授業方針・テーマ

プレゼンテーション、ディスカッション、フィールドワークを行う。ゼミ形式で討議する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

フィールドワーク、プレゼンテーション、ディスカッションによって授業展開する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション学習計画の立案	原
2	フィールドワーク演習①	フィールドワーク計画書の発表	原・山内
3	フィールドワーク演習②	フィールドワーク計画書の修正	原・山内
4	フィールドワーク演習③	フィールドワーク①	原
5	フィールドワーク演習④	フィールドワーク②	原
6	フィールドワーク演習⑤	フィールドワーク③	原
7	フィールドワーク演習⑥	フィールドワーク中間評価	原・山内
8	フィールドワーク演習⑦	フィールドワーク④	原
9	フィールドワーク演習⑧	フィールドワーク⑤	原
10	フィールドワーク演習⑨	フィールドワーク⑥	原
11	フィールドワーク演習⑩	フィールドワーク⑦	原
12	フィールドワーク演習⑪	フィールドワーク評価①	原・山内
13	フィールドワーク演習⑫	フィールドワーク評価②	原・山内
14	フィールドワーク演習⑬	研究課題の明確化	原
15	フィールドワーク演習⑭	研究計画書の作成の作成	原

【6】 評価方法

フィールドワーク40%、プレゼンテーション40%、ディスカッション20%によって授業展開する。課題レポートの評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【7】 テキスト

参考文献は、開講時に提示する。

【8】 参考書

参考文献は、開講時に提示する。

【9】 科目担当者連絡先

原三紀子mikiko.hara@med.toho-u.ac.jp
山内英樹hideki.yamauchi@med.toho-u.ac.jp

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:45-13:00

【11】 特記事項

主体的な参加を期待する。

科目名称	がん看護学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Cancer Nursing I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. がん看護を実践するための基盤となるストレス・コーピング理論、危機理論、がんサバイバーシップ、エンパワーメント、不確かさ理論、家族理論などの諸理論の基礎的概念を学び、知識を深める。
2. 諸理論を概念枠組みとして用いている論文のクリティークや事例検討を通して概念の実践への応用を検討する。
3. 諸理論の臨床での応用について看護実践・研究・教育の視点をふまえて分析・考察し、がん患者および家族に対する看護援助の方略を探究する。

【2】 授業方針・テーマ

がん看護に関する代表的な概念について理解を深め、論文のクリティークを通して概念の実践への応用を検討することができるよう進めていく。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	理論について	がん看護を実践するための基盤となる理論、Readingassignmentの紹介	村上
2	ストレス・コーピング理論①	ストレス・コーピング理論（セリエの一般適応症候群、ラザルスのコーピング理論）の理解と実践への活用	村上
3	ストレス・コーピング理論②	ストレス・コーピング理論（セリエの一般適応症候群、ラザルスのコーピング理論）の理解と実践への活用	村上
4	危機理論①	危機理論（フィンクの危機モデル、アギユレラとメズィックの問題解決モデル）の理解と実践への活用	村上
5	危機理論②	危機理論（フィンクの危機モデル、アギユレラとメズィックの問題解決モデル）の理解と実践への活用	村上
6	がんサバイバーシップ①	がんサバイバーシップの概念の理解と実践への活用	村上
7	がんサバイバーシップ②	がんサバイバーシップの概念の理解と実践への活用	村上
8	エンパワーメント①	エンパワーメント（パワーレスの状況、個人およびコミュニティのエンパワーメント）の理解と実践への活用	村上
9	エンパワーメント②	エンパワーメント（パワーレスの状況、個人およびコミュニティのエンパワーメント）の理解と実践への活用	村上
10	不確かさ理論①	不確かさ理論（ミッシェルの概念モデル、意味づけの困難感）の理解と実践への活用	村上
11	不確かさ理論②	不確かさ理論（ミッシェルの概念モデル、意味づけの困難感）の理解と実践への活用	村上
12	家族理論①	家族理論（カルガリー家族看護モデル、社会システム）の理解と実践への活用	村上
13	家族理論②	家族理論（カルガリー家族看護モデル、社会システム）の理解と実践への活用	村上
14	がん看護の課題と今後の展望	諸理論を用いたがん看護専門看護師としての活動戦略の構築	村上
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

事前に提示された文献を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	がん看護学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Cancer NursingⅡ	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）					

【1】 教育目標

- 各療養場面にそって、がん治療によりもたらされた身体的・精神的苦痛や、がんの進行に伴って生じてくる身体活動の制限、サバイバーの抱える問題など特有の諸問題に対して、対象者が適切なペースで機能を維持・回復（リハビリテーション）することができるような看護支援方法を習得する。
- 患者や家族、サバイバー、そして遺族が抱える課題は、がん療養時期とともに変化することを理解し、継続的かつ包括的な視点での看護支援方法について科学的根拠に基づいて検討する。
- がん患者および家族やがんサバイバーがおかれている状況を多角的な視点で分析し、対象者のセルフケア能力を見極めて柔軟に看護援助を展開できる高度な実践能力を養う。

【2】 授業方針・テーマ

がんの療養過程全般および遺族に対する継続看護について文献をクリティックして考察し、各自のサブスペシャリティ領域での継続看護に関する科学的・系統的な支援方法を探求する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

課題について文献抄読を行い、資料を作成し、プレゼンテーションおよび討論を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	がんの療養過程全般および遺族に対する継続看護について	日常生活動作・日常生活関連動作の特徴とアセスメント方法、筋力・体力低下の予防方法と離床支援の方法など基本的な看護支援	村上
2	診断前後の患者および家族に対する看護①	初発症状の医学的査定方法と日常生活活動への影響に関するアセスメント方法、診断前後の患者および家族に対する精神的な看護支援	村上
3	診断前後の患者および家族に対する看護②	初発症状の医学的査定方法と日常生活活動への影響に関するアセスメント方法、診断前後の患者および家族に対する精神的な看護支援	村上
4	診断前後の患者および家族に対する看護③	初発症状の医学的査定方法と日常生活活動への影響に関するアセスメント方法、診断前後の患者および家族に対する精神的な看護支援	村上
5	積極的治療中にある患者および家族に対する看護①	積極的治療中（がん薬物療法・放射線療法）の影響による活動量低下のアセスメント方法、活動量低下による廃用症候群予防・改善のためのリハビリテーションと看護支援	村上
6	積極的治療中にある患者および家族に対する看護②	積極的治療中（がん薬物療法・放射線療法）の影響による活動量低下のアセスメント方法、活動量低下による廃用症候群予防・改善のためのリハビリテーションと看護支援	村上
7	がんサバイバーに対する看護①	治療により器質的・機能的変化が生じたがんサバイバーの自律能力、セルフケア能力向上のための看護支援	村上
8	がんサバイバーに対する看護②	治療により器質的・機能的変化が生じたがんサバイバーの自律能力、セルフケア能力向上のための看護支援	村上
9	再発・転移の生じた患者および家族に対する看護①	局所から全身へという治療展開やがんの集学的治療における有害事象、体力低下と廃用症候群、などの身体活動制限に対するリハビリテーションと看護支援	村上
10	再発・転移の生じた患者および家族に対する看護②	局所から全身へという治療展開やがんの集学的治療における有害事象、体力低下と廃用症候群、などの身体活動制限に対するリハビリテーションと看護支援	村上
11	終末期にある患者および家族、遺族に対する看護①	終末期患者のADL査定や呼吸困難・浮腫に対するリハビリテーション方法と看護支援、家族や遺族の喪失への精神的な看護支援	村上
12	終末期にある患者および家族、遺族に対する看護②	終末期患者のADL査定や呼吸困難・浮腫に対するリハビリテーション方法と看護支援、家族や遺族の喪失への精神的な看護支援	村上
13	スタッフに対する精神的支援①	がん患者や家族をケアするスタッフの精神的側面への支援の必要性と実際	村上
14	スタッフに対する精神的支援②	がん患者や家族をケアするスタッフの精神的側面への支援の必要性と実際	村上
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

事前に提示された文献を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	がん看護学特論Ⅲ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Cancer NursingⅢ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵 (看護学研究科・教授) 若山恵 (大森病院・講師) 赤木究 (埼玉県立がんセンター・腫瘍診断・予防科科長兼部長) 内藤拓 (医学部・准教授)					

【1】 教育目標

1. がんのなりたちについて、分子生物学、腫瘍遺伝学、がん免疫学などの基礎知識をもとに学ぶ。
2. がん組織の病理学的・臨床的特徴と症状との関連を理解し、日常診療で行われている検査や診断の意義を学ぶ。
3. がん疫学とがん予防の動向を理解し、がん看護専門看護師の役割について検討する。

【2】 授業方針・テーマ

がん看護専門看護師として専門的な知識を深めるために必要ながんの分子生物学、遺伝学、免疫学、病理学などを含む病態生理学の基礎から臨床までの広範な知見とがん疫学の最新の情報を教授する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義およびゼミ形式で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	腫瘍に関する知識の必要性	がん看護専門看護師に求められる専門性	村上
2	がん医療の動向	がん医療の動向と専門的な知識を求められているがん看護専門看護師の役割	村上
3	発がんのメカニズム①	がんの形態・分類、発がん・進展・再発・転移のメカニズムの基本知識	赤木
4	発がんのメカニズム②	がんの形態・分類、発がん・進展・再発・転移のメカニズムの基本知識	赤木
5	がんの分子生物学①	がん遺伝子とがん抑制遺伝子、がん細胞の分裂・増殖・細胞死のメカニズム、各臓器がんと遺伝子異常との関連	赤木
6	がんの分子生物学②	がん遺伝子とがん抑制遺伝子、がん細胞の分裂・増殖・細胞死のメカニズム、各臓器がんと遺伝子異常との関連	赤木
7	腫瘍遺伝学①	腫瘍遺伝学概論、遺伝子診断などのヒトの遺伝に関連する基礎知識	村上
8	腫瘍遺伝学②	腫瘍遺伝学概論、遺伝子診断などのヒトの遺伝に関連する基礎知識	村上
9	がん免疫学①	がん免疫応答の基礎知識、サイトカインに関する最新の情報とがん治療との関連	内藤
10	がん免疫学②	がん免疫応答の基礎知識、サイトカインに関する最新の情報とがん治療との関連	内藤
11	がんの病理学①	腫瘍の形態学的特徴 (肉眼像と組織像、良性腫瘍と悪性腫瘍、癌と肉腫)	若山
12	がんの病理学②	がん臨床のなかの病理診断 (標本作製、細胞診と組織診、分子標的治療と病理診断、病理所見と臨床症状との関連)	若山
13	がん疫学①	がんの疫学、発生要因と今後のがん予防医療における課題	村上
14	がん疫学②	がんの疫学、発生要因と今後のがん予防医療における課題	村上
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

事前に提示された課題を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	がん看護学特論Ⅳ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Cancer NursingⅣ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵 (看護学研究科・教授) 船橋公彦 (大森病院・教授) 桐林孝治 (大橋病棟・助教) 有賀智之 (都立駒込病院乳腺外科・医長) 岡元み子 (社会医療法人木下会千葉西総合病院・外来化学療法センター長) 加藤裕久 (昭和大学薬学部・教授)					

【1】 教育目標

1. 死亡原因上位を占める肺がん、乳がん、大腸がん、造血器腫瘍などの代表的な疾患を中心に科学的根拠に基づいた最新の治療方法に関する知識（手術療法、薬物療法、放射線療法、緩和ケアなど）を学び、知識を深める。
2. 治療侵襲からの回復を促進する看護について高度実践レベルの援助方法を探究する。
3. がん治療・症状マネジメントに活用される主たる薬剤の薬理作用・作用機序・適応について深く知識を習得し、モニタリングや患者の服薬管理能力の向上などを実践できる能力を習得する。
4. 事例検討を通して、包括的な支援を提供できるように、看護援助の方法について探究する。

【2】 授業方針・テーマ

がんの診断・治療の原理と最新の治療法に関する情報を習得し、その状況に応じた患者および家族への看護援助方法を探究する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義、事例検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	がん治療法のアップデート (肺がん) ①	肺がんに関する最新の治療方法 (縮小手術、遺伝子変異解析と抗がん剤の選択)	桐林
2	がん治療法のアップデート (肺がん) ②	肺がんに関する最新の治療方法 (縮小手術、遺伝子変異解析と抗がん剤の選択)	桐林
3	事例検討①	肺がん事例の検討を通して包括的な看護介入方法の探究	村上
4	がん治療法のアップデート (乳がん) ①	乳がん (散発性・遺伝性) に関する最新の治療方法	有賀
5	がん治療法のアップデート (乳がん) ②	乳がん (散発性・遺伝性) に関する最新の治療方法	有賀
6	事例検討②	乳がん事例の検討を通して包括的な看護介入方法の探究	村上
7	がん治療法のアップデート (大腸がん) ①	大腸がん (散発性・遺伝性) に関する最新の治療方法	船橋
8	がん治療法のアップデート (大腸がん) ②	大腸がん (散発性・遺伝性) に関する最新の治療方法	船橋
9	がん治療支援における看護 の役割開発	遺伝性腫瘍 (乳がん、大腸がん) の家系の患者や家族に対する専門的な看護支援とその実際	村上
10	がん治療法のアップデート (造血器腫瘍) ①	がん化学療法による治療効果の評価、造血器腫瘍に対する主要な薬物療法レジメン (プロトコルの開発経緯、適応/与薬方法と与薬時の注意点、副作用の出現の仕方と特徴、レジメンに伴う支持療法など)	岡元
11	がん治療法のアップデート (造血器腫瘍) ②	がん化学療法による治療効果の評価、造血器腫瘍に対する主要な薬物療法レジメン (プロトコルの開発経緯、適応/与薬方法と与薬時の注意点、副作用の出現の仕方と特徴、レジメンに伴う支持療法など)	岡元
12	事例検討③	造血器腫瘍事例の検討を通して包括的な看護介入方法の探究	村上
13	がんの薬物療法①	抗がん剤の臨床薬理 (代表的な抗がん剤の作用機序、抗がん剤のPK/PD)、薬物の相互作用と有害作用、疼痛緩和ケア領域における医薬品情報の活用	加藤
14	がんの薬物療法②	抗がん剤の臨床薬理 (代表的な抗がん剤の作用機序、抗がん剤のPK/PD)、薬物の相互作用と有害作用、疼痛緩和ケア領域における医薬品情報の活用	加藤
15	高度看護実践への応用	治療侵襲からの回復を促進する包括的な支援方法による高度看護実践の方略を探究する	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

事前に提示された課題を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	がん看護学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Cancer Nursing I	選択	演習	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵 (看護学研究科・教授) 秋月伸哉 (都立駒込病院精神腫瘍科・メンタルクリニック・部長)					

【1】 教育目標

1. 人々が身体に現れた症状をどのように認知するのか、症状の体験の理解とそのマネジメントの考え方、評価の方法について、セルフケア理論を基盤としている症状マネジメントモデルをもとに理解し、実践への適用を検討する。
2. がん患者にみられる主な症状（疼痛、呼吸困難、倦怠感、嘔気・嘔吐、不安・抑うつ・せん妄）のメカニズムおよび評価方法に関する知識を学び、緩和するための看護支援を習得する。
3. 今までに実施した症状緩和の看護について症状マネジメントモデルを用いて事例検討する。

【2】 授業方針・テーマ

がんそのものやがん治療にもなって生じる症状について発現メカニズムを理解し、がんとともに生きる患者や家族が体験する苦痛の緩和のための看護学的アプローチを探究する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

課題について資料を作成し、プレゼンテーションを行い、討議する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	症状マネジメントモデル	がん看護専門看護師として症状マネジメント能力を習得することの必要性、Readingassignmentの紹介	村上
2	症状マネジメントモデルの概要	セルフケア理論を基盤としている症状マネジメントモデルの開発経緯と臨床応用の実際	村上
3	症状の理解と看護支援（疼痛）①	疼痛の発現メカニズムの理解と、疼痛によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
4	症状の理解と看護支援（疼痛）②	疼痛の発現メカニズムの理解と、疼痛によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
5	症状の理解と看護支援（呼吸困難）①	呼吸困難の発現メカニズムの理解と、呼吸困難によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
6	症状の理解と看護支援（呼吸困難）②	呼吸困難の発現メカニズムの理解と、呼吸困難によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
7	症状の理解と看護支援（倦怠感）①	倦怠感の発現メカニズムの理解と、倦怠感によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
8	症状の理解と看護支援（倦怠感）②	倦怠感の発現メカニズムの理解と、倦怠感によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
9	症状の理解と看護支援（嘔気・嘔吐）①	嘔気・嘔吐の発現メカニズムの理解と、嘔気・嘔吐によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
10	症状の理解と看護支援（嘔気・嘔吐）②	嘔気・嘔吐の発現メカニズムの理解と、嘔気・嘔吐によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	村上
11	症状の理解と看護支援（不安・抑うつ・せん妄）①	不安・抑うつ・せん妄の発現メカニズムの理解と、不安・抑うつ・せん妄によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	秋月
12	症状の理解と看護支援（不安・抑うつ・せん妄）②	不安・抑うつ・せん妄の発現メカニズムの理解と、不安・抑うつ・せん妄によって影響を受ける日常生活動作のセルフケア能力に対するアセスメント方法と看護支援	秋月
13	事例検討①	症状マネジメントモデルを用いた実践への適用	村上
14	事例検討②	症状マネジメントモデルを用いた実践への適用	村上
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

事前に提示された課題を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	がん看護学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Cancer NursingⅡ	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵 (看護学研究科・教授) 辻哲也 (慶應義塾大学医学部・准教授)					

【1】 教育目標

- 治療によってもたらされた器質的・機能的変化について、病態生理や解剖学的変化と、その変化に伴って生じる生活への影響を理解し、リハビリテーションの専門的な知識や技術を学び、維持・改善、および患者のセルフケア能力の向上のためのがんリハビリテーション看護の方略について探究する。
- 治療に続発する器質的・機能的変化がもたらす精神的・社会的影響を理解し、予防的介入、あるいは早期発見し効果的な介入を行うための看護実践能力を養う。
- 作成したがんリハビリテーション看護の方略についてフィールド演習を通して改良し、高度看護実践実習において活用できるように検討を重ねる。

【2】 授業方針・テーマ

治療中の患者および家族やがんサバイバーの生活の質を高めるための身体的・心理的・社会的かつ多角的な視点でがんリハビリテーション看護の方略を探究する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義、事例検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	がんリハビリテーションについて	がんリハビリテーション看護について	村上
2	がんリハビリテーションの概要	:セルフケア能力やQOL向上のためのリハビリテーションの役割	辻
3	がん治療とリハビリテーション①	摂食・嚥下障害、発声障害、高次機能障害をもたらし器質的・機能的変化とリハビリテーションの実際	村上
4	がん治療とリハビリテーション②	摂食・嚥下障害、発声障害、高次機能障害をもたらし器質的・機能的変化とリハビリテーションの実際	村上
5	がん治療とリハビリテーション③	がん治療がリンパ系に与える影響と病態生理や診断方法・治療方法、造血幹細胞移植時のリハビリテーションの実際	村上
6	がん治療とリハビリテーション④	がん治療がリンパ系に与える影響と病態生理や診断方法・治療方法、造血幹細胞移植時のリハビリテーションの実際	村上
7	緩和ケアにおけるリハビリテーション①	がん性疼痛、骨転移、終末期における身体的リハビリテーションの実際、日常生活動作や生活関連動作へのアプローチの実際、体力低下と廃用症候群	村上
8	緩和ケアにおけるリハビリテーション②	がん性疼痛、骨転移、終末期における身体的リハビリテーションの実際、日常生活動作や生活関連動作へのアプローチの実際、体力低下と廃用症候群	村上
9	精神的リハビリテーション	治療に伴う患者や家族の精神的苦痛のアセスメント方法と介入方法およびコミュニケーション・スキルの訓練	村上
10	社会的リハビリテーション	がんサバイバーの生活の質を高めるための社会的リハビリテーションの実際	村上
11	フィールド演習①	フィールド演習を通して、がん患者に必要ながんリハビリテーション看護の方略を作成する。	村上
12	フィールド演習②	フィールド演習を通して、がん患者に必要ながんリハビリテーション看護の方略を作成する。	村上
13	事例検討①	作成したがんリハビリテーション看護の方略を検討し、ディスカッションを通して改良する。	村上
14	事例検討②	作成したがんリハビリテーション看護の方略を検討し、ディスカッションを通して改良する。	村上
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

事前に提示された課題を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	がん看護学演習Ⅲ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Cancer NursingⅢ	選択	演習	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵 (看護学研究科・教授) 寺原敦朗 (大森病院放射線科・教授) 中村陽一 (大森病院緩和ケアセンター・准教授) 藤本美生 (兵庫県粒子医療センター・がん看護専門看護師) 田代真理 (JCHO東京新宿メディカルセンター・がん看護専門看護師)					

【1】 教育目標

1. がん患者の日常生活のQOLの維持・改善を図るために、対象者のセルフケア能力のアセスメント方法と継続的かつ包括的な緩和ケアの方略を習得する。
2. 通院治療や在宅療養を受ける患者の治療継続に関する医学的判断を学び、ケア (care) とキュア (cure) を融合させた高度な知識と技術について習得し看護実践として提供できる能力を養う。
3. 各学生のサブスペシャリティ領域における継続的かつ包括的な支援を提供するための看護介入モデルを作成し、高度看護実践実習において活用できるよう検討を重ねる。
4. 他職種と連携・協働しながら支援するチームアプローチモデルを開発する。

【2】 授業方針・テーマ

高度看護実践のあり方について講義、文献検討、演習、事例検討などを通して探究する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義、事例検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	日常生活のQOLの拡大支援方法と看護の専門性	対象者のセルフケア能力をアセスメントする方法を習得することの必要性・ケア (care) とキュア (cure) を融合させた継続的かつ包括的な緩和ケアの方略を開発することの必要性	村上
2	がん放射線療法に伴う有害事象に関する医学的判断①	有害事象のアセスメント、有害事象に対する皮膚保護剤や栄養補助剤の適切な処方、治療遂行判断基準、皮膚炎予防と症状緩和の方法	寺原
3	がん放射線療法に伴う有害事象に関する医学的判断②	有害事象のアセスメント、有害事象に対する皮膚保護剤や栄養補助剤の適切な処方、治療遂行判断基準、皮膚炎予防と症状緩和の方法	寺原
4	通院治療を受ける患者への看護支援①	がん放射線療法を受ける患者の療養生活支援するためのアセスメント方法と高度な看護支援方法	藤本
5	通院治療を受ける患者への看護支援②	がん放射線療法を受ける患者の療養生活支援するためのアセスメント方法と高度な看護支援方法	藤本
6	緩和医療を受ける患者の身体症状に関する医学的判断①	全身状態、栄養状態、日常生活動作、疼痛、倦怠感、浮腫などの診察方法と対処方法 (適切な薬物投与など)	中村
7	緩和医療を受ける患者の身体症状に関する医学的判断②	全身状態、栄養状態、日常生活動作、疼痛、倦怠感、浮腫などの診察方法と対処方法 (適切な薬物投与など)	中村
8	在宅医療を受ける患者への看護支援①	生活に基盤をおいたセルフマネジメントを支援するための統合的アセスメント方法と高度な看護支援方法 (栄養摂取、排泄、清潔保持、日常生活動作の拡大など)	田代
9	在宅医療を受ける患者への看護支援②	生活に基盤をおいたセルフマネジメントを支援するための統合的アセスメント方法と高度な看護支援方法 (栄養摂取、排泄、清潔保持、日常生活動作の拡大など)	田代
10	フィールド演習①	自らのサブスペシャリティ領域において、対象者の苦痛の緩和や日常生活のQOL維持・改善を目指した継続的かつ包括的な看護を推進する判断能力、実践能力を身につける。	村上
11	フィールド演習②	自らのサブスペシャリティ領域において、対象者の苦痛の緩和や日常生活のQOL維持・改善を目指した継続的かつ包括的な看護を推進する判断能力、実践能力を身につける。	村上
12	フィールド演習③	自らのサブスペシャリティ領域において、対象者の苦痛の緩和や日常生活のQOL維持・改善を目指した継続的かつ包括的な看護を推進する判断能力、実践能力を身につける。	村上
13	モデル作成①	対象者の療養生活に合わせた個別の看護を推進するシステムについて検討し、看護介入モデルを作成する。	村上
14	モデル作成②	対象者の療養生活に合わせた個別の看護を推進するシステムについて検討し、看護介入モデルを作成する。	村上
15	グループ討議	グループ討議を通して、作成した看護介入モデルをチームアプローチモデルへと発展させる	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵 ymura@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:30~13:00

【11】 特記事項

事前に提示された課題を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	高齢者看護学特論I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Gerontological Nursing I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	横井 郁子					
担当教員	横井郁子(看護学研究科・教授) 藤野秀美(看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

1. 老年学、老年医学等、高齢者に関する学問領域を知り、高齢者看護学との関係を理解することができる。
2. 高齢者の健康課題を生活機能の側面で評価・分析できる。

【2】 授業方針・テーマ

看護職者として「高齢者に関心を持つ」「高齢者を知る」ための自分自身の基盤についてまずは振り返り、再構築する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義およびゼミ形式で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	高齢者看護学とは1	老年学、老年医学、そして高齢者看護学 (1)	横井・藤野
2	高齢者看護学とは2	老年学、老年医学、そして高齢者看護学 (2)	横井・藤野
3	高齢者と健康問題1	フレイル・疾患と生活機能1 (食事)	横井・藤野
4	高齢者と健康問題2	フレイル・疾患と生活機能2 (排泄)	横井・藤野
5	高齢者と健康問題3	フレイル・疾患と生活機能3 (活動)	横井・藤野
6	高齢者と健康問題4	フレイル・疾患と生活機能4 (休息)	横井・藤野
7	高齢者と健康問題5	フレイル・疾患と生活機能5 (身じたく)	横井・藤野
8	高齢者と健康問題6	フレイル・疾患と生活機能4 (コミュニケーション)	横井・藤野
9	社会資源の活用と課題1	家族を含むケア提供者について1	横井・藤野
10	社会資源の活用と課題2	家族を含むケア提供者について2	横井・藤野
11	社会資源の活用と課題3	高齢者の住まいの変遷	横井・藤野
12	社会資源の活用と課題4	高齢者にとって「いえ」とは	横井・藤野
13	多職種による高齢者支援のための評価1	文献購読1	横井・藤野
14	多職種による高齢者支援のための評価2	文献購読2	横井・藤野
15	高齢者看護学の役割	プレゼンテーションと討議	横井・藤野

【6】 評価方法

講義への取り組み40%、課題レポート60%。

【7】 テキスト

必要に応じて提示する。

【8】 参考書

必要に応じて提示する。

【9】 科目担当者連絡先

横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【9】 オフィスアワー
毎週木曜日12：30～13：00

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30～13：00

【11】 特記事項

事前に配布される文献等資料をよく読み込んで臨んでください。

科目名称	高齢者看護学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Gerontological Nursing Ⅱ	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	横井 郁子					
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）					

【1】 教育目標

1. 加齢変化をふまえた環境調整について述べるができる。
2. 急性期医療の環境が高齢者に与える影響について述べるができる。
3. 1、2から、より良い環境調整について提案することができる。

【2】 授業方針・テーマ

療養環境をマネジメントする能力の基礎を養う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義およびゼミ形式で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	病院という建物の変遷1	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来1	横井
2	病院という建物の変遷2	ナイチンゲール病棟から現代、そして未来2	横井
3	加齢変化と病院1	感覚系の変化と病院1	横井
4	加齢変化と病院2	感覚系の変化と病院2	横井
5	加齢変化と病院3	運動系・中枢神経系の変化と病院1	横井
6	加齢変化と病院4	運動系・中枢神経系の変化と病院2	横井
7	加齢変化と病院5	認知機能の変化と病院1	横井・藤野
8	加齢変化と病院6	認知機能の変化と病院2	横井・藤野
9	加齢変化とリスク回避	インシデント報告の分析__注射・点滴	横井・藤野
10	加齢変化とリスク回避	インシデント報告の分析__検査	横井・藤野
11	加齢変化とリスク回避	インシデント報告の分析__転倒・転落1	横井・藤野
12	加齢変化とリスク回避	インシデント報告の分析__転倒・転落2	横井・藤野
13	加齢変化とリスク回避	インシデント報告の分析__その他	横井・藤野
14	安全と安心のための環境調整1	プレゼンテーションと討議1	横井・藤野
15	安全と安心のための環境調整2	プレゼンテーションと討議2	横井・藤野

【6】 評価方法

講義への取り組み40%、課題レポート60%。

【7】 テキスト

必要に応じて提示する。

【8】 参考書

必要に応じて提示する。

【9】 科目担当者連絡先

横井郁子 yokoiyk■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:30～13:00

【11】 特記事項

特になし

科目名称	高齢者看護学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Gerontological Nursing I	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	横井 郁子					
担当教員	横井郁子(看護学研究科・教授) 藤野秀美(看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

1. 高齢者看護の実践の場の現状と課題について先行研究から推測することができる。
2. 関心のある看護実践の場に赴き、そこで実施されているヘルスアセスメントおよび看護支援について、フィールドワークを行い柔軟なアセスメント技術の重要性を理解する。

【2】 授業方針・テーマ

高齢者の療養および生活の場の特徴を踏まえたヘルスアセスメントについてその方法も含めて再考する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

事前学習内容に関するプレゼンテーションおよび討議の後、実践現場において上記の実践を行う。実践現場における実践内容に関しては学生自らが行動計画を立て、教員の指導を得て実践に臨む。実践の場への協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療福祉施設における高齢患者を取り巻く諸問題1	文献検討1	横井・藤野
2	医療福祉施設における高齢患者を取り巻く諸問題2	文献検討2	横井・藤野
3	地域・在宅における高齢者を取り巻く諸問題1	文献検討1	横井・藤野
4	地域・在宅における高齢者を取り巻く諸問題2	文献検討2	横井・藤野
5	フィールドワーク計画立案1	関心を持っている看護実践の場のフィールドワーク計画を立案	横井・藤野
6	フィールドワーク計画立案2	フィールドワーク計画の発表	横井・藤野
7	フィールドワーク1	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究1	横井・藤野
8	フィールドワーク2	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究2	横井・藤野
9	フィールドワーク3	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究3	横井・藤野
10	フィールドワーク4	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究4	横井・藤野
11	フィールドワーク5	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究5	横井・藤野
12	フィールドワーク6	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究6	横井・藤野
13	フィールドワーク7	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究7	横井・藤野
14	フィールドワーク8	看護実践に関わりながら、対象者のヘルスアセスメントを探究8	横井・藤野
15	成果発表と討議	フィールドワークの成果発表・討議	横井・藤野

【6】 評価方法

プレゼンテーションおよび討議30%、事前学習成果レポート30%、実践の場での課題に関するレポート40%。

【7】 テキスト

必要に応じて提示する。

【8】 参考書

必要に応じて提示する。

【9】 科目担当者連絡先

横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30～13：00

【11】 特記事項

高齢者医療のさまざまな場について、最新の医療制度、介護保険制度を踏まえ学習しておいてください。

科目名称	高齢者看護学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Gerontological Nursing Ⅱ	選択	演習	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	横井 郁子					
担当教員	横井郁子(看護学研究科・教授) 藤野秀美(看護学研究科准教授)					

【1】 教育目標

1. 医療福祉施設で療養生活を送る高齢者の環境をアセスメントすることができる。
2. 看護における療養環境マネジメントの重要性について説明することができる。

【2】 授業方針・テーマ

環境調整の看護の役割を再考する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

事前学習内容に関するプレゼンテーションおよび討議の後、実践現場において上記の実践を行う。実践現場における実践内容に関しては学生自らが行動計画を立て、教員の指導を得て実践に臨む。実践の場への協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療福祉施設の療養環境の現場と課題1	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議1	横井
2	医療福祉施設の療養環境の現場と課題2	療養および生活の場の物的環境に関する文献レビューと討議2	横井
3	医療福祉施設の療養環境の現場と課題3	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議1	横井
4	医療福祉施設の療養環境の現場と課題4	療養および生活の場の人的環境に関する文献レビューと討議2	横井
5	フィールドワーク準備1	フィールドワークの場の紹介と計画発表1	横井・藤野
6	フィールドワーク準備2	フィールドワークの場の紹介と計画発表1	横井・藤野
7	フィールドワーク1	ケア対象者と環境1	横井・藤野
8	フィールドワーク2	ケア対象者と環境2	横井・藤野
9	フィールドワーク3	ケア対象者と環境3	横井・藤野
10	フィールドワーク4	ケア対象者と環境4	横井・藤野
11	フィールドワーク5	ケア提供者(職員)と環境1	横井・藤野
12	フィールドワーク6	ケア提供者(職員)と環境2	横井・藤野
13	フィールドワーク7	ケア提供者(職員)と環境3	横井・藤野
14	フィールドワーク8	ケア提供者(職員)と環境4	横井・藤野
15	成果発表と討議	フィールドワークをもとに環境マネジメント指針を作成・発表	横井・藤野

【6】 評価方法

プレゼンテーションおよび討議30%、事前学習成果レポート30%、実践の場での課題に関するレポート40%。

【7】 テキスト

必要に応じて提示する。

【8】 参考書

必要に応じて提示する。

【9】 科目担当者連絡先

横井郁子 yokoiyk■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:30～13:00

【11】 特記事項

施設基準について事前学習をしておく。

科目名称	小児看護学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Child Health Nursing I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	出野 慶子					
担当教員	出野慶子(看護学研究科・教授) 河上智香(看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

1. 小児看護の展開に必要な理論について理解し、その概要を述べるができる。
2. 包括的な視点から子どもと家族を捉え、各発達段階・状況に応じた看護支援について述べるができる。
3. 現代の子どもと家族が抱えている問題や課題および必要な援助について述べるができる。

【2】 授業方針・テーマ

成長・発達理論、家族理論、セルフケア理論、コーピング理論等について文献をとおして理解を深め、小児看護における子どもや家族の捉え方、看護援助のあり方について検討する。また、文献および自身の看護実践体験から、現代の子どもと家族が抱える様々な課題について取り上げ、理論の適用および必要な援助について検討する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	小児看護学領域の理論(1)	授業の概要	出野
2	小児看護学領域の理論(2)	成長・発達理論①	出野
3	小児看護学領域の理論(3)	成長・発達理論②	出野
4	小児看護学領域の理論(4)	成長・発達理論③	出野
5	小児看護学領域の理論(5)	成長・発達理論④	出野
6	小児看護学領域の理論(6)	家族理論①	河上
7	小児看護学領域の理論(7)	家族理論②	河上
8	小児看護学領域の理論(8)	家族理論③	河上
9	小児看護学領域の理論(9)	セルフケアの理論①	出野
10	小児看護学領域の理論(10)	セルフケアの理論②	出野
11	小児看護学領域の理論(11)	コーピングの理論	河上
12	小児看護学領域における課題(1)	現代の子どもと家族が抱える課題①	出野・河上
13	小児看護学領域における課題(2)	現代の子どもと家族が抱える課題②	出野・河上
14	小児看護学領域における課題(3)	現代の子どもと家族が抱える課題③	出野・河上
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	出野・河上

【6】 評価方法

- ・課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
- ・評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

出野慶子 ideno■med.toho-u.ac.jp

河上智香 chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45～13:00

【11】 特記事項

事前に課題に関連する文献学習を行い、資料作成・プレゼンテーションの準備を行う。

科目名称	小児看護学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Child Health NursingⅡ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	出野 慶子					
担当教員	出野慶子(看護学研究科・教授) 河上智香(看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

【2】 授業方針・テーマ

倫理的問題のある小児看護領域の事例学習をとおして倫理的判断について学ぶ。国内外の小児看護関連の研究論文のクリティークをとおして、子どもと家族をめぐる様々な課題について検討し、看護援助方法や研究方法について考察する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	小児看護領域における倫理(1)	子どもと家族の権利、倫理的判断の方法	河上
2	小児看護領域における倫理(2)	小児看護領域における倫理的問題の事例演習①	河上
3	小児看護領域における倫理(3)	小児看護領域における倫理的問題の事例演習②	河上
4	小児看護領域における倫理(4)	小児看護領域における倫理的問題の事例演習③	河上
5	ソーシャルサポート(1)	ソーシャル・サポート①	出野
6	ソーシャルサポート(2)	ソーシャル・サポート②	出野
7	子ども虐待(1)	子ども虐待の現状	出野
8	子ども虐待(2)	子ども虐待における対応	出野
9	論文のクリティーク(1)	論文のクリティークとは	出野
10	論文のクリティーク(2)	量的研究のクリティーク①	河上
11	論文のクリティーク(3)	量的研究のクリティーク②	河上
12	論文のクリティーク(4)	質的研究のクリティーク①	出野
13	論文のクリティーク(5)	質的研究のクリティーク②	出野
14	小児看護の動向と課題(1)	研究課題について①	出野・河上
15	小児看護の動向と課題(2)	研究課題について②	出野・河上

【6】 評価方法

- ・ 課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
- ・ 評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

出野慶子 ideno■med.toho-u.ac.jp

河上智香 chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45～13:00

【11】 特記事項

- ・ 事前に課題に関連する文献学習を行い、資料作成・プレゼンテーションの準備を行う。
- ・ 子ども虐待の講義は特別講義とする。

科目名称	小児看護学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Child Health Nursing I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	出野 慶子					
担当教員	出野慶子(看護学研究科・教授) 河上智香(看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

1. 包括的な視点をもって、子どもと家族の状況をアセスメントできる。
2. テーマに沿って、適切にインタビューを実施することができる。
3. 子どもの発達段階や状況を踏まえた看護援助について述べることができる。

【2】 授業方針・テーマ

観察やインタビュー、発達スクリーニングテストを用いて、子どもの成長・発達、生活状況や健康状態を包括的にアセスメントするための方略や技術を文献および実践をとおして学ぶ。また、子どもや家族とのコミュニケーション技術、および発達段階や状況を踏まえた援助技術について文献および実践をとおして学ぶ。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

文献およびフィールドワークをとおして、観察・アセスメント力を高める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	アセスメント(1)	授業の概要、情報収集・アセスメントの視点	出野
2	アセスメント(2)	フィールドワーク①(意図的観察等)	出野
3	アセスメント(3)	フィールドワーク②(意図的観察等)	出野
4	アセスメント(4)	ケースの分析①	出野
5	アセスメント(5)	フィールドワーク③(意図的観察等)	出野
6	アセスメント(6)	フィールドワーク④(意図的観察等)	出野
7	アセスメント(7)	ケースの分析②	河上
8	インタビュー法(1)	インタビュー方法、倫理的配慮について	河上
9	インタビュー法(2)	フィールドワーク①(学生間のインタビュー)	河上
10	インタビュー法(3)	インタビューの分析・考察	河上
11	インタビュー法(4)	フィールドワーク②(家族へのインタビュー)	河上
12	インタビュー法(5)	インタビューの分析・考察	河上
13	インタビュー法(6)	フィールドワーク③(子どもへのインタビュー)	河上
14	インタビュー法(7)	インタビューの分析・考察	河上
15	まとめ	演習内容のまとめを行う	出野・河上

【6】 評価方法

- ・課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
- ・評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

出野慶子 ideno■med.toho-u.ac.jp

河上智香 chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45～13:00

【11】 特記事項

事前に課題に関連する文献学習を行う。フィールドワークでは対象者に対する倫理的配慮を十分に行う。

科目名称	小児看護学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Child Health NursingⅡ	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	出野 慶子					
担当教員	出野慶子(看護学研究科・教授) 河上智香(看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

1. 包括的に子どもと家族の状況ならびに看護支援についてアセスメントできる。
2. 文献検討およびこれまでのフィールドワークをとおして研究課題を明らかにできる。
3. 研究計画の概要について記述することができる。

【2】 授業方針・テーマ

関心のある領域の文献を丁寧に読み、研究課題や研究の意義を明らかにして研究計画書の作成につなげていく。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	文献検討(1)	授業の概要	出野
2	文献検討(2)	関心ある領域の文献検討①	出野・河上
3	文献検討(3)	関心ある領域の文献検討②	出野・河上
4	文献検討(4)	関心ある領域の文献検討③	出野・河上
5	文献検討(5)	関心ある領域の文献検討④	出野・河上
6	文献検討(6)	関心ある領域の文献検討⑤	出野・河上
7	文献検討(7)	関心ある領域の文献検討⑥	出野・河上
8	研究課題について(1)	研究課題の明確化①	出野・河上
9	研究課題について(1)	研究課題の明確化②	出野・河上
10	研究課題について(1)	研究課題の明確化③	出野・河上
11	研究計画(1)	研究計画書の作成に向けて①	出野・河上
12	研究計画(2)	研究計画書の作成に向けて②	出野・河上
13	研究計画(3)	研究計画書の作成に向けて③	出野・河上
14	研究計画(4)	研究計画書の作成に向けて④	出野・河上
15	研究計画(5)	研究計画書の作成に向けて⑤	出野・河上

【6】 評価方法

- ・課題への取り組み(50%)、プレゼンテーション(50%)で総合的に評価する。
- ・評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

出野慶子 ideno■med.toho-u.ac.jp

河上智香 chika.kawakami■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45～13:00

【11】 特記事項

- ・ 研究計画書の作成につながるように、主体的に文献検討を十分に行う。
- ・ 必要であれば文献管理ツールの講習会に参加する。

科目名称	精神看護学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	伊藤 桂子					
担当教員	伊藤桂子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

精神保健医療福祉の制度と体制について、法制度の変遷、倫理、治療環境等の視点から理解を深め、精神的健康問題のメカニズムについて考察する。また、対象理解のための生活の評価に必要な基礎的理論と方法について探求する。

【2】 授業方針・テーマ

精神保健医療福祉の制度と体制に関する知識および精神的健康問題のメカニズム、生活の評価に必要な基礎的理論と方法について、講義及び学生自身のプレゼンテーション、研究論文のクリティーク、討議を通して学ぶ。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

毎回の課題に対して資料を作成し、それを基にゼミナール形式で討議を行う。課題についてはオリエンテーションで提示する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	精神保健医療福祉の制度と体制①	日本の精神保健医療福祉に関する法制度の歴史の変遷：人権擁護と処遇、倫理的課題	伊藤
2	精神保健医療福祉の制度と体制②	諸外国の精神保健福祉および精神医療の現状	伊藤
3	精神保健医療福祉の制度と体制③	精神保健医療福祉における今後の課題	伊藤
4	ライフサイクルと危機①	ライフサイクルにおける危機	伊藤
5	ライフサイクルと危機②	精神力動論と自我機能とその障害	伊藤
6	家族の機能と病理①	家族システム論を活用した家族の理解	伊藤
7	家族の機能と病理②	精神障害者家族のアセスメントと家族支援	伊藤
8	社会の動向と精神的健康問題①	生活支援の制度と支援機関、就労支援と職場のメンタルヘルス	伊藤
9	社会の動向と精神的健康問題②	自殺予防、虐待、ひきこもり、依存症等の地域保健活動	伊藤
10	社会の動向と精神的健康問題③	心的外傷とPTSDの理解と看護	伊藤
11	対象の理解と生活評価に必要な基礎的理論①	セルフケア理論に基づく精神・身体状況の評価	伊藤
12	対象の理解と生活評価に必要な基礎的理論②	心理・社会的成長発達に基づく精神状態の評価	伊藤
13	精神状態のアセスメントに必要な技法①	地域、在宅、産業場面、臨床におけるアセスメント	伊藤
14	精神状態のアセスメントに必要な技法②	精神障害者と家族の地域生活支援とケアマネジメント	伊藤
15	精神状態のアセスメントに必要な技法③	精神障害者のQOL評価と援助	伊藤

【6】 評価方法

課題への取り組み (20%)、プレゼンテーション (60%)、レポート (20%) で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

伊藤桂子 keiko.itou@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 45 - 13 : 00

【11】 特記事項

エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。

科目名称	精神看護学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅱ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	伊藤 桂子					
担当教員	伊藤桂子 (看護学研究科・教授)、梅澤志乃 (大森病院・看護師)、高田みほ (大森病院・精神保健福祉士)					

【1】 教育目標

精神保健上の問題を抱えた人々へのさまざまな治療的アプローチの理論と技法について理解を深め、対象者やその家族がその人らしく生き、回復することについて考察する。

【2】 授業方針・テーマ

精神保健上の問題を抱えた人々へのさまざまな治療的アプローチの理論と技法について、講義及び事例や最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学ぶ。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

毎回の課題に対して資料を作成し、それを基にゼミナール形式で討議を行う。課題についてはオリエンテーションで提示する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	精神科における治療的アプローチ①	精神科における薬物療法の基礎的理解と看護	伊藤
2	精神科における治療的アプローチ②	精神療法の定義、適応などの基礎的理解と治療関係	伊藤
3	精神科における治療的アプローチ③	心理教育、支持的精神療法、来談者中心療法	伊藤
4	精神科における治療的アプローチ④	対人関係療法、認知療法、行動療法	伊藤
5	精神科における治療的アプローチ⑤	看護カウンセリングとその技法	伊藤
6	多職種連携とコンサルテーション①	精神科における多職種連携	梅澤
7	多職種連携とコンサルテーション②	コンサルテーションを活用した早期介入アプローチ	梅澤
8	地域移行、地域定着のための支援①	精神科におけるソーシャルサポート	高田
9	地域移行、地域定着のための支援②	地域移行のためのネットワークの活用	高田
10	地域移行、地域定着のための支援③	地域定着支援とコミュニティの形成	伊藤
11	精神障害者およびその家族の回復①	リカバリーモデル、ストレングスマodel	伊藤
12	精神障害者およびその家族の回復②	自助グループ	伊藤
13	主な精神疾患の対象理解と治療支援①	統合失調症における対象理解と治療支援	伊藤
14	主な精神疾患の対象理解と治療支援②	気分障害における対象理解と治療支援	伊藤
15	主な精神疾患の対象理解と治療支援③	依存症における対象理解と治療支援	伊藤

【6】 評価方法

課題への取り組み (20%)、プレゼンテーション (60%)、レポート (20%) で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

伊藤桂子 keiko.itou@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 45 - 13 : 00

【11】 特記事項

エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。

科目名称	精神看護学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Mental Health and Psychiatric Nursing I	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	伊藤 桂子					
担当教員	伊藤桂子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

精神保健上の問題を抱えた人とその家族を対象としたアセスメント技法と援助方法の概要を理解し、対象を包括的に評価し、援助の方向性を見出す能力を修得する。

【2】 授業方針・テーマ

精神看護学に関連するアセスメント技法を活用し、精神保健上の問題を抱えた人とその家族を包括的にアセスメントすることができる。事例検討を通して、精神保健上の問題を抱えた人とその家族に対して、包括的なアセスメントに基づいて援助の方向性を考察することができる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

毎回の課題に対して資料を作成し、それを基にゼミナール形式で討議を行う。課題についてはオリエンテーションで提示する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	精神健康状態の査定①	精神の健康状態の査定 (外観、行動)	伊藤
2	精神健康状態の査定②	精神の健康状態の査定 (認知機能)	伊藤
3	精神健康状態の査定③	精神の健康状態の査定 (思考過程と知覚)	伊藤
4	アセスメントと介入①	精神の健康の増進および病気の予防	伊藤
5	アセスメントと介入②	急性期の患者のアセスメントと介入	伊藤
6	アセスメントと介入③	回復期精神障害者のアセスメントと介入	伊藤
7	アセスメントと介入④	慢性期精神障害者のアセスメントと介入	伊藤
8	アセスメントと介入⑤	地域移行と地域定着	伊藤
9	アセスメントと介入⑥	精神障害者の家族のアセスメントと介入	伊藤
10	TraumaInformedCareの理論と実践への応用①	TraumaInformedCareの理論	伊藤
11	TraumaInformedCareの理論と実践への応用②	TraumaInformedCareの実践への応用	伊藤
12	事例の展開①	精神障害者が直面化する生活上の課題の明確化	伊藤
13	事例の展開②	精神障害者が自律性を回復するための支援①	伊藤
14	事例の展開③	精神障害者が自律性を回復するための支援②	伊藤
15	事例の展開④	精神障害者に対応した地域包括ケアシステムの構築	伊藤

【6】 評価方法

課題への取り組み (20%)、プレゼンテーション (60%)、レポート (20%) で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

伊藤桂子 keiko.itou@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 45 - 13 : 00

【11】 特記事項

エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。

科目名称	精神看護学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Mental Health and Psychiatric NursingⅡ	選択	演習	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	伊藤 桂子					
担当教員	伊藤桂子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

精神保健・精神看護における最近の研究動向について理解を深め、関心のある領域やテーマについて文献検討、フィールドワークを行い、研究的視点と研究課題を明らかにする。

【2】 授業方針・テーマ

文献調査により精神保健・精神看護に関する最新の知見を入手でき、国内外の関連領域の情報や先行研究から専門知識を深め、精神看護で扱うべき研究課題を列挙できるように学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学ぶ。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

毎回の課題に対して資料を作成し、それを基にゼミナール形式で討議を行う。課題についてはオリエンテーションで提示する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	精神保健、精神看護に関する文献講読①	精神保健、精神看護に関する研究の動向の検討①	伊藤
2	精神保健、精神看護に関する文献講読②	精神保健、精神看護に関する研究の動向の検討②	伊藤
3	精神保健、精神看護に関する文献講読③	精神保健、精神看護に関する研究の動向の検討③	伊藤
4	精神保健、精神看護に関する文献講読④	精神保健・精神看護に関する研究の方法についての検討①	伊藤
5	精神保健、精神看護に関する文献講読⑤	精神保健・精神看護に関する研究の方法についての検討②	伊藤
6	精神保健・精神看護に関する研究倫理	精神保健・精神看護に関する研究倫理	伊藤
7	フィールドワーク①	フィールドワークにおける演習計画立案①	伊藤
8	フィールドワーク②	フィールドワークにおける演習計画立案②	伊藤
9	フィールドワーク③	観察法やインタビュー調査を用いた演習①	伊藤
10	フィールドワーク④	観察法やインタビュー調査を用いた演習②	伊藤
11	フィールドワーク⑤	観察法やインタビュー調査を用いた演習③	伊藤
12	フィールドワーク⑥	観察法やインタビュー調査を用いた演習④	伊藤
13	フィールドワーク⑦	演習のデブリーフィング①	伊藤
14	フィールドワーク⑧	演習のデブリーフィング②	伊藤
15	まとめ	研究課題の精選	伊藤

【6】 評価方法

課題への取り組み (20%)、プレゼンテーション (60%)、レポート (20%) で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

伊藤桂子 keiko.itou@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 45 - 13 : 00

【11】 特記事項

エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。

科目名称	地域看護学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Community Health Nursing I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学部研究科・教授)					

【1】 教育目標

公衆衛生看護の現状、公衆衛生看護に関わる理論、公衆衛生看護活動の展開と評価方法、今後の課題について具体的に述べることができる。

【2】 授業方針・テーマ

各院生の関心や看護実践および研究課題に沿えるよう、プレゼンテーションや討論を通して、院生個々の課題に具体的に活かせる方法を修得する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験をふまえてグループ討議を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	地域看護の変遷	わが国における地域看護	岸
3	地域看護の変遷	わが国における地域看護活動の変遷 (1)	岸
4	地域看護の変遷	わが国における地域看護活動の変遷 (2)	岸
5	システム理論	システム理論 (1)	岸
6	システム理論	システム理論 (2)	岸
7	地域看護の課題	国際比較からみたわが国の問題 (1)	岸
8	地域看護の課題	国際比較からみたわが国の問題 (2)	岸
9	地域看護の課題	わが国の保健医療福祉の問題と課題 (1)	岸
10	地域看護の課題	わが国の地域看護活動の問題と課題 (2)	岸
11	公衆衛生看護活動の展開	わが国の公衆衛生看護 (1)	岸
12	公衆衛生看護活動の展開	わが国の公衆衛生看護 (2)	岸
13	公衆衛生看護活動の展開	わが国の公衆衛生看護 (3)	岸
14	公衆衛生看護活動の展開	わが国の公衆衛生看護 (4)	岸
15	公衆衛生看護活動の展開	わが国の公衆衛生看護 (5)	岸

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。

【8】 参考書

必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	地域看護学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Community Health NursingⅡ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

地域看護学研究における概念、量的・質的研究のデザインやデータ収集、分析、結果の公表の方法を具体的に説明できる。さらに、上記の研究方法を踏まえた上で関心のあるテーマにそった文献検討を実施できる。

【2】 授業方針・テーマ

学生の主体的な学びを重視し、学生のプレゼンテーションとディスカッションによる講義をすすめる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生のプレゼンテーションを中心に進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	地域看護学の概念	地域看護学研究の概念	岸
3	研究デザイン	量的研究のデザイン	岸
4	研究デザイン	質的研究のデザイン	岸
5	研究倫理	研究の倫理	岸
6	データ収集と分析	測定とデータ収集 (1)	岸
7	データ収集と分析	測定とデータ収集 (2)	岸
8	データ収集と分析	研究データの分析 (1)	岸
9	データ収集と分析	研究データの分析 (2)	岸
10	データ収集と分析	研究を伝える、結果の利用	岸
11	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う (1)	岸
12	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う (2)	岸
13	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う (3)	岸
14	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う (4)	岸
15	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う (5)	岸

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

近藤潤子監訳. (2010). 看護研究：原理と方法. 医学書院

【8】 参考書

近藤潤子監訳. (2010). 看護研究：原理と方法. 医学書院

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	地域看護学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Community Health Nursing I	選択	演習	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授) 望月由紀子 (看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

地域の健康課題を明らかにするための手法として看護診断の演習を行い、その成果を踏まえ、地域住民の健康向上を目指した研究方法を説明できる。さらに、演習を通してデータ収集と分析を実施できる。

【2】 授業方針・テーマ

一定地域を担当する行政保健師の視点から行った地域診断を行う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生が地域診断を行い、その成果を発表するとともに、データを用いた分析の演習を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本演習の目的と方法	岸
2	地域診断の方法	地域診断の方法論 (1)	岸
3	地域診断の方法	地域診断の方法論 (2)	岸
4	地域診断演習	対象地域の地域診断演習 (1)	望月
5	地域診断演習	対象地域の地域診断演習 (2)	望月
6	地域診断演習	対象地域の地域診断演習 (3)	望月
7	保健計画評価	対象地域の保健計画と評価 (1)	岸
8	保健計画評価	対象地域の保健計画と評価 (2)	岸
9	研究方法の探求	地域診断を踏まえた研究方法の探究 (1)	岸
10	研究方法の探求	地域診断を踏まえた研究方法の探究 (2)	岸
11	データ収集と分析	地域看護学に関する量的研究データの分析 (1)	望月
12	データ収集と分析	地域看護学に関する量的研究データの分析 (2)	望月
13	データ収集と分析	地域看護学に関する質的研究データの分析 (1)	岸
14	データ収集と分析	地域看護学に関する質的研究データの分析 (2)	岸
15	データ収集と分析	地域看護学に関する質的研究データの分析 (3)	岸

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (40%)、レポート (40%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

別途案内する。

【8】 参考書

別途案内する。

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	地域看護学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Community Health NursingⅡ	選択	演習	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

地域におけるニーズに応じた地域ケアの事業開発及びヘルスプロモーション、エンパワーメント、パートナーシップに関する公衆衛生看護活動について具体的に述べる事ができる。さらに、健康づくり推進のために求められる地域看護管理について根拠を示しながら説明できる。

【2】 授業方針・テーマ

地域における事業の形成過程の演習を通して、地域住民と共に行なうニーズ分析、地域住民のエンパワーメント、住民とのパートナーシップによるヘルスプロモーション活動を演習する。また、地域ケア推進のために求められる地域看護管理について理解する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義内容に基づいて論文クリティークおよび地域ケアに関する事業の分析を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本演習の目的と進め方	岸
2	地域看護活動の展開	地域看護活動過程	岸
3	地域看護活動の展開	地域ケア事業の形成過程 (1)	岸
4	地域看護活動の展開	地域ケア事業の形成過程 (2)	岸
5	地域看護活動の展開	地域ケア事業の形成過程 (3)	岸
6	地域看護活動の展開	地域ケア事業の形成過程 (4)	岸
7	地域看護活動の展開	地域ケア事業の形成過程 (5)	岸
8	健康づくり戦略	健康づくり戦略 (1)	岸
9	健康づくり戦略	健康づくり戦略 (2)	岸
10	健康づくり戦略	健康づくり戦略 (3)	岸
11	健康づくり戦略	健康づくり戦略 (4)	岸
12	健康づくり戦略	健康づくり戦略 (5)	岸
13	地域看護管理	地域看護管理 (1)	岸
14	地域看護管理	地域看護管理 (2)	岸
15	地域看護管理	地域看護管理 (3)	岸

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (40%)、レポート (40%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト・参考書等
必要に応じ、その都度提示する。

【7】 テキスト

必要に応じ、その都度提示する。

【8】 参考書

必要に応じ、その都度提示する。

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	公衆衛生看護学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Community Health Nursing I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学部研究科・教授)					

【1】 教育目標

公衆衛生看護の現状、公衆衛生看護に関わる理論、公衆衛生看護活動の展開と評価方法、今後の課題を具体的に述べるができる。

【2】 授業方針・テーマ

各院生の関心や看護実践および研究課題に沿えるよう、プレゼンテーションや討論を通して、院生個々の課題に具体的に活かせる方法を修得する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生が主体的に文献検討を行い学習する。院生各自の体験をふまえてグループ討議を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	公衆衛生看護の概念	公衆衛生看護の定義・概念・理念	岸
3	公衆衛生看護の概念	公衆衛生看護の定義・概念・理念	岸
4	公衆衛生看護活動の変遷	公衆衛生看護活動の変遷 (2)	岸
5	公衆衛生看護活動の変遷	公衆衛生看護活動の変遷 (2)	岸
6	公衆衛生看護活動の課題	公衆衛生看護活動の課題 (1)	岸
7	公衆衛生看護活動の課題	公衆衛生看護活動の課題 (2)	岸
8	公衆衛生看護に関わる理論	公衆衛生看護に関わる理論 (1)	岸
9	公衆衛生看護に関わる理論	公衆衛生看護に関わる理論 (2)	岸
10	公衆衛生看護に関わる理論	公衆衛生看護に関わる理論 (3)	岸
11	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価 (1)	岸
12	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価 (2)	岸
13	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価 (3)	岸
14	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価 (4)	岸
15	公衆衛生看護活動の展開と評価	公衆衛生看護活動の展開と評価 (5)	岸

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。

【8】 参考書

必要時、文献を提示し、関連する資料を配布する。

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	公衆衛生看護学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Public Health NursingⅡ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子(看護学研究科・教授) 望月由紀子(看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

公衆衛生看護学分野の研究における概念、量的・質的研究のデザインやデータ収集、分析、結果の公表の方法を説明できる。さらに、上記の研究方法を踏まえた上で関心のあるテーマにそった文献検討を行うことができる。

【2】 授業方針・テーマ

学生の主体的な学びを重視し、学生のプレゼンテーションとディスカッションによる講義をすすめる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

事前学習をもとに、学生自身が主体的に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	研究における概念	公衆衛生看護学研究における概念	岸
3	研究デザイン	量的研究のデザイン	岸
4	研究デザイン	質的研究のデザイン	岸
5	研究倫理	研究における倫理	岸
6	データ収集と分析	測定とデータ収集 (1)	望月
7	データ収集と分析	測定とデータ収集 (2)	岸
8	データ収集と分析	研究データの分析 (1)	望月
9	データ収集と分析	研究データの分析 (2)	望月
10	データ収集と分析	研究データの分析 (3)	岸
11	データ収集と分析	研究データの分析 (4)	岸
12	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う (1)	岸、望月
13	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う (2)	岸、望月
14	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う (3)	岸、望月
15	文献検討	研究方法を踏まえた上でテーマにそった文献検討を行う (4)	岸、望月

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

近藤潤子監訳. (2010). 看護研究：原理と方法. 医学書院

【8】 参考書

近藤潤子監訳. (2010). 看護研究：原理と方法. 医学書院

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	公衆衛生看護学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Public Health Nursing I	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授) 望月由紀子 (看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

地域の健康課題を明らかにするために、社会背景を踏まえて、公衆衛生看護学分野に関連する文献のクリティークを行い、批判的思考をもとに分析できる。地域の健康課題を抽出する方法を公衆衛生看護学に関する理論や方法論を用いて、分析したデータをもとに根拠を示しながら説明できる。

【2】 授業方針・テーマ

地域の健康課題を明らかにするために、国内外の文献のクリティークを通して、批判的思考を養う。公衆衛生看護学分野における研究の量的分析、質的分析方法を体系的に学び、自己の課題を探求する方法を検討できる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

事前学習をもとに、学生自身が主体的に課題に取り組み、積極的に討論して自己の課題を探求する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸 望月
2	公衆衛生看護倫理	公衆衛生看護活動における倫理的な課題 (1)	岸
3	公衆衛生看護倫理	公衆衛生看護活動における倫理的な課題 (2)	望月
4	文献クリティーク	文献クリティークとは	岸
5	文献クリティーク	文献クリティークの方法	岸
6	文献クリティーク	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク (1)	岸、望月
7	文献クリティーク	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク (2)	岸、望月
8	文献クリティーク	国内外における公衆衛生看護学領域の文献クリティーク (3)	岸、望月
9	量的研究データの分析	公衆衛生看護学における量的研究データの分析 (1)	望月
10	量的研究データの分析	公衆衛生看護学における量的研究データの分析 (2)	望月
11	量的研究データの分析	公衆衛生看護学における量的研究データの分析 (3)	望月
12	質的研究データの分析	公衆衛生看護学における質的研究データの分析 (1)	岸
13	質的研究データの分析	公衆衛生看護学における質的研究データの分析 (2)	岸
14	質的研究データの分析	公衆衛生看護学における質的研究データの分析 (3)	岸
15	まとめ	成果のプレゼンテーション	岸、望月

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (40%)、レポート (40%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

別途案内する。

【8】 参考書

別途案内する。

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp

望月由紀子yukiko.mochizuki■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	公衆衛生看護学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Public Health NursingⅡ	選択	演習	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授) 望月由紀子 (看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

関心がある公衆衛生看護学領域における健康課題を選定し、関連する組織・地域でフィールドワークを行い、必要なデータ収集と分析ができる。その成果を踏まえて、評価方法も含め、健康課題を解決するための方法を多面的に検討して、自身の研究計画を立案できる。

【2】 授業方針・テーマ

関心がある公衆衛生看護学領域の健康課題を明らかにし、健康課題を解決するための具体策を検討するために、フィールドワークを行う。フィールドワークで収集した情報を分析することで、課題解決のための方法を多面的に検討し、自身の看護実践や研究計画につなげることができる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生自身が主体的に演習計画を立案し、関連フィールドの関係者への協力依頼・連絡・調整を行う。学生自身が関心のあるテーマについて、事前学習をもとに主体的に課題に取り組み、積極的に討論に参加する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義のガイダンス	本講義の目的と進め方	岸 望月

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (40%)、レポート (40%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

必要に応じ、その都度提示する。

【8】 参考書

必要に応じ、その都度提示する。

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子 emiko.kishi@med.toho-u.ac.jp
望月由紀子 yukiko.mochizuki@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー**【11】 特記事項**

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	国際広域保健特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced International Health I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科教授)					

【1】 教育目標

国際保健・看護の概念、対象の特徴を説明できる。取り組むべき健康課題の重要性について背景にある状況を関連付けながら根拠とともに主張できる。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健・看護活動の対象理解に役立つ科目である。受講生の興味関心を活かし、テーマの中でのサブテーマの決定は自由とする。文献講読、発表、討論を通してActivethinkingを促し、テーマについての新たな発見を目指す。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。課題についてはオリエンテーション時に提示する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2	国際保健学	国際保健/看護の概念	夏原
3	人類生態学	人間の多様性について (人類生態学の視点から1)	夏原
4	人類生態学	人間の多様性について (人類生態学の視点から2)	夏原
5	健康と文化	健康観・病気観と文化	夏原
6	国際保健活動	国際保健活動の対象の特徴 (歴史・地理的特徴)	夏原
7	国際保健活動	国際保健活動の対象の特徴 (保健医療の状況)	夏原
8	国際保健活動	国際保健活動の対象の特徴 (特殊な状況における活動)	夏原
9	健康と文化	世界の健康課題の背景	夏原
10-14	国際保健活動	取り組むべき課題 Population issue, Communicable diseases, Non-communicable diseases, Mental health, Environmental health, Gender, etc.	夏原
15	まとめ	学びの再構築・統括	夏原

【6】 評価方法

毎回の課題の小レポート60%、授業参加態度20%、プレゼンテーション20%。

【7】 テキスト

必要時、文献、書籍などを提示する。

【8】 参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美kazumi.natsuhara@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名称	国際広域保健特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced International HealthⅡ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科教授)					

【1】 教育目標

国際保健活動に関するデータ収集、分析、計画立案に関する代表的な方法論を説明できる。健康課題への対応方法について背景にある状況を関連付けながら根拠とともに主張できる。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健活動の方法を理解するのに役立つ授業である。受講生の興味関心を活かし、テーマの中でのサブテーマの決定は自由とする。文献講読、発表、討論を通してActivethinkingを促し、テーマについての新たな発見を目指す。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。課題についてはオリエンテーション時に提示する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2	健康とデータ	健康課題の探索 (健康に関するデータ)	夏原
3	健康とデータ	健康課題の探索 (データ測定と分析)	夏原
4	健康と文化	文化が健康に影響を与える経路	夏原
5	健康と文化	異文化理解と看護理論	夏原
6	健康と文化	文化的適応としての医療	夏原
7-9	健康と文化	Cultural Awareness in Nursing and Health Care	夏原
10	健康と文化	文化人類学からみた異文化理解	夏原
11	国際保健の方法	フィールドワーク論	夏原
12	国際保健の方法	PRIMARY HEALTH CARE: 25 YEARS AFTER ALMA-ATA PHCの変遷	夏原
13	国際保健の方法	Project cycle management	夏原
14	国際保健の方法	PRECEDE-PROCEED Model	夏原
15	まとめ	学びの再構築・統括	夏原

【6】 評価方法

毎回の課題の小レポート60%、授業参加態度20%、プレゼンテーション20%。

【7】 テキスト

Holland, K. (2017). Cultural Awareness in Nursing and Health Care: An Introductory Text. Routledge; 3版

【8】 参考書

Holland, K. (2017). Cultural Awareness in Nursing and Health Care: An Introductory Text. Routledge; 3版

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美 kazumi.natsuhara@med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー
毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項
事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること

科目名称	国際広域保健演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in International Health I	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科教授)					

【1】 教育目標

国際保健・看護の活動・研究の課題をアセスメントする力をつける。人口学、栄養学、文化人類学等の調査方法論を学び、データの収集、分析、まとめをスーパーバイズのもとでできるようになる。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健・看護の活動・研究に用いられる様々な方法についての基本を習得する科目である。方法論について学んだ後、データ収集からまとめまでを実際に体験する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

テキストの担当部分の内容を把握して発表する。他の院生の発表する部分も抄読することで、互いに質問しあうこと。受け入れフィールドとの調整がつけば、調査演習は日本の農漁村で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2	Research strategies in human biology	Planning a research project (Chap.1)	夏原
3	Research strategies in human biology	Research designs and sampling strategies (Chap.2)	夏原
4	Research strategies in human biology	Biocultural studies of ethnic groups (Chap.3)	夏原
5	Research strategies in human biology	Migration (Chap.4)	夏原
6	Research strategies in human biology	Nutritional studies in biological anthropology (Chap.6)	夏原
7	Research strategies in human biology	Historical demography and population structure (Chap.7)	夏原
8	Research strategies in human biology	Writing for publication (Chap.8)	夏原
9-13	調査方法	調査演習：人口調査、身体計測、食事調査、行動調査、インタビュー調査	夏原
14-15	まとめ	演習報告会 (演習レポート作成・プレゼンテーション)	夏原

【6】 評価方法

毎回の課題40%、授業参加態度20%、演習レポート20%、最終プレゼンテーション20%。

【7】 テキスト

Lasker, G. W., & Mascie-Taylor, C. N. (Eds.). Research strategies in human biology: field and survey studies (Vol. 13). Cambridge University Press. (1993)
渡辺知保他. 人間の生態学. 朝倉書店. (2011) その他必要時、文献、書籍等を提示する。

【8】 参考書

Lasker, G. W., & Mascie-Taylor, C. N. (Eds.). Research strategies in human biology: field and survey studies (Vol. 13). Cambridge University Press. (1993)
渡辺知保他. 人間の生態学. 朝倉書店. (2011) その他必要時、文献、書籍等を提示する。

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美 kazumi.natsuhara@med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名称	国際広域保健演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in International Health Ⅱ	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美（看護学研究科教授）					

【1】 教育目標

国際的な国際保健・看護分野の論文・資料から必要な情報を得られるようになる。自分の研究テーマがFINERかを吟味し修士論文の計画書に活かすことができる。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健活動・研究分野の興味関心のあるテーマについてレビューができるようになる授業である。テーマについての論文抄読と発表、ディスカッションを通してCriticalthinking能力をつける。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

興味のあるテーマに関して文献検索し、内容を把握して発表する。他の学生の発表する論文についても内容を把握し、互いに質問しあうこと。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2-3	論文の読み方	国際保健関連の論文の読み方（論旨一貫性）	夏原
4	論文の読み方	国際保健関連の論文の読み方（図表）	夏原
5-6	論文の読み方	Systematic reviewsの読み方	夏原
7-14	論文購読	文献検討と発表	夏原
15	まとめ	Abstract, Introduction, Method, Results, Discussionの概要をまとめ、A4用紙2枚の資料を準備する。	夏原
		リフレクション、リフレーミング	

【6】 評価方法

毎回の課題40%、授業参加態度20%、レビュー結果のまとめ40%

【7】 テキスト

HigginsJPT, GreenS(editors). CochraneHandbookforSystematicReviewsOfInterventionsVersion6[2019].
<https://training.cochrane.org/handbook/current>

【8】 参考書

HigginsJPT, GreenS(editors). CochraneHandbookforSystematicReviewsOfInterventionsVersion6[2019].
<https://training.cochrane.org/handbook/current>

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美kazumi.natsuhara@med.toho-u.ac.jp
 ※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないで注意すること。

科目名称	国際保健学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced International Health I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

国際保健・看護の概念、対象の特徴を説明できる。取り組むべき健康課題の重要性について背景にある状況を関連付けながら根拠とともに主張できる。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健・看護活動の対象理解に役立つ科目である。受講生の興味関心を活かし、テーマの中でのサブテーマの決定は自由とする。文献講読、発表、討論を通してActivethinkingを促し、テーマについての新たな発見を目指す。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。課題についてはオリエンテーション時に提示する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2	国際保健学	国際保健/看護の概念	夏原
3	人類生態学的	人間の多様性について (人類生態学の視点から 1)	夏原
4	人類生態学的	人間の多様性について (人類生態学の視点から 2)	夏原
5	人類生態学的	世界の健康課題の背景	夏原
6	健康と文化	健康観・病気観と文化	夏原
7	国際保健活動	国際保健活動の対象の特徴 (歴史・地理的特徴)	夏原
8	国際保健活動	国際保健活動の対象の特徴 (保健医療の状況)	夏原
9	国際保健活動	国際保健活動の対象の特徴 (特殊な状況における活動)	夏原
10	国際保健活動	取り組むべき課題 Population issue, Communicable diseases, Non-communicable diseases, Mental health, Environmental health, Gender, etc.	夏原
11	国際保健活動	取り組むべき課題 Population issue, Communicable diseases, Non-communicable diseases, Mental health, Environmental health, Gender, etc.	夏原
12	国際保健活動	取り組むべき課題 Population issue, Communicable diseases, Non-communicable diseases, Mental health, Environmental health, Gender, etc.	夏原
13	国際保健活動	取り組むべき課題 Population issue, Communicable diseases, Non-communicable diseases, Mental health, Environmental health, Gender, etc.	夏原
14	国際保健活動	取り組むべき課題 Population issue, Communicable diseases, Non-communicable diseases, Mental health, Environmental health, Gender, etc.	夏原
15	まとめ	学びの再構築・統括	夏原

【6】 評価方法

毎回の課題の小レポート60%、授業参加態度20%、プレゼンテーション20%。

【7】 テキスト

必要時、文献、書籍などを提示する。

【8】 参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名称	国際保健学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced International HealthⅡ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

国際保健活動に関するデータ収集、分析、計画立案に関する代表的な方法論を説明できる。健康課題への対応方法について背景にある状況を関連付けながら根拠とともに主張できる。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健活動の方法を理解するのに役立つ授業である。受講生の興味関心を活かし、テーマの中でのサブテーマの決定は自由とする。文献講読、発表、討論を通してActivethinkingを促し、テーマについての新たな発見を目指す。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

毎回の課題に対して小レポートを作成し、それをもとに発表と討論を行う。課題についてはオリエンテーション時に提示する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2	健康とデータ	健康課題の探索 (健康に関するデータ)	夏原
3	健康とデータ	健康課題の探索 (データ測定と分析)	
4	健康と文化	文化が健康に影響を与える経路	夏原
5	健康と文化	異文化理解と看護理論	夏原
6	健康と文化	文化的適応としての医療	夏原
7	健康と文化	Cultural Awareness in Nursing and Health Care	夏原
8	健康と文化	Cultural Awareness in Nursing and Health Care	夏原
9	健康と文化	Cultural Awareness in Nursing and Health Care	夏原
10	健康と文化	文化人類学からみた異文化理解	
11	国際保健の方法	フィールドワーク論	夏原
12	国際保健の方法	PRIMARY HEALTH CARE: 25 YEARS AFTER ALMA-ATA PHCの変遷	夏原
13	国際保健の方法	Project cycle management	夏原
14	国際保健の方法	PRECEDE-PROCEED Model	夏原
15	まとめ	学びの再構築・統括	夏原

【6】 評価方法

毎回の課題の小レポート60%、授業参加態度20%、プレゼンテーション20%。

【7】 テキスト

Holland, K. (2017). Cultural Awareness in Nursing and Health Care: An Introductory Text. Routledge; 3版

【8】 参考書

Holland, K. (2017). Cultural Awareness in Nursing and Health Care: An Introductory Text. Routledge; 3版

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美kazumi.natsuhara■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること

科目名称	国際保健学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in International Health I	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

国際保健・看護の活動・研究の課題をアセスメントする力をつける。人口学、栄養学、文化人類学等の調査方法論を学び、データの収集、分析、まとめをスーパーバイズのもとでできるようになる。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健・看護の活動・研究に用いられる様々な方法についての基本を習得する科目である。方法論について学んだ後、データ収集からまとめまでを実際に体験する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

テキストの担当部分の内容を把握して発表する。他の院生の発表する部分も抄読することで、互いに質問しあうこと。受け入れフィールドとの調整がつけば、調査演習は日本の農漁村で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2	Research strategies in human biology	Planning a research project (Chap.1)	夏原
3	Research strategies in human biology	Research designs and sampling strategies (Chap.2)	夏原
4	Research strategies in human biology	Biocultural studies of ethnic groups (Chap.3)	夏原
5	Research strategies in human biology	Migration (Chap.4)	夏原
6	Research strategies in human biology	Nutritional studies in biological anthropology (Chap.6)	夏原
7	Research strategies in human biology	Historical demography and population structure (Chap.7)	夏原
8	Research strategies in human biology	Writing for publication (Chap.8)	夏原
9-13	調査方法	調査演習：人口調査、身体計測、食事調査、行動調査、インタビュー調査	夏原
14-15	まとめ	演習報告会 (演習レポート作成・プレゼンテーション)	夏原

【6】 評価方法

毎回の課題40%、授業参加態度20%、演習レポート20%、最終プレゼンテーション20%。

【7】 テキスト

Lasker, G. W., & Mascie-Taylor, C. N. (Eds.). Research strategies in human biology: field and survey studies (Vol. 13). Cambridge University Press. (1993)
渡辺知保他. 人間の生態学. 朝倉書店. (2011) その他必要時、文献、書籍等を提示する。

【8】 参考書

Lasker, G. W., & Mascie-Taylor, C. N. (Eds.). Research strategies in human biology: field and survey studies (Vol. 13). Cambridge University Press. (1993)
渡辺知保他. 人間の生態学. 朝倉書店. (2011) その他必要時、文献、書籍等を提示する。

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美 kazumi.natsuhara@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないので注意すること。

科目名称	国際保健学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in International Health Ⅱ	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

国際的な国際保健・看護分野の論文・資料から必要な情報を得られるようになる。自分の研究テーマがFINERかを吟味し修士論文の計画書に活かすことができる。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健活動・研究分野の興味関心のあるテーマについてレビューができるようになる授業である。テーマについての論文抄読と発表、ディスカッションを通してCriticalthinking能力をつける。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

興味のあるテーマに関して文献検索し、内容を把握して発表する。他の学生の発表する論文についても内容を把握し、互いに質問しあうこと。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2-3	論文の読み方	国際保健関連の論文の読み方 (論旨一貫性)	夏原
4	論文の読み方	国際保健関連の論文の読み方 (図表)	夏原
5-6	論文の読み方	Systematic reviewsの読み方	夏原
7-14	論文講読	文献検討と発表 Abstract, Introduction, Method, Results, Discussionの概要を まとめ、A4用紙2枚の資料を準備する。	夏原
15	まとめ	リフレクション、リフレーミング	夏原

【6】 評価方法

毎回の課題40%、授業参加態度20%、レビュー結果のまとめ40%

【7】 テキスト

HigginsJPT, GreenS(editors). CochraneHandbookforSystematicReviewsOfInterventionsVersion6[2019].
<https://training.cochrane.org/handbook/current>

【8】 参考書

HigginsJPT, GreenS(editors). CochraneHandbookforSystematicReviewsOfInterventionsVersion6[2019].
<https://training.cochrane.org/handbook/current>

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美kazumi.natsuhara@med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

事前課題を準備しなかった場合、出席とはみなさないで注意すること。

科目名称	在宅看護学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Home Health Nursing I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	藤原 和美					
担当教員	藤原和美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 在宅看護について、歴史、法制度、地域包括ケアシステム、および看護組織管理などから多面的に分析し理解を深めることができる。
2. 在宅療養の意義と看護の役割について探求することができる。

【2】 授業方針・テーマ

国内外の在宅ケアの現状、動向、および関連する法制度についての分析から、地域包括的に在宅看護の現状をアセスメントできる能力を養う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義とゼミ形式で進める。ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	在宅看護の概念	オリエンテーション	藤原
2	在宅ケアの概念①	在宅ケアの理念	藤原
3	在宅ケアの概念②	在宅ケアの歴史	藤原
4	在宅ケアの現状①	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源①	藤原
5	在宅ケアの現状②	在宅ケアに関する保健医療福祉の現状と社会資源②	藤原
6	在宅看護と地域包括ケア①	在宅看護と地域包括ケアシステムの現状	藤原
7	在宅看護と地域包括ケア②	在宅看護と地域包括ケアシステムの課題と今後	藤原
8	療養者への理解①	対象者理解のための理論	藤原
9	療養者への理解②	対象者理解の実際	藤原
10	在宅看護組織の管理運営①	訪問看護ステーションの管理運営	藤原
11	在宅看護組織の管理運営②	看護小規模多機能等、看護サービスと管理運営	藤原
12	在宅看護における倫理①	訪問看護における倫理的問題①	藤原
13	在宅看護における倫理②	訪問看護における倫理的問題②	藤原
14	在宅看護学の動向①	在宅看護学の動向	藤原
15	在宅看護学の動向②	在宅看護学の課題	藤原

【6】 評価方法

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%

【7】 テキスト

必要な文献を適宜紹介する。

【8】 参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30-13：00

【11】 特記事項

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名称	在宅看護学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Home Health NursingⅡ	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	藤原 和美					
担当教員	藤原和美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 地域で生活しながら療養する人々と家族について理解を深めるため、在宅看護の基本的な理論について探求できる。
2. 対象を理解するための理論を理解し、在宅看護における課題を明確にできる。

【2】 授業方針・テーマ

理論やモデルをもとに在宅療養者をアセスメントできる基礎能力を養う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義とゼミ形式で進める。ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	在宅看護学における理論と概念①	ガイダンス	藤原
2	在宅看護学における理論と概念②	エンパワメント①	藤原
3	在宅看護学における理論と概念③	エンパワメント②	藤原
4	在宅看護学における理論と概念④	ストレングスモデル①	藤原
5	在宅看護学における理論と概念⑤	ストレングスモデル②	藤原
6	在宅看護学における理論と概念⑥	国際生活機能分類－ICF－①	藤原
7	在宅看護学における理論と概念⑦	国際生活機能分類－ICF－②	藤原
8	在宅看護学における理論と概念⑧	ニューマン・システムモデル①	藤原
9	在宅看護学における理論と概念⑨	ニューマン・システムモデル②	藤原
10	在宅看護と家族看護論①	在宅療養者と家族の実際と課題①	藤原
11	在宅看護と家族看護論②	在宅療養者と家族の実際と課題②	藤原
12	在宅看護と家族看護論③	在宅療養者と家族の実際と課題③	藤原
13	地域と在宅ケア①	療養場所移行を支えるチームケアのあり方と看護①	藤原
14	地域と在宅ケア②	療養場所移行を支えるチームケアのあり方と看護②	藤原
15	地域と在宅看護	地域における在宅看護の役割と課題	藤原

【6】 評価方法

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%

【7】 テキスト

必要な文献を適宜紹介する。

【8】 参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30-13:00

【11】 特記事項

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名称	在宅看護学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Home Health Nursing I	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	藤原 和美					
担当教員	藤原和美 (看護学部・教授)					

【1】 教育目標

1. 地域において療養する人とその家族を包括的にアセスメントするための方略を文献および実践を通して理解できる。2. 在宅療養継続のためのシームレスな看護方略およびチームケアのあり方について探求できる。

【2】 授業方針・テーマ

在宅看護学に関連する文献に関して批判的に吟味、検討するとともに、実践報告のレビューを行いゼミ形式で課題検討、および効果的な在宅看護実践方法を探求する能力を養う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

ゼミ形式で進める。ゼミ形式では事前課題の学修をもとに、積極的に参加し課題を深めることを期待する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	在宅看護学研究	ガイダンス	藤原
2	在宅看護継続のための看護方略①	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略①	藤原
3	在宅看護継続のための看護方略②	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略②	藤原
4	在宅看護継続のための看護方略③	在宅療養継続のためのシームレスな看護方略③	藤原
5	在宅看護における文献クリティック①	在宅療養に関する量的研究①	藤原
6	在宅看護における文献クリティック②	在宅療養に関する量的研究②	藤原
7	在宅看護における文献クリティック③	在宅療養に関する量的研究③	藤原
8	在宅看護における文献クリティック④	在宅療養に関する質的研究①	藤原
9	在宅看護における文献クリティック⑤	在宅療養に関する質的研究②	藤原
10	在宅看護における文献クリティック⑥	在宅療養に関する質的研究③	藤原
11	フィールドワーク①	フィールドワーク計画書の作成①	藤原
12	フィールドワーク②	フィールドワーク計画書の作成②	藤原
13	フィールドワーク③	フィールドワーク計画書の発表①	藤原
14	フィールドワーク④	フィールドワーク計画書の発表②	藤原
15	フィールドワーク⑤	フィールドワーク計画書の修正	藤原

【6】 評価方法

課題提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%

【7】 テキスト

必要な文献を適宜紹介する。

【8】 参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30-13：00

【11】 特記事項

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名称	在宅看護学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Home Health NursingⅡ	選択	演習	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	藤原 和美					
担当教員	藤原和美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 関心を持っている看護実践の場において、在宅療養における重要な課題や研究課題を明確にできる。
2. 研究課題を実証的に検討する方法を検討し、研究計画書を立案できる。

【2】 授業方針・テーマ

各自が関心を持っている領域から研究課題を明確にし、分析方法を検討できる能力を養う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

ゼミ形式で行い、学生の主体的な運営により実施する。行なってきた文献検討、フィールドワークのプレゼンテーションをもとに積極的な討論を展開し課題を深めることを期待する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	研究ガイダンス	研究の進め方	藤原
2	在宅看護学における研究課題①	在宅看護学における研究課題の発表①	藤原
3	在宅看護学における研究課題②	在宅看護における研究課題の発表②	藤原
4	研究課題の明確化①	研究課題における文献クリティーク (1)	藤原
5	研究課題の明確化②	研究課題における文献クリティーク (2)	藤原
6	研究課題の明確化③	研究課題における文献クリティーク (3)	藤原
7	研究デザイン①	研究デザインの発表①	藤原
8	研究デザイン②	研究デザインの発表②	藤原
9	フィールドワーク・予備調査①	フィールドワーク①	藤原
10	フィールドワーク・予備調査②	フィールドワーク②	藤原
11	フィールドワーク・予備調査③	フィールドワーク③	藤原
12	フィールドワーク・予備調査④	フィールドワーク・予備調査の結果評価①	藤原
13	フィールドワーク・予備調査⑤	フィールドワーク・予備調査の結果評価②	藤原
14	研究計画書①	研究計画書の作成	藤原
15	研究計画書②	研究計画書の発表	藤原

【6】 評価方法

課題提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%

【7】 テキスト

必要な文献を適宜紹介する。

【8】 参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30-13：00

【11】 特記事項

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名称	感染制御学特論 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Infection Control and Prevention I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	小林 寅喆					
担当教員	小林寅喆 (看護学研究科・教授) 勝瀬明子 (看護学研究科・准教授) 内藤拓 (医学部・准教授)					

【1】 教育目標

1. 感染症起炎菌の感染経路と対策について具体的に述べるができる。
2. 臨床における主な感染症とその診断法の概要を説明できる。
3. 抗菌薬と抗菌薬耐性菌に関する基礎的知識について述べるができる。
4. 病原体に対する宿主免疫の働きについて述べるができる。

【2】 授業方針・テーマ

感染症の起炎菌と感染経路およびその制御について検討する。
感染症の診断と治療に関する基礎知識と宿主免疫の働きについて理解する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義を基にゼミナール形式で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染制御学の概念	感染制御とは	小林
2	感染症と流行	病原体の移動と伝播	小林
3	感染経路と遮断	各種感染経路別対策と方法	小林
4	感染症と病原微生物①	食中毒と主要な細菌感染症	小林
5	感染症と病原微生物②	主要なウイルス感染症と特徴	小林
6	日和見感染症	免疫力の低下と感染症	小林
7	感染症診断①	臨床検体の採取と取扱い	小林
8	感染症診断②	臨床検体からの起炎菌の検出と診断の概念	小林
9	抗菌薬感受性の基礎	抗菌薬感受性試験と概念	勝瀬
10	抗菌薬感受性と標準法	抗菌薬感受性とガイドラインによる判定基準	勝瀬
11	抗菌薬と特徴①	抗菌薬の微生物に対する作用	勝瀬
12	抗菌薬と特徴②	抗菌薬の種類と作用機序	勝瀬
13	抗菌薬耐性菌	臨床で検出される主な抗菌薬耐性菌	勝瀬
14	免疫①	免疫とは	内藤
15	免疫②	病原体に対する免疫の働き	内藤

【6】 評価方法

課題への取り組み(70%)、レポート(30%)で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【7】 テキスト

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp
勝瀬明子akiki■med.toho-u.ac.jp
内藤拓taku.naitou■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

小林寅喆毎週木曜日12:15-13:15
勝瀬明子毎週木曜日12:15-13:15
内藤拓授業終了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

過去に学習した感染と防御(予防)に関する内容について復習しておくことが望ましい。
身近に発生している感染症について情報を集め調べておくこと。

科目名称	感染制御学特論Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Infection Control and PreventionⅡ	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	小林 寅喆					
担当教員	小林寅喆（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授） 内藤拓（医学部・准教授）					

【1】 教育目標

1. 医療関連感染で問題となる病原体と分布について具体的に述べるができる。
2. 抗菌薬耐性菌の性質とそれらが生じる仕組みを説明することができる。
3. 抗菌薬の特性と適正使用による耐性菌の抑制法に関する基礎的な知識を説明することができる。
4. アレルギーや特殊病態下での免疫と感染症とのかかわりについて概要を説明することができる。

【2】 授業方針・テーマ

医療関連施設内感染が生じる要因について環境および宿主側の因子から探求し、サーベイランスの必要性およびその遮断法について検討する。抗菌薬耐性菌と効果的な抗菌薬治療について科学的根拠に基づいたPK-PD理論を理解する。特殊病態下での免疫について理解し、易感染宿主における感染対策について検討する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義を基にゼミナール形式で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	医療関連感染	医療関連感染の実態など	小林
2	医療関連感染と病原体	医療関連感染の主な病原体	小林
3	起炎菌と感染症診断①	抗原や遺伝子を利用した感染症診断	勝瀬
4	起炎菌と感染症診断②	染色や培養法による感染症診断	勝瀬
5	AMR(抗菌薬耐性菌問題)	世界における抗菌薬耐性菌問題	小林
6	抗菌薬耐性菌①	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陽性菌)など	小林
7	抗菌薬耐性菌②	医療関連施設で問題となる耐性菌(グラム陰性菌)など	小林
8	抗菌薬適正使用①	抗菌薬の体内動態とモニタリング	小林
9	抗菌薬適正使用②	PK-PD理論と抗菌薬適正使用	小林
10	感染症サーベイランス	各種サーベイランスと手法	小林
11	主要な感染症①	血流感染症と起炎菌の特徴	小林
12	主要な感染症②	呼吸器感染症、尿路感染症と起炎菌の特徴	小林
13	免疫③	免疫とアレルギー	内藤
14	免疫④	特殊病態下での免疫	内藤
15	遺伝子疫学解析	遺伝子手法を利用した分子疫学的解析	小林

【6】 評価方法

課題への取り組み(70%)、レポート(30%)で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【7】 テキスト

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting. 30thed. CLSI supplement M100, 2020.」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting. 30thed. CLSI supplement M100, 2020.」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

小林寅喆 (連絡先: kobatora■med. toho-u. ac. jp)
勝瀬明子 akiki■med. toho-u. ac. jp
内藤拓 taku. naitou■med. toho-u. ac. jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

小林寅喆 毎週木曜日 12:15-13:15
勝瀬明子 毎週木曜日 12:15-13:15

【11】 特記事項

感染制御学特論 I で学習した内容を復習しておくこと。
医療関連感染など身近に発生している感染症について情報を集め調べておくこと。

科目名称	感染制御学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Infection Control and Prevention I	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	小林 寅詰					
担当教員	小林寅詰 (看護学研究科・教授) 勝瀬明子 (看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

1. 微生物を法令に準拠した方法で適正に取り扱うことができる。
2. 細菌学的手法を用い感染症の診断と耐性菌検出を行うことができる。
3. 実際のアウトブレイク事例をとおりサーベイランスの方法を行うことができる。

【2】 授業方針・テーマ

感染制御学特論を基盤に、感染症の診断について理解し、感染制御における意義を検討する。感染症起炎菌の抗菌薬に対する感受性を実験的に検証することにより抗菌薬の特性や抗菌薬耐性菌の検索の手法を理解し、病院感染および市中感染の適切な対応へつなげる能力を培う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

実験を通し微生物の取り扱いおよび手法を学ぶとともに、実験結果に対する考察を討議する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染症および微生物と法律①	バイオハザード、バイオセーフティ	小林・勝瀬
2	感染症および微生物と法律②	病原微生物の適正な取扱い方法	小林・勝瀬
3	感染症診断①	起炎菌と常在菌、臨床検体の採取と適切な取り扱い	小林・勝瀬
4	感染症診断②	塗抹と鏡見、グラム染色	小林・勝瀬
5	感染症診断③	臨床検体の培養と同定	小林・勝瀬
6	感染症診断④	迅速診断法	小林・勝瀬
7	抗菌薬耐性菌 (AMR) と感染制御①	抗菌薬感受性測定の原理と実際1 ディスク拡散法	小林・勝瀬
8	抗菌薬耐性菌 (AMR) と感染制御②	抗菌薬感受性測定の原理と実際2 MIC法	小林・勝瀬
9	抗菌薬耐性菌 (AMR) と感染制御③	国際標準 (CLSI) 基準による感受性測定結果の解釈	小林・勝瀬
10	抗菌薬耐性菌 (AMR) と感染制御④	抗菌薬耐性菌の検出1	小林・勝瀬
11	抗菌薬耐性菌 (AMR) と感染制御⑤	抗菌薬耐性菌の検出2	小林・勝瀬
12	抗菌薬耐性菌 (AMR) と感染制御⑥	抗菌薬による起炎菌の殺菌効果の検証	小林・勝瀬
13	感染制御を目的としたサーベイランス①	流行の分類、アウトブレイクの検知	小林・勝瀬
14	感染制御を目的としたサーベイランス②	アウトブレイク事例への対応の実際1	小林・勝瀬
15	感染制御を目的としたサーベイランス③	アウトブレイク事例への対応の実際2	小林・勝瀬

【6】 評価方法

課題への取り組み (80%)、レポート (20%) で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【7】 テキスト

小林寅詰 「はじめよう看護の感染と防御」 ヴァンメディカル・2016年 (第2版)
小林寅詰 「読めば分かる! 耐性菌のお話」 ヴァンメディカル・2012年 (初版)
CLSIガイドライン 「Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing, 30th ed. CLSI supplement M100, 2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting. 30thed. CLSI supplement M100, 2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp
勝瀬明子akiki■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

小林寅喆毎週木曜日12:15-13:15
勝瀬明子毎週木曜日12:15-13:15

【11】 特記事項

必要に応じ集中的日程の中で演習を行う。
感染制御学特論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておくこと。
医療関連感染など身近に発生している感染症と抗菌薬耐性菌について情報を集め調べておくこと。
病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

科目名称	感染制御学演習Ⅱ	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Infection Control and PreventionⅡ	選択	演習	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	小林 寅詰					
担当教員	小林寅詰（看護学研究科・教授）勝瀬明子（看護学研究科・准教授）					

【1】 教育目標

1. 抗菌薬耐性菌の生じる仕組みと耐性機構について具体的に述べるができる。
2. 病院内および市中に分布する耐性菌を調査し菌株間の関連性を解析する分子遺伝学的手法を実施することができ、その結果を解析することができる。

【2】 授業方針・テーマ

抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染および市中感染の起炎菌の抗菌薬耐性機序の解析と使用抗菌薬との関連を検証する。病院感染の原因菌の伝播経路の解析方法を学び、結果を考察し実践への応用について検討する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

実験を通し微生物の取り扱いおよび手法を学ぶとともに、実験結果に対する考察を討議する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策①	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討1	小林・勝瀬
2	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策②	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討2	小林・勝瀬
3	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策③	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討3	小林・勝瀬
4	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策④	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討4	小林・勝瀬
5	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策⑤	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討5	小林・勝瀬
6	抗菌薬耐性菌の仕組みと耐性機構、対策⑥	抗菌薬耐性菌の試験管内における選択と、耐性メカニズムの検証、および対策方法についての検討6	小林・勝瀬
7	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法①	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得1	小林・勝瀬
8	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法②	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得2	小林・勝瀬
9	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法③	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得3	小林・勝瀬
10	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法④	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得4	小林・勝瀬
11	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法⑤	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得5	小林・勝瀬
12	抗菌薬耐性菌の検出法、および疫学的解析手法⑥	病院内および市中に分布する抗菌薬耐性菌の検出、および分子遺伝学的手法を用いた疫学的解析方法の習得6	小林・勝瀬
13	演習内容の研究テーマへの活用①	演習に基づいた研究テーマの明確化、検証	小林・勝瀬
14	演習内容の研究テーマへの活用②	研究概要の整合性と妥当性の検証	小林・勝瀬
15	演習内容の研究テーマへの活用③	研究計画書の内容について討議	小林・勝瀬

【6】 評価方法

課題への取り組み(80%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【7】 テキスト

小林寅詰「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅詰「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing, 30th ed. CLSI supplement M100, 2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting. 30thed. CLSI supplement M100, 2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

小林寅喆kobatora ■med. toho-u. ac. jp
勝瀬明子akiki ■med. toho-u. ac. jp

【10】 オフィスアワー

小林寅喆毎週木曜日12:15-13:15
勝瀬明子毎週木曜日12:15-13:15

【11】 特記事項

必要に応じ集中的日程の中で演習を行う。
感染制御学特論Ⅱ、感染制御学演習Ⅰで学習した内容、実験手技について復習しておくこと。
医療関連感染などに関する各種ガイドラインについて情報を集め調べておくこと。
病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

科目名称	看護教育論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Education of nursing science	選択	講義	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵（看護学研究科・教授）新保幸洋（理学部・教授）					

【1】 教育目標

教育の概念と教育方法の原理および成人教育の原理と方法を理解する。
看護専門職と生涯教育、看護ケアの質向上と看護職の能力開発、看護継続教育の方法と評価のあり方などを探究する。

【2】 授業方針・テーマ

わが国の看護専門職の現状を多角的に考察し、広い視野から生涯教育のあり方を展望する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

基本的にはゼミ形式で進めるが、テーマによっては演習形式で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	教育とは①	教育の概念・理念・本質	新保
2	教育とは②	教育方法の概念と種類	新保
3	学習理論と教育方法①	コースデザインと評価方法について	村上
4	学習理論と教育方法②	コースデザインと評価方法について	村上
5	教育実践に関する理論①	状況に埋め込まれた学習	村上
6	教育実践に関する理論②	周辺の正統参加論	村上
7	教育実践に関する理論③	経験学習理論	村上
8	授業設計①	学生を主体とした授業における授業設計	村上
9	授業設計②	臨地実習における授業設計	村上
10	模擬授業①	専門分野に関する講義を計画し、実施、評価する	村上
11	模擬授業②	専門分野に関する講義を計画し、実施、評価する	村上
12	模擬授業③	専門分野に関する講義を計画し、実施、評価する	村上
13	模擬授業④	専門分野に関する講義を計画し、実施、評価する	村上
14	模擬授業⑤	専門分野に関する講義を計画し、実施、評価する	村上
15	模擬授業⑥	専門分野に関する講義を計画し、実施、評価する	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med. toho-u. ac. jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

事前に提示された課題を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	看護理論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Nursing Theory	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科・教授）					

【1】 教育目標

看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を理解する。看護実践の基盤となる諸理論の構成、利点及び限界や、看護実践・研究・教育への活用を検討する。

- 1) 看護学の理論体系の発展経緯を説明することができる。
- 2) いくつかの看護論の背景、主要概念、枠組みを説明することができる。
- 3) 理論に基づく事例検討を行い、課題解決に看護理論を用いる方法を説明することができる。
- 4) 1つの看護理論について背景、主要概念、枠組み、事例への活用方法をプレゼンテーションすることができる。

【2】 授業方針・テーマ

看護理論は「看護」という営みを理解し、新たな看護実践を創造する理論枠組として価値づけられる。本科目では、代表的な看護理論について論及し、理論の看護事象への活用法を探究する。また、選択した1つの理論をクリティークし、結果をプレゼンテーションする。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

討議形式の授業・課題検討・課題発表をすることで積極的な参加を期待する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護学の理論体系の発展経緯	看護における理論開発の歴史 看護理論の概観と看護科学、看護学との関連	菊池
2	看護現象の概念化や理論化の意味や重要性①	看護理論の諸概念 卓越した看護実践への看護理論の活用 看護実践の質を維持・発展させるための理論構築	菊池
3	看護現象の概念化や理論化の意味や重要性②	理論と概念、理論の分析と評価 看護実践・教育・研究における看護理論の重要性	菊池
4	セルフケア理論	ドロセア・オレムの看護理論①	菊池
5	セルフケア理論	ドロセア・オレムの看護理論②	菊池
6	クリティーク演習①	看護理論のクリティーク①	菊池
7	ケアリング理論	ジーン・ワトソンの看護理論①	菊池
8	ケアリング理論	ジーン・ワトソンの看護理論②	菊池
9	クリティーク演習②	看護理論のクリティーク②	菊池
10	中範囲理論①	病みの軌跡理論①	菊池
11	中範囲理論②	病みの軌跡理論②	菊池
12	クリティーク演習③	看護理論のクリティーク③	菊池
13	課題発表①	看護理論のクリティーク④	菊池
14	課題発表②	看護理論のクリティーク⑤	菊池
15	まとめ	看護理論の看護実践への活用	菊池

【6】 評価方法

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

筒井真優美編集(2015), 看護理論家の業績と理論評価, 医学書院

【8】 参考書

筒井真優美編集(2015), 看護理論家の業績と理論評価, 医学書院

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美mayumi.kikuchi@med.toho-u.ac.jp

※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30-13:00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

事前に配布された授業資料およびテキスト該当箇所は事前に読み、各自の意見をもって授業に参加することを期待する。

科目名称	看護倫理	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Nursing Ethics	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵 (看護学研究科・教授) 伊藤桂子 (看護学研究科・教授) 平田松吾 (看護学研究科・非常勤講師)					

【1】 教育目標

1. 生命倫理の基礎的知識を理解し、看護倫理の歴史的背景、国際的動向の理解を深める。
2. 看護実践における倫理的問題についての分析と意思決定のプロセスを再考する。
3. 多様化する社会現象を看護倫理の視点から分析する。

【2】 授業方針・テーマ

めまぐるしく変化する医療・看護の現場および社会における倫理的課題について理解する。生命倫理と看護倫理の基礎的知識、看護の場における倫理的問題とジレンマ、遺伝医療と診断の発展による情報化社会での倫理的課題、終末期医療と安楽死、人権擁護とハラスメント、など多岐にわたる事例をとおして、看護倫理とは何かを学生ひとりひとりが追求していく。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義内容と文献や書籍を基に学修し、ゼミナール形式で議論を行う。さらに各学習者の看護実践と結びつける。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護倫理とは	歴史的背景と倫理原則	村上
2	倫理原則①	倫理原則 Non-maleficence/Beneficence/Justice/Autonomy/Veracity/Fidelityについて	村上
3	倫理原則②	倫理原則 Non-maleficence/Beneficence/Justice/Autonomy/Veracity/Fidelityについて	村上
4	倫理とは①	哲学的背景、倫理学、そして看護倫理へ	平田
5	倫理とは②	哲学的背景、倫理学、そして看護倫理へ	平田
6	看護実践にかかわる倫理概念①	看護実践にかかわる倫理概念 Advocacy/Accountability/Responsibility/Caring/Cooperationについて	村上
7	看護実践にかかわる倫理概念②	看護実践にかかわる倫理概念 Advocacy/Accountability/Responsibility/Caring/Cooperationについて	村上
8	看護が直面する倫理的課題①	看護の場における倫理的問題とジレンマ	伊藤
9	看護が直面する倫理的課題②	看護の場における倫理的問題とジレンマ	伊藤
10	看護が直面する倫理的課題③	看護の場における倫理的問題とジレンマ	伊藤
11	看護が直面する倫理的課題④	看護の場における倫理的問題とジレンマ	伊藤
12	研究倫理①	研究倫理指針、倫理審査、利益相反をめぐる問題点	村上
13	研究倫理②	研究倫理指針、倫理審査、利益相反をめぐる問題点	村上
14	専門分野における倫理課題①	各自の専門分野における倫理課題に関する最近/最新の知見、専門分野を超えて共通あるいは異なる問題の側面の検討	村上
15	専門分野における倫理課題②	各自の専門分野における倫理課題に関する最近/最新の知見、専門分野を超えて共通あるいは異なる問題の側面の検討	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

学習した内容の発表など、学習者主体のゼミナール形式のため積極的な発表と議論を期待する。各講義の前には、発表準備ならびに十分な文献・資料を読み講義に臨むこと。

科目名称	疾病学特論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Clinical Medicine	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	湯浅 玲奈					
担当教員	湯浅玲奈（看護学研究科・教授）					

【1】 教育目標

疾患の病態生理を理解し、医療現場で実際に患者を診る際に役立つ知識を習得する。

【2】 授業方針・テーマ

疾患の病態生理を理解するために、人体の正常構造やその機能を知り、臨床医学、臨床看護に役立つ知識を身につける。他の疾患と臨床症状が似ているために適切な診断と治療にすぐに結びつきづらい内分泌疾患や加齢により生じる多様な変化などを、最近のトピックスも取り入れ講義する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義、学生によるプレゼンテーションおよび討議。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	内分泌学①	内分泌疾患とその診断Ⅰ－甲状腺・副腎を中心に－	湯浅
2	内分泌学②	内分泌疾患とその診断Ⅱ－下垂体を中心に－	湯浅
3	内分泌学③	他の疾患と間違えられやすい甲状腺疾患	湯浅
4	腎臓学①	腎疾患と内分泌疾患	湯浅
5	腎臓学②	腎代替療法	湯浅
6	更年期学①	女性の更年期障害	湯浅
7	更年期学?	男性の更年期障害	湯浅
8	加齢医学①	加齢による変化－生理的－	湯浅
9	加齢医学?	加齢による変化－疾患として－	湯浅
10	老年医療学①	誤嚥性肺炎	湯浅
11	老年医療学?	フレイル	湯浅
12	老年医療学③	フレイルに対する理学療法の重要性	湯浅
13	緩和医療学①	疼痛緩和－担癌患者と非担癌患者－	湯浅
14	緩和医療学?	緩和医療－広義での－	湯浅
15	緩和医療学③	グリーフケア	湯浅

【6】 評価方法

課題への取り組み30%、プレゼンターテーション50%、レポート20%から総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。
レポートについてはA, B, Cの3段階で評価し、返却する。
試験については結果を提示し、設問について解説する。

【7】 テキスト

プリントを配布するが、必要に応じ参考書を指示する。

【8】 参考書

プリントを配布するが、必要に応じ参考書を指示する。

【9】 科目担当者連絡先

湯浅玲奈 rnyuasa■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

メールで事前に連絡をすること。

【11】 特記事項

授業に臨むにあたり、講義に関する疾患や病態について各自理解し、討論に参加できるように準備しておくこと。積極的な討論への参加を期待する。

科目名称	看護英語論文通読	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Methods of Nursing Research	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	吉朝 加奈					
担当教員	吉朝加奈 (看護学研究科・講師)					

【1】 教育目標

- 健康や医療・看護に関わる英文を読み、理解することができる。
- 看護英語論文の読み方の基礎を身につけ、自らの専門分野の論文精読に活用できる。

【2】 授業方針・テーマ

研究に必要な英語論文を読む力を養う。正確に内容を理解する力をつけるとともに、多数の文献の中から必要な情報を素早く得るためのskimming (概要をつかむ読み方) やscanning (必要な情報を効率的に探し出す読み方) などのテクニックを学ぶ。テキストを用いて、看護研究における基礎的な専門用語や知識、看護論文の読み方の基礎力をつけたのち、受講者それぞれが自ら選んだ専門分野の文献を読んでいく。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

指定のテキストと専門分野の英語論文を講読する。事前に提示された文献については、必ず予習をして参加すること。専門分野の英語論文については、学期中に段階的に読み進め、その内容について授業内 (14・15回目) で個人発表を行う。講義、およびワークショップの形式で進めていく。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	英語	ガイダンス、授業の概要、	吉朝
2	ReadingSkill (1)	英語の文章構造について	吉朝
3	ReadingSkill (2)	様々なReading手法 (Skimming、Scanning他)	吉朝
4-5	英文講読 (1)	Ch. 1IntroductiontoNursingResearch (看護研究序説)	吉朝
6-7	英文講読 (2)	Ch. 2FundamentalsofEvidence-BasedNursingPractice (エビデンスに基づく看護研究の基礎)	吉朝
8-9	英文講読 (3)	Ch. 3KeyConceptsandStepsinQuantitativeandQualitativeResearch (量的研究と質的研究の主要概念とステップ)	吉朝
10-11	英文講読 (4)	Ch. 4ReadingandCritiquingResearchArticles (文献検討)	吉朝
12-13	英文講読 (5)	Ch. 11QualitativeDesignsandApproaches (質的研究のデザインと方法)	吉朝
14	個人発表 (1)	各受講生が専門分野の英語論文を読解し、概要を発表。	吉朝
15	個人発表 (2) ・まとめ	各受講生が専門分野の英語論文の概要を発表。講義内容のまとめを行う	吉朝

【6】 評価方法

平常点 (課題への取り組み・授業への貢献度) 60%、個人発表40%で総合的に判断する。評価については、授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【7】 テキスト

DeniseF. PolitandCherylT. Beck 「EssentialsofNursingResearch—AppraisingEvidenceforNursingPractice (InternationalEdition) 」 WoltersKluwer, 2017 (Ninthed.)

【8】 参考書

早川和生編著「看護研究の進め方—論文の書き方」医学書院、2012年 (第2版)
他、適宜、必要に応じて関連論文・資料などの配布資料あり

【9】 科目担当者連絡先

吉朝加奈kana.yoshiasa@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30-13:00

【11】 特記事項

授業に英和・和英辞典（電子辞書可）を持参する。
履修者の専門分野や講義の進捗状況等によってスケジュールか？変更になる場合もある。

科目名称	医療言語論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Medical Discourse Analysis	選択	講義	1年次・秋	2単位	15時間
科目責任者	小林 薫					
担当教員	小林薫 (看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

医療は言語活動の場である。言語活動を幅広く分析し、考察する能力を養う。

【2】 授業方針・テーマ

言語活動を考察するために重要なテキストを読み、その読解を中心に、言語活動の諸問題を考える。とりわけ「病」「健康」「医療」をめぐる言語のあり方について、ポスト構造主義言語理論や文学理論、医療人類学の成果を紐解きつつ、「ことば」が「病と健康」という二項対立の構造を構築する過程について、ブックレポートを通じて検討する。一部、英語のテキストを読む場合もある。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義、ブックレポートおよびディスカッション形式で進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	導入 医療言語論とは	なぜ医療言語論か？－多言語社会としての医療現場	小林
2	文献検討1	波平『医療人類学入門』検討1	小林
3	文献検討2	波平『医療人類学入門』検討2	小林
4	文献検討3	波平『医療人類学入門』検討3	小林
5	文献検討4	波平『医療人類学入門』検討4	小林
6	文献検討5	波平『医療人類学入門』検討5	小林
7	文献検討6	波平『医療人類学入門』検討6	小林
8	文献検討7	波平『医療人類学入門』検討7	小林
9	文献検討8	波平『医療人類学入門』検討8	小林
10	文献検討9	波平『医療人類学入門』検討9	小林
11	文献検討10	波平『いのちの文化人類学』検討1	小林
12	文献検討11	波平『いのちの文化人類学』検討2	小林
13	文献検討12	波平『いのちの文化人類学』検討3	小林
14	文献検討13	波平『いのちの文化人類学』検討4	小林
15	文献検討14 まとめ	波平『いのちの文化人類学』検討5	小林

【6】 評価方法

口頭発表30%、ディスカッションへの貢献20%、レポート50%

【7】 テキスト

波平恵美子『医療人類学入門』朝日選書4911994年
波平恵美子『いのちの文化人類学』新潮選書1996年

【8】 参考書

参考文献表を授業時に配布する。

【9】 科目担当者連絡先

小林薫kaoru.kobayashi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

授業前後

【11】 特記事項

参考書目には必ず目を通すこと。

科目名称	心理学研究特論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Psychology Research	選択	講義	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	伊藤 桂子					
担当教員	伊藤桂子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 心理学全般に関する研究原理の基礎的な知識について述べることができる。
2. 対象の理解と看護実践に必要な発達心理学や臨床心理学について概要を説明できる。
3. 臨床心理学における心理査定法、心理療法、研究法について述べるができる。
4. 心理学的な視点により、社会の人々が直面している問題・課題について説明できる。

【2】 授業方針・テーマ

心理学全般に関する研究原理を概説し、次に分野ごとの代表的な研究例を参照しながら研究方法を述べる。対象の理解と看護実践に必要な発達心理学や臨床心理学について基本的な知識を体系的に学び、自らの看護実践や研究への心理学の活用について検討する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義や演習を基に、ゼミナール形式で議論を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	心理学概論①	オリエンテーション、授業の概要、心理学研究法	伊藤
2	心理学概論②	感覚・知覚	伊藤
3	心理学概論③	認知・学習	伊藤
4	心理学概論④	感情・動機づけ	伊藤
5	心理学概論⑤	パーソナリティの類型論と特性論、パーソナリティの測定	伊藤
6	心理学概論⑥	対人認知・援助行動・リーダーシップ	伊藤
7	心理学概論⑦	発達心理	伊藤
8	臨床心理学査定概論	心理的アセスメント・心理検査の特徴、意義および限界	伊藤
9	様々な臨床心理査定技法①	主な心理検査の適用および実施、解釈	伊藤
10	様々な臨床心理査定技法②	主な心理検査の適用および実施、解釈	伊藤
11	心理学研究の実際①	心理学の理論を活用した研究①	伊藤
12	心理学研究の実際②	心理学の理論を活用した研究②	伊藤
13	心理学研究の実際③	心理学を看護に応用した研究①	伊藤
14	心理学研究の実際④	心理学を看護に応用した研究②	伊藤
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	伊藤

【6】 評価方法

課題への取り組み (20%)、プレゼンテーション (60%)、レポート (20%) で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

伊藤桂子 keiko.itou■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 45 - 13 : 00

【11】 特記事項

事前に提示された文献を丁寧に抄読して、参加すること。

科目名称	生殖医学特論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Reproductive Medicine	選択	講義	1年次・春	単位	30時間
科目責任者	松永 佳子					
担当教員	松永佳子 (看護学研究科・准教授) 片桐由起子 (大森病院・教授) 竹下直樹 (佐倉病院・教授) 土屋雄彦 (大森病院・准教授) 谷口智子 (大森病院・助教) 星秀夫 (医学部・講師) 小林寅詰 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 男女の生殖器系の解剖を図示し、男女の生殖器系の生理を説明できる。
2. 女性の悪性腫瘍の診断方法、治療方法を説明できる。
3. 生殖や妊孕性に関連する倫理を含む諸問題を理解し、女性の妊孕性に影響する要因を述べることができる。

【2】 授業方針・テーマ

助産師国家試験受験資格を得るための必須科目である。
性と生殖に関する知識を医学的観点から教授する。生殖器の機能、生殖補助医療、性感染症、不妊症などを中心テーマとする。
男女の生殖器系の健康状態を査定し診断するために必要な性と生殖の基礎的な知識を学ぶ。また、ライフサイクル各期の起こる主な疾患や生殖や妊孕性に関連する諸問題、生殖医療、性感染症について理解し、健康状態のアセスメントができる能力を身につける。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義の後に、その実際を見学することで、より理解を深められるようにする。したがって、講義の後の復習をすることが不可欠である。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	男女の生殖器系①	男女の生殖器系の解剖①	星
2	男女の生殖器系②	男女の生殖器系の解剖② (見学)	星
3	生殖器系の検査と治療①	女性の健康に影響を及ぼす因子	土屋
4	生殖器系の検査と治療②	性と生殖に関連する薬物	土屋
5	生殖器系の検査と治療③	生殖器系の検査と治療①	土屋
6	生殖器系の検査と治療④	生殖器系の検査と治療②	土屋
7	女性の性周期と不妊	女性の性周期の調整機序と不妊症	片桐
8	生殖補助医療・がん生殖	生殖補助医療・がん生殖	片桐
9	性感染症	性感染症	小林
10	出生前診断	倫理と出生前診断の方法	竹下
11	遺伝	遺伝性疾患の診断と治療	竹下
12	更年期障害	更年期障害	松永
13	女性の悪性腫瘍①	女性の悪性腫瘍の診断・治療①	谷口
14	女性の悪性腫瘍②	女性の悪性腫瘍の診断・治療②	谷口
15	講義内容のまとめ	講義内容のまとめ	松永

【6】 評価方法

試験 (80%)、課題 (15%) および授業への取り組み (5%) で総合的に評価する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。
試験については結果を提示し、設問について解説する。

【7】 テキスト

【8】 参考書

- 1) 武谷雄二他「第3版プリンシプル産科婦人科学1」メディカルビュー社・2014年

【9】 科目担当者連絡先

松永佳子papermw■med.toho-u.ac.jp
小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

松永佳子毎週月曜日?8:00~9:00
小林寅喆授業終了後に質問を受け付ける。
片桐由起子授業終了後に質問を受け付ける。
竹下直樹授業終了後に質問を受け付ける。
土屋雄彦授業終了後に質問を受け付ける。
谷口智子授業終了後に質問を受け付ける。
星秀夫授業終了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

授業では、積極的に発言し参加すること。必ず復習をして見学等に臨むこと。

科目名称	性科学特論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Sexology	選択	講義	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子(看護学研究科・教授) 富岡由美(看護学研究科・准教授) 永尾光一(大森病院・教授) 中田かおり(看護学研究科・講師)					

【1】 教育目標

- 人間の性 (humansexuality) を、生殖という身体的・生理学的側面から説明できる。
- 人間の性 (humansexuality) を、心理社会的側面から学際的にとらえて説明できる。
- 人間の性愛や医療を大脳生理学・神経生理学の領域からもとらえて男女の性差による違いを説明できる。

【2】 授業方針・テーマ

助産師国家試験受験資格を得るための必須科目である。講義とゼミ・演習形式で展開する。助産の対象となる妊産婦とそのパートナーをそれぞれの性を持ち生きる人間として幅広く捉える基盤を養う。また、性に対する健康教育を実践することで、学部で学んだ性科学概論を基に、様々な性を生きる人間のあり様を探究する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義に加えて、一部グループワークを行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	科目ガイダンス	性の捉え方についての意見交換	福島
2	科学的にみた性	性を科学的にみる、セクシュアリティにおける性差	福島
3	女性のライフサイクルと性	思春期から更年期までの性意識	福島
4	男性のライフサイクルと性	思春期から更年期までの男性の性	永尾
5	男性の性①	男性の性反応	永尾
6	男性の性②	男性不妊の病態ED治療の臨床	永尾
7	女性の性の諸問題①	人工妊娠中絶	福島
8	女性の性の諸問題②	DV、虐待	福島
9	性の多様化①	マイノリティの性①	福島
10	性の多様化②	マイノリティの性②	福島
11	性の多様化③	マイノリティの性③	中田
12	性科学と研究	プレコンセプションについて①	富岡・中田
13	性科学と研究	プレコンセプションについて②	富岡・中田
14	性科学と研究	プレコンセプションについて③	富岡・中田
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	福島・富岡・中田

【6】 評価方法

授業およびディスカッションへの取り組み (20%)、各自の分担課題についてのプレゼンテーション (80%) で総合的に評価する。
授業時間数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。

【7】 テキスト

- 吉沢豊予子編集「助産師基礎教育テキスト第2巻ウィメンズヘルスケア」日本看護協会出版会・2020年

【8】 参考書

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子 fujiko.fukushima@med.toho-u.ac.jp
富岡由美 yumi.tomioka@med.toho-u.ac.jp
中田かおり kaori.nakada@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

福島富士子 毎週月曜日 10:00～11:00
富岡由美 毎週月曜日 10:00～11:00
中田かおり 毎週月曜日 12:00～13:00
永尾光一 授業終了後に質問を受け付ける。

【11】 特記事項

授業科目に関する春学期に学習した内容について復習しておくこと。

科目名称	看護コンサルテーション論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Nursing Consultation	選択	講義	2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵 (看護学研究科・教授) 梅澤志乃 (大森病院・精神看護専門看護師) 角田直枝 (茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター看護局長がん看護専門看護師) 富田学 (大森病院・感染症看護専門看護師)					

【1】 教育目標

1. コンサルテーションの概念および実践モデル、コンサルタントの役割、個人もしくは組織を対象としたコンサルテーションのプロセスを理解する。
2. コンサルテーションの概念枠組みを活用して、特定領域の専門的知識・技術・経験に基づき、事例を分析する能力を養う。
3. 学習した概念を用いて実際の現象を分析することを通して、専門看護師としてコンサルテーション機能を実践する際の自己の課題を明確にし、課題解決のための基礎的能力を習得する。

【2】 授業方針・テーマ

専門看護師の重要な役割であるコンサルテーションに関する概念・技術を習得する。また、各学生の専門領域におけるコンサルテーションを実施する際の課題について検討し、事例を批判的に吟味しながら実践活動に応用できる能力を習得する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義、事例検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護コンサルテーションの概要	看護コンサルテーションについて	村上
2	看護コンサルテーションの概要①	専門看護師の役割と機能 (①コンサルタントの役割、②コンサルテーションのタイプと実践モデル、③内部コンサルテーションと外部コンサルテーション、④専門看護師としてどのようにコンサルテーションを実施するか①から③の概念を用いて検討する)	村上
3	コンサルテーションの概要②	専門看護師の役割と機能 (①コンサルタントの役割、②コンサルテーションのタイプと実践モデル、③内部コンサルテーションと外部コンサルテーション、④専門看護師としてどのようにコンサルテーションを実施するか①から③の概念を用いて検討する)	村上
4	コンサルテーションの概要③	専門看護師の役割と機能 (①コンサルタントの役割、②コンサルテーションのタイプと実践モデル、③内部コンサルテーションと外部コンサルテーション、④専門看護師としてどのようにコンサルテーションを実施するか①から③の概念を用いて検討する)	村上
5	看護コンサルテーションのプロセス①	コンサルテーションの各プロセスにおける構成要素を習得し、患者中心のコンサルテーションにおける具体的な方略について、事例をもとにグループで検討する	村上
6	看護コンサルテーションのプロセス②	コンサルテーションの各プロセスにおける構成要素を習得し、患者中心のコンサルテーションにおける具体的な方略について、事例をもとにグループで検討する	村上
7	看護コンサルテーションのプロセス③	コンサルテーションの各プロセスにおける構成要素を習得し、患者中心のコンサルテーションにおける具体的な方略について、事例をもとにグループで検討する	村上
8	看護コンサルテーションのプロセス④	コンサルテーションの各プロセスにおける構成要素を習得し、患者中心のコンサルテーションにおける具体的な方略について、事例をもとにグループで検討する	村上
9	臨床における看護コンサルテーションの実際 (感染看護領域) ①	組織内における職種横断的感染対策における事例を用いながら、コンサルテーションのあり方を検討する。さらに、隔離を要する状態にある患者、HIV陽性患者などの倫理的配慮に関するコンサルテーションの実際を検討する	富田
10	臨床における看護コンサルテーションの実際 (感染看護領域) ②	組織内における職種横断的感染対策における事例を用いながら、コンサルテーションのあり方を検討する。さらに、隔離を要する状態にある患者、HIV陽性患者などの倫理的配慮に関するコンサルテーションの実際を検討する	富田
11	臨床における看護コンサルテーションの実際 (がん看護領域) ①	複雑な事例に対するがん看護専門看護師の活動の実際ケースをもとに、看護管理者と専門看護師との連携の実際と課題を検討する	角田
12	臨床における看護コンサルテーションの実際 (がん看護領域) ②	複雑な事例に対するがん看護専門看護師の活動の実際ケースをもとに、看護管理者と専門看護師との連携の実際と課題を検討する	角田
13	臨床における看護コンサルテーションの実際 (リエゾン精神看護領域) ①	複雑な事例に対する精神看護専門看護師の活動の実際ケースをもとに、コンサルティ中心のコンサルテーション活動の実際と課題を検討する	梅澤
14	臨床における看護コンサルテーションの実際 (リエゾン精神看護領域) ②	複雑な事例に対する精神看護専門看護師の活動の実際ケースをもとに、コンサルティ中心のコンサルテーション活動の実際と課題を検討する	梅澤
15	まとめ	講義のまとめを行う	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

事前に提示された課題を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	看護フィジカルアセスメント論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Nursing Physical Assessment	選択	演習	1年次・秋	2単位	45時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵(看護学研究科・教授) 竹田佳子(大森病院・看護部) 本多満(大森病院・臨床教授) 四本竜一(大森病院・看護部) 橋本裕(看護学研究科・講師) 淵本雅昭(大森病院・看護部) 山田亨(大森病院・看護部) 大和田芽衣子(大森病院・看護部) 福田友秀(共立女子大学・助教/急性・重症患者看護専門看護師) 細萱順一(東京都健康長寿医療センター・急性・重症患者看護専門看護師)					

【1】 教育目標

1. 臨床病態生理学特論・臨床薬理学特論で得た知識を活用し学内演習でそれぞれの専門分野の看護実践へとつながる基礎的なフィジカルアセスメントの知識と技術を習得できる。
2. 専門看護師として必要な高度なフィジカルアセスメント能力を習得できる。
3. 臨床を想定した複雑な事例に対してフィジカルアセスメントを実施し、高度看護実践の方針をたてることができる。

【2】 授業方針・テーマ

複雑な健康問題をもった対象の身体状況の査定と臨床判断に必要な基礎的な知識・技術を習得する。また、現在臨床実践を行っている各分野のエキスパートの指導を受けて、系統的・統合的なフィジカルアセスメントを実践する能力を習得する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義および実習室・シミュレーションラボ・救命救急センター等での演習を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護におけるフィジカルアセスメントの必要性	看護におけるフィジカルアセスメントの意義、講義・演習の進め方・シミュレータの使い方	村上・澗本
2	フィジカルアセスメントの基本	フィジカルアセスメントの基本的技法、病歴聴取と身体診察の基本	村上
3	外皮・感覚器系のアセスメント	皮膚および眼・耳・鼻・口腔の診察法	山田
4	脳神経系のアセスメント①	脳神経系の診察法、脳神経系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	澗本
5	脳神経系のアセスメント②	脳神経系の診察法、脳神経系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	澗本
6	呼吸器系のアセスメント①	呼吸器系の診察法、呼吸器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	四本
7	呼吸器系のアセスメント②	呼吸器系の診察法、呼吸器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	四本
8	循環器系のアセスメント①	循環器系の診察法、循環器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	細萱
9	循環器系のアセスメント②	循環器系の診察法、循環器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	細萱
10	消化器系のアセスメント①	消化器系の診察法、消化器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	福田
11	消化器系のアセスメント②	消化器系の診察法、消化器系の臨床事例に基づいたシミュレータ演習	福田
12	小児のフィジカルアセスメント	身体の発育、身体機能の発達、心理社会性の発達、生活習慣行動の発達	竹田
13	高齢者のフィジカルアセスメント	生理的变化をふまえた身体機能の評価、知能・認知や生活機能の評価	橋本
14	検査データからの臨床判断	臨床検査データの読み方、心電図、胸腹部X線写真の読み方	本多、山田
15	症状論1	頭痛の症状および兆候からのアセスメント	村上・澗本 四本・大和田
16	症状論2	胸痛の症状および兆候からのアセスメント	村上・澗本 四本・大和田
17	症状論3	腹痛の症状および兆候からのアセスメント	村上・澗本 四本・大和田
18	症状論4	呼吸困難の症状および兆候からのアセスメント	村上・澗本 四本・大和田
19	統合演習	東邦大学医療センター大森病院（救命救急センター、病棟等）	村上・本多・澗本 四本・大和田
20	統合演習	東邦大学医療センター大森病院（救命救急センター、病棟等）	村上・本多・澗本 四本・大和田
21	統合演習	東邦大学医療センター大森病院（救命救急センター、病棟等）	村上・本多・澗本 四本・大和田
22	統合演習	東邦大学医療センター大森病院（救命救急センター、病棟等）	村上・本多・澗本 四本・大和田
23	統合演習	東邦大学医療センター大森病院（救命救急センター、病棟等）	村上・本多・澗本 四本・大和田

【6】 評価方法

出席状況30%、演習への取り組み・プレゼンテーション30%、OSCE20%、レポート20%で評価する。

【7】 テキスト

講義・演習の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義・演習の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30-13:00

【11】 特記事項

- 1) 基本的なフィジカルアセスメントを復習した上で参加すること。
- 2) 演習に関する留意事項は別途提示する。

科目名称	看護管理	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Nursing Administration	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子(看護学研究科・教授) 草柳かほる(看護学研究科・講師) 山内英樹(看護学研究科・講師)					

【1】 教育目標

1. 高度実践看護師として必要な看護管理の基礎知識(日本におけるヘルスケアシステム・看護制度・政策・看護管理、看護職の社会的な立場や環境、組織と組織で働く人間を理解するための理論)を学ぶことで、看護管理の知識について説明できる。
2. ?の知識をもとに、自らが置かれている組織(働く場)や看護チーム・個人について分析できる。
3. ?と?を活用し、組織の中で協働する力やマネジメント能力をどのように活用するかを述べることができる。
4. 看護職における人材育成の課題や将来展望を見いだすためにキャリア開発・人的資源管理の諸理論を説明できる。

【2】 授業方針・テーマ

マクロな視点での医療制度・政策、ミクロな視点での病院組織(チーム組織)の理解、人的資源管理について講義・学生のプレゼンテーションを中心に討議を行う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

授業テーマについての学生のプレゼンテーションをもとに討議を行い、学修を深める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護管理概論①	ガイダンス/高度実践看護師として学ぶ看護管理とは	福島・草柳
2	看護管理概論②	ガイダンス/高度実践看護師として学ぶ看護管理とは	福島・草柳
3	医療の動向と看護管理①	医療行政の動向(医療政策、診療報酬)と看護専門職	草柳・山内
4	医療の動向と看護管理②	医療行政の動向(医療政策、診療報酬)と看護専門職	草柳・山内
5	医療の動向と看護管理③	医療行政(看護の質、医療安全)と高度実践看護師の役割	草柳・山内
6	医療の動向と看護管理④	医療行政(看護の質、医療安全)と高度実践看護師の役割	草柳・山内
7	組織管理①	組織論(組織行動論、組織経営論)	草柳
8	組織管理②	組織論(組織行動論、組織経営論)	草柳
9	組織管理③	組織論(リーダーシップ論、コンサルテーション、ファシリテーション)	山内
10	組織管理④	組織論(リーダーシップ論、コンサルテーション、ファシリテーション)	山内
11	人材管理①	キャリア開発の理論/人的資源管理/保健福祉医療に携わる他職種との協働	草柳
12	人材管理②	キャリア開発の理論/人的資源管理/保健福祉医療に携わる他職種との協働	草柳
13	労務管理	病院経営・労務管理と看護専門職	草柳
14	地域における看護管理	高度実践看護師の活動と地域における看護管理(保健福祉医療に携わる人々との協働も含む)	福島
15	まとめ	講義内容のまとめ	草柳・山内

【6】 評価方法

討議への参加状況(20%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)から総合的に評価する。

【7】 テキスト

テキストは使用しない。適宜授業内で必読文献を紹介する予定。

【8】 参考書

増野敏子ほか監修：『看護管理学習テキスト第3版第1～5巻』日本看護協会出版会、2019
ステファン.P.ロビンス（高木晴夫監訳）：『新版組織行動論のマネジメントー入門から実践へ』、ダイヤモンド社、2009
草柳かほるほか編著：『迷ったら必見！ナースキャリア事例でわかる看護職の働き方ガイド』

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子fujiko.fukushima@med.toho-u.ac.jp

【10】 オフィスアワー

福島：毎週木曜日12：30～13：15

草柳：毎週水曜日12：30～13：15

山内：毎週木曜日12：30～13：15

【11】 特記事項

最初の授業時に、各プレゼンテーションの担当を決定する。各回の授業テーマに関する参考文献をあらかじめ読み授業に臨むこと。それを元に、テーマについてのグループワークやディスカッションを通して学びを深めていく。テーマによっては、その分野におけるエキスパートを招いて見識を広めていく。

科目名称	看護学研究法特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Methods for Nursing Sciences and Arts	必修	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	坂本 なほ子					
担当教員	坂本なほ子（看護学研究科教授）野口麻衣子（東京大学助教）					

【1】 教育目標

看護研究に必要とされる方法論と実践的アプローチ法を修得し、研究目的に適した研究方法を理解し応用し、研究対象を的確に把握、分析、解釈し、研究成果を看護学に応用するための知識・技術・態度を身につけることを目指す。

【2】 授業方針・テーマ

看護研究に必要とされる知識を身につけ、研究テーマに即した方法を応用できるような実践的かつ倫理的な看護研究者を育成する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義を中心に行うが、適宜、必要と考えられる参考書、文献等を指示するので参照すること。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	量的研究の概要	看護研究における量的研究の概要	坂本
2	研究過程の概観	研究過程を概観する	坂本
3	多変量解析	多変量解析の概要	坂本
4	重回帰分析	重回帰分析の理論と応用	坂本
5	因子分析	因子分析の理論と応用	坂本
6	尺度構成法	尺度構成法の考え方と応用	坂本
7	サンプルサイズの設定	サンプルサイズの設定	坂本
8	質的研究①	質的研究について	野口
9	質的研究②	グラウンデッドセオリー法のプロセス	野口
10	質的研究③	リサーチクエスションの設定とインタビューの実施	野口
11	質的研究④	質的研究における適切なサンプルサイズ	野口
12	質的研究⑤	質的研究と一般化	野口
13	質的研究⑥	質的研究と理論	野口
14	質的研究⑦	インタビューの分析	野口
15	まとめ	総括	坂本

【6】 評価方法

課題への取り組み(20%)、レポート(80%)から総合的に評価する。

【7】 テキスト・参考書等

D.F. ポーリット&C.T. ベック著近藤潤子監訳『看護研究』第2版医学書院・2014年
谷津裕子江藤裕之訳質的研究をめぐる10のキークエスション:サンデロウスキー論文に学ぶ医学書院・2013年

【7】 テキスト

D.F. ポーリット&C.T. ベック著近藤潤子監訳『看護研究』第2版医学書院・2014年
谷津裕子江藤裕之訳質的研究をめぐる10のキークエスション:サンデロウスキー論文に学ぶ医学書院・2013年

【8】 参考書

D. F. ポーリット&C. T. ベック著近藤潤子監訳『看護研究』第2版医学書院・2014年
谷津裕子江藤裕之訳質的研究をめぐる10のキークエスション:サンデロウスキー論文に学ぶ医学書院・2013年

【9】 科目担当者連絡先

坂本なほ子naoko.sakamoto■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:45~13:00

【11】 特記事項

自身の修士論文について再確認しておくこと。

科目名称	看護学特別研究	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Research on Nursing Sciences and Arts	必修	実験・実習	2～3年次	8単位	240時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子(看護学研究科・教授) 横井郁子(看護学研究科・教授) 小林寅喆(看護学研究科・教授) 出野慶子(看護学研究科・教授) 村上好恵(看護学研究科・教授) 岸恵美子(看護学研究科・教授) 伊藤桂子(看護学研究科・教授) 菊池麻由美(看護学研究科・教授) 原三紀子(看護学研究科・教授) 藤原和美(看護学研究科・教授) 夏原和美(看護学研究科・教授) 湯浅玲奈(看護学研究科・教授) 坂本なほ子(看護学研究科・教授) 松永佳子(看護学研究科・准教授) 藤野秀美(看護学研究科・准教授) 富岡由美(看護学研究科・准教授) 安岡砂織(看護学研究科・准教授) 勝瀬明子(看護学研究科・准教授) 望月由紀子(看護学研究科・准教授)					

【1】 教育目標

1. フィールドワーク、文献検討から研究課題の絞り込みを行い、研究課題を説明できる。
2. 自らの研究の学術的意義、新規性、独創性及び応用的価値について説明できる。
3. 研究を進めるにあたり、研究課題に適したフィールド、対象、データ収集方法を選択できる。
4. 課題の研究的探索に有効な研究計画を立案できる。
5. 収集したデータを分析し、得られた知見を論文として表現できる。

【2】 授業方針・テーマ

看護学に関する研究課題を立案・設定し、研究計画書にそって研究を実践することで、博士論文を作成する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

各指導教員が適切な方法により実施します。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	教育内容	各指導教員の指導のもとに、学生は研究課題にそって、研究計画書の立案から調査研究などの実施、博士論文の作成まで、自主的に研究の過程を展開します。	各担当教員
2	指導体制	指導教員を中心に、大学院担当教員が協力して指導にあたる。	

【6】 評価方法

研究計画書の立案から、博士論文審査会の結果までの全過程を総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

各指導教員が適宜、必要な文献等について指示します。

【8】 参考書

各指導教員が適宜、必要な文献等について指示します。

【9】 科目担当者連絡先

各指導教員に確認すること。

【10】 オフィスアワー

各指導教員に確認すること。

【11】 特記事項

各指導教員の元で、専門分野の文献検討などを十分に行った上で、看護学特別研究の準備を進めていくこと。

科目名称	看護技術特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Nursing Arts	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美 (看護学研究科教授)					

【1】 教育目標

看護場面における行為が看護ケアとして成立する要件や、看護ケアの成り立ちについて検討し、看護技術や看護ケアの意義を探求する。さらに、看護ケアを実践するための要件を探究する。

【2】 授業方針・テーマ

文献クリティークを通して文献を批判的に読む能力を養い、各自が関心をよせる事象の周辺にある概念を整理する。各自の看護実践を振り返り研究課題を明らかにし、研究計画書作成につなげる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生のプレゼンテーションを中心に進める。資料を作成しプレゼンテーションを行い、討議する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	「看護技術」とは①	オリエンテーション、「看護技術」の近似概念	菊池
2	「看護技術」とは②	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
3	「看護技術」とは③	実証主義的な研究方法による研究論文	菊池・安岡
4	「看護技術」とは④	実存主義的な研究方法による研究論文	菊池
5	質的研究方法①	実証主義と実存主義	菊池
6	質的研究方法②	質的研究の発展と展望	菊池
7	質的研究方法③	研究疑問と研究方法	菊池
8	文献の読み方③	サブトラックション	菊池
9	文献検討：「技術」①	サブトラックションシートを用いた文献クリティーク	菊池
10	文献検討：「技術」②	サブトラックションシートを用いた文献クリティーク	菊池
11	文献検討：「技術」③	サブトラックションシートを用いた文献クリティーク	菊池
12	文献検討：「技」①	サブトラックションシートを用いた文献クリティーク	菊池
13	文献検討：「技」②	サブトラックションシートを用いた文献クリティーク	菊池
14	文献検討：「技」③	サブトラックションシートを用いた文献クリティーク	菊池
15	まとめ	「看護技術」に関連する研究の課題を総括する	菊池

【6】 評価方法

課題への取り組み (40%)、プレゼンテーション (60%) で総合的に評価する。評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

開講時、提示する。

【8】 参考書

開講時、提示する。

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美 mayumi.kikuchi ■ med.toho-u.ac.jp

※ ■ を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 30 - 13 : 00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。
プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

科目名称	看護技術演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in Nursing Arts	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美 (看護学研究科教授)					

【1】 教育目標

看護実践の場における参与観察やインタビューなどの実践的な活動、およびこれまでの研究の成果の抄読を通して、研究を遂行する能力を高める。

【2】 授業方針・テーマ

演習参加者間での活発なディスカッションにより、関心をよせる事象に対する分析力、およびプレゼンテーション力を養う。演習に対して各自が責任をもって、主体的に取り組むことを期待する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生のプレゼンテーションを中心に進める。資料を作成しプレゼンテーションを行い、討議する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概要	オリエンテーション 関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
2	演習計画の立案①	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
3	演習計画の立案②	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
4	演習計画の立案③	テーマに沿った演習課題の絞り込み	菊池
5	演習計画の立案④	データ収集・分析方法の検討	菊池
6	データ収集①	テーマに沿ったデータ収集①	菊池
7	データ収集②	テーマに沿ったデータ収集②	菊池
8	データ分析①	収集したデータの分析①	菊池
9	データ分析②	収集したデータの分析②	菊池
10	データ分析③	分析結果に基づく検討①	菊池
11	データ分析④	分析結果に関する記述的な研究成果の抄読①	菊池
12	データ分析⑤	分析結果に関する記述的な研究成果の抄読②	菊池
13	データ分析⑥	分析結果に関する記述的な研究成果の抄読③	菊池
14	データ分析⑦	分析結果に基づく検討②	菊池
15	まとめ	関心事象についての考察	菊池

【6】 評価方法

課題への取り組み (50%)、プレゼンテーション (50%) で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

開講時、提示する。

【8】 参考書

開講時、提示する。

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美mayumi.kikuchi■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30-13：00

【11】 特記事項

各自の看護経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。

科目名称	感染制御学特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Infection Control and Prevention	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	小林 寅喆					
担当教員	小林寅喆 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

- 臨床微生物学に関する知識を基礎として、感染症ならびにその制御の視点から、医療施設における感染管理に結び付けることができる。
- 病院内に限らず地域の医療現場における安全性を保障すること、および、流行する新興・再興感染症の制圧に寄与することを目的とし、時代とともに変化する感染症とその制御への問題解決に対応できる研究を遂行するための基盤を作ることができる。

【2】 授業方針・テーマ

文献やガイドラインを用い、シミュレーション形式で検討し、学生が中心となり発表し討議する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義を基盤にゼミナール形式で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ヒトと感染症①	微生物の分布およびヒトとの関わりについて理解する	小林
2	ヒトと感染症②	臨床において問題となる微生物とその性状について理解する。	小林
3	ヒトと感染症③	医療施設における易感染患者と日和見感染菌との関わりについて理解する。	小林
4	感染症の予防と対策	病院感染に関連する微生物およびその感染経路と遮断法について理解する。	小林
5	感染症診断と感染対策①	臨床現場における臨床微生物学的診断法と結果の解釈について理解する。	小林
6	感染症診断と感染対策②	病原微生物に対する抗菌薬感受性と化学療法について理解する。	小林
7	感染症診断と感染対策③	微生物に対する抗菌薬および消毒薬の作用について理解する。	小林
8	化学療法、抗菌薬耐性菌 (AMR) ①	抗菌薬による感染症治療の実際と耐性菌が生じるメカニズムについて理解する。	小林
9	化学療法、抗菌薬耐性菌 (AMR) ②	抗菌薬耐性菌の耐性機構と特性について理解する。	小林
10	AMRの特性と感染制御①	抗菌薬耐性菌を中心とした病院感染の定義と発生の仕組みについて理解する。	小林
11	AMRの特性と感染制御②	医療関連施設感染における耐性菌とその問題について検討する。	小林
12	サーベイランス	アウトブレイクを察知するサーベイランス手法について理解する。	小林
13	領域別感染症の特性と感染制御	病院感染ハイリスク領域における菌種別対策を理解する。	小林
14	ガイドライン	医療関連施設感染に関する主なガイドラインについて理解する。	小林
15	まとめ	特別研究の研究テーマに関連し、特講で学んだこと、文献検討した結果などを整理し発表する。	小林

【6】 評価方法

課題への取り組み(70%)、レポート(30%)で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【7】 テキスト

小林寅喆 「はじめよう看護の感染と防御」 ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆 「読めば分かる!耐性菌のお話」 ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing, 30th ed. CLSI supplement M100, 2020.」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting. 30thed. CLSI supplement M100, 2020.」
その他、講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

小林寅喆毎週木曜日12:15-13:15

【11】 特記事項

過去に学習した感染と防御(予防)に関連した内容について復習しておくこと。
医療関連感染など身近に発生している感染症から世界で問題となっている感染症および抗菌薬耐性菌について情報を集め調べておくこと。

科目名称	感染制御学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Infection Control and Prevention	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	小林 寅喆					
担当教員	小林寅喆 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 感染制御学特講を基盤に医療関連感染の実態を把握するための知識と技術を身につけることができる。
2. 抗菌薬耐性菌が生じるメカニズムと伝播経路を理解し、適切な遮断の実行に結びつけることができる。
3. 病院感染やアウトブレイクの発生をとらえる各種サーベイランス方法を踏まえ、疫学的側面から解析するための知識および技術を身につけることができる。

【2】 授業方針・テーマ

主要な病原微生物を用いた実験と解析を中心に演習を行う。

【2】 授業方針・テーマ

主要な病原微生物を用いた実験と解析を中心に演習を行う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

実験を主体とし、結果に対する考察をゼミナール形式で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	感染予防策	WHOのバイオセーフティー概念について解説する。レベル別感染予防策と標準予防具の使用法、性能について実際に評価し理解する。	小林
2	抗菌薬適正使用①	抗菌薬および消毒薬の作用機序と適正使用法について理解し、その効力について実験的検証を行う。 －抗菌薬－	小林
3	抗菌薬適正使用②	抗菌薬および消毒薬の作用機序と適正使用法について理解し、その効力について実験的検証を行う。 －消毒薬－	小林
4	感染症診断①	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。1. 各種染色	小林
5	感染症診断②	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。2. 培養同定	小林
6	感染症診断③	医療関連感染の起因菌を中心に生物学的性状を理解し、診断手技を習得する。3. 迅速診断	小林
7	化学療法①	抗菌薬感受性測定法の原理を理解し、CLSIガイドライン準じた各種病原微生物に対する感受性測定と判定を実施し、治療効果との整合性を検証する。1. MIC測定	小林
8	化学療法②	抗菌薬感受性測定法の原理を理解し、CLSIガイドライン準じた各種病原微生物に対する感受性測定と判定を実施し、治療効果との整合性を検証する。2. 殺菌曲線	小林
9	抗菌薬耐性 (AMR) ①	不適切な化学療法によって生じる薬剤耐性菌の出現機序を実験的に検証する。1. 耐性菌の選択・誘導	小林
10	抗菌薬耐性 (AMR) ②	不適切な化学療法によって生じる薬剤耐性菌の出現機序を実験的に検証する。2. 菌交代現象	小林
11	感染領域別サーベイランスの実際①	感染管理に必須の各種サーベイランス(血流感染、術後感染)を実際の成績を用いて解析する。	小林
12	感染領域別サーベイランス②	感染管理に必須の各種サーベイランス(人工呼吸器肺炎、耐性菌)を実際の成績を用いて解析する。	小林
13	演習内容の研究テーマへの活用①	演習を基に研究テーマの選定とデザインを立案する。	小林
14	演習内容の研究テーマへの活用②	研究デザインの整合性と妥当性について検証する。	小林
15	演習内容の研究テーマへの活用③	研究計画を発表し、プロトコル内容と解析法について討議する。	小林

【6】 評価方法

課題への取り組み(80%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題を共有する。

【7】 テキスト

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting. 30thed. CLSI supplement M100, 2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

小林寅喆「はじめよう看護の感染と防御」ヴァンメディカル・2016年(第2版)
小林寅喆「読めば分かる!耐性菌のお話」ヴァンメディカル・2012年(初版)
CLSIガイドライン「PerformanceStandardsforAntimicrobialSusceptibilityTesting. 30thed. CLSI supplement M100, 2020.」
その他、演習の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

小林寅喆kobatora■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

小林寅喆毎週木曜日12:15-13:15

【11】 特記事項

感染制御学特講で学習した内容を復習しておくこと。
医療関連感染などに関係する各種ガイドラインについて調べておくこと。
医療関連感染に関する研究テーマについて具体的にあげ、必要な研究法について参考となる文献を準備しておくこと。
病原体を扱う実験を行うので、白衣を持参すること。

科目名称	がん看護学特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Cancer Nursing	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 文献検討を通して、がん罹患に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握することができる。
2. がん看護学の現象を広く概観した上で、自らが探求したいテーマを見出すことができる。
3. 探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について探求できる。

【2】 授業方針・テーマ

がん看護学に関連する文献検討を通して、各自が取り組みたい現象の看護学上の位置づけを明確化し、テーマの焦点化ができるよう教授する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

ゼミ形式、文献検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	最新がん医療の概観	探求したい現象や研究課題について討論し、学習目標を確認する	村上
2	がん医療に関する文献検討①	文献検討を通して、がん罹患に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	村上
3	がん医療に関する文献検討②	文献検討を通して、がん罹患に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	村上
4	がん医療に関する文献検討③	文献検討を通して、がん罹患に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	村上
5	がん医療に関する文献検討④	文献検討を通して、がん罹患に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	村上
6	がん医療に関する文献検討⑤	文献検討を通して、がん罹患に関連する諸問題とその関連要因を多角的に把握する	村上
7	研究課題に関する文献検討①	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	村上
8	研究課題に関する文献検討②	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	村上
9	研究課題に関する文献検討③	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	村上
10	研究課題に関する文献検討④	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	村上
11	研究課題に関する文献検討⑤	自らが探求したいテーマに関する文献の批判的吟味を行う	村上
12	研究方法に関する文献検討①	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	村上
13	研究方法に関する文献検討②	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	村上
14	研究方法に関する文献検討③	探求したい現象に存在する対象の健康問題を解決するための研究上のアプローチ方法について、文献検討を通して探求する	村上
15	まとめ	学習目標に対する達成度の確認と、自己の研究課題を明確にする	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

事前に提示された課題を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	がん看護学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Cancer Nursing	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	村上 好恵					
担当教員	村上好恵 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 文献検討やフィールドワーク、専門家へのコンサルテーションを実施し、自己の研究課題を明確にし、研究計画書素案を作成できる。
2. 研究の可能性を検討するための予備的な研究を実施できる。
3. がん看護学に関する新たな知の構築に向けて、研究デザインを検討し、看護学特別研究へつなげることができる。

【2】 授業方針・テーマ

がん看護学に関する新たな知の構築に向けて、自己が探求したい研究課題について適切な研究計画書を作成し、看護学特別研究へつなげるよう教授する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

ゼミ形式、文献検討、プレゼンテーションおよび討論を行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	課題の明確化	自己の研究課題を明確にする	村上
2	研究対象の検討①	これまでの文献検討やフィールドワークを通して、研究対象を明確にする	村上
3	研究対象の検討②	これまでの文献検討やフィールドワークを通して、研究対象を明確にする	村上
4	研究対象の検討③	これまでの文献検討やフィールドワークを通して、研究対象を明確にする	村上
5	研究計画書素案の作成①	文献検討、専門家へのコンサルテーションなどを実施し、研究計画書素案を作成する	村上
6	研究計画書素案の作成②	文献検討、専門家へのコンサルテーションなどを実施し、研究計画書素案を作成する	村上
7	研究方法の妥当性・信頼性の検討①	必要な予備的または試験的研究を行う	村上
8	研究方法の妥当性・信頼性の検討②	必要な予備的または試験的研究を行う	村上
9	研究方法の妥当性・信頼性の検討③	必要な予備的または試験的研究を行う	村上
10	研究方法の妥当性・信頼性の検討④	必要な予備的または試験的研究を行う	村上
11	研究計画書の作成①	予備調査の結果をもとに研究計画書を作成する	村上
12	研究計画書の作成②	予備調査の結果をもとに研究計画書を作成する	村上
13	研究計画書の発表①	研究計画書を発表し、他者からの意見をもとに更なる検討を行い、最終版を作成する	村上
14	研究計画書の発表②	研究計画書を発表し、他者からの意見をもとに更なる検討を行い、最終版を作成する	村上
15	研究計画書の発表③	研究計画書を発表し、他者からの意見をもとに更なる検討を行い、最終版を作成する	村上

【6】 評価方法

出席状況30%、講義への取り組み・プレゼンテーション50%、レポート20%で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題の共有を行う。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

村上好恵ymura■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30?13:00

【11】 特記事項

事前に提示された課題を丁寧に抄読し、参加すること。

科目名称	高齢者看護学特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Gerontological Nursing	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	横井 郁子					
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）					

【1】 教育目標

1. 高齢者に関するさまざまな調査報告書から現状分析ができる。
2. 医療ケア提供システムについて理解し、倫理的問題を含むさまざまな課題について述べるができる。
3. 高齢者看護の実践を支える理論について説明することができる。

【2】 授業方針・テーマ

まずは我が国の現状を客観的に理解する。その上で、看護師を含むケア提供者たちが抱えている問題を推測し解決のための方策を見出すための研究について討議していく。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

文献講読を中心にセミナー形式ですすめる。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	高齢者と社会1	さまざまな報告書をもとに日本における高齢者の現状と課題を分析する1	横井
2	高齢者と社会2	さまざまな報告書をもとに日本における高齢者の現状と課題を分析する2	横井
3	医療ケア提供システムの現状1	医療保険と高齢者看護1	横井
4	医療ケア提供システムの現状2	医療保険と高齢者看護2	横井
5	医療ケア提供システムの現状3	介護保険と高齢者看護1	横井
6	医療ケア提供システムの現状4	介護保険と高齢者看護2	横井
7	高齢者看護を支える理論1	理論に関する文献検討1	横井
8	高齢者看護を支える理論2	理論に関する文献検討2	横井
9	高齢者看護を支える理論3	理論に関する文献検討3	横井
10	高齢者看護を支える理論4	理論に関する文献検討4	横井
11	高齢者看護と倫理1	身体抑制と看護1	横井
12	高齢者看護と倫理2	身体抑制と看護2	横井
13	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて1	「プロセス」を支えるとは1	横井
14	人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスについて2	「プロセス」を支えるとは2	横井
15	高齢者看護の課題	高齢者看護の課題について発表・討議	横井

【6】 評価方法

授業への取組み40%、レポート60%

【7】 テキスト

必要に応じて提示する。

【8】 参考書

必要に応じて提示する。

【9】 科目担当者連絡先

横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30～13：00

【11】 特記事項

最新の高齢者に関わる医療制度、介護保険制度の事前学習をすませしておくこと。

科目名称	高齢者看護学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in Gerontological Nursing	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	横井 郁子					
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授）藤野秀美（看護学研究科・准教授）					

【1】 教育目標

- 自身の研究課題を明確にするためのフィールドワークを計画することができる。
- フィールドワークの成果をもとに自身の研究課題とともに課題解決のための研究方法について説明することができる。

【2】 授業方針・テーマ

フィールドワークを実施するためのフィールド選び、調整から行う。この調整力も研究における重要な能力である。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生によるプレゼンテーションおよび討議

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	高齢者看護学分野における研究の動向	研究課題と社会背景	横井・藤野
2	研究課題の背景1	文献レビュー1	横井・藤野
3	研究課題の背景2	文献レビュー2	横井・藤野
4	研究課題の背景3	文献レビュー3	横井・藤野
5	研究課題の背景3	文献レビュー4	横井・藤野
6	研究課題の探求1	フィールドワーク	横井・藤野
7	研究課題の探求2	フィールドワーク	横井・藤野
8	研究課題の探求3	フィールドワーク	横井・藤野
9	研究課題の探求4	フィールドワーク	横井・藤野
10	研究課題の探求5	フィールドワーク	横井・藤野
11	研究課題の探求6	フィールドワーク	横井・藤野
12	課題解決のための方法1	研究方法の検討（発表と討議）	横井・藤野
13	課題解決のための方法2	研究方法の検討（発表と討議）	横井・藤野
14	課題解決のための方法3	研究方法の検討（発表と討議）	横井・藤野
15	研究課題に取り組むための計画	発表と討議	横井・藤野

【6】 評価方法

授業への取り組み40%、レポート60%

【7】 テキスト

必要に応じて提示する。

【8】 参考書

必要に応じて提示する。

【9】 科目担当者連絡先

横井郁子yokoiyk■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30～13：00

【11】 特記事項

フィールドの特性を十分考慮して課題に臨んで下さい。

科目名称	性・生殖看護学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in Reproductive Health Nursing	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	福島 富士子					
担当教員	福島富士子（看護学研究科教授）					

【1】 教育目標

性・生殖看護学特講を基盤に、リプロダクティブヘルス/ライツに関する問題を追及し、新たなケア技術を開発するための知識と技術を探求し実践する。特に女性のライフサイクル各期の性と生殖に関する諸問題を探求し、健康の保持増進に寄与する健康支援モデルの検討を行い、ヘルスプロモーションの視点から看護ケア、看護介入プログラムを開発できる能力を修得し、性・生殖の分野で必要な研究者としての資質と態度を育成する。

【2】 授業方針・テーマ

臨地演習と学内での討議により性・生殖看護学の分野で用いられる健康支援システムやモデルについて学び、活用・応用できる資質を身につける。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

臨地にて健康教育場面に参加し、分析する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1		オリエンテーション：オリエンテーションと性教育に関する文献検討	福島
2		思春期教育の演習：小学校での性教育	福島
3		思春期教育の演習：中学校での性教育	福島
4		思春期教育の演習：高等学校における性教育	福島
5		性教育プログラム検討：小学・中学・高校における性教育プログラムの検討	福島
6		避妊教育演習：避妊・家族計画に関する教育演習	福島
7		思春期保健教育演習：喫煙・飲酒・ダイエットなどに対する教育演習	福島
8		性感染症予防教育：性感染症予防に関する教育演習	福島
9		性・生殖の看護課題：学生の持つ課題に対する演習を行い討論	福島
10		生殖看護演習：女性の健康支援に関する演習	福島
11		生殖看護演習：産む性を育む性教育未婚女性への演習	福島
12		更年期女性演習：更年期障害をもつ女性への演習	福島
13		産前産後ケア：産前産後ケアプログラムの実際と検討	福島
14		育児支援システム：退院後から1か月の育児支援システム	福島
15		まとめ：性・生殖に関する課題を整理する	福島

【6】 評価方法

出席50%、授業中の態度や取り組み20%、レポート30%

【7】 テキスト

特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。

【8】 参考書

特定のテキストは使用しないが演習の中で文献や参考図書を指示する。

【9】 科目担当者連絡先

福島富士子 fujiko.fukushima■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

【11】 特記事項

授業科目に関する内容について、あらかじめ新聞や文献等に目を通しておくこと。

科目名称	小児看護学特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Child Health Nursing	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	出野 慶子					
担当教員	出野慶子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 小児看護学領域における主な理論や概念について理解し、研究におけるそれらの重要性について述べることができる。
2. 論文クリティークをとおして、小児看護学領域における研究の動向と課題について述べるができる。
3. 自分の研究課題を明らかにすることができる。

【2】 授業方針・テーマ

小児看護学領域で重要となる理論や概念に関する文献を抄読し、子どもと家族の健康をめぐる様々な現象を明らかにする具体的な研究方法を探究する。小児看護学関連領域の研究論文をクリティークし、小児看護学における研究の動向と課題を探究するとともに、自らの研究課題を明らかにする。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

ゼミナール形式で授業を進めるので、資料作成、発表の準備を行い、ディスカッションする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション、理論と概念について	出野
2	理論や概念の探求(1)	発達に関する理論	出野
3	理論や概念の探求(2)	家族に関する理論	出野
4	理論や概念の探求(3)	セルフケアの理論①	出野
5	理論や概念の探求(4)	セルフケアの理論②	出野
6	理論や概念の探求(5)	ソーシャルサポート等	出野
7	研究方法の探求(1)	研究プロセスの概観	出野
8	研究方法の探求(2)	質的研究について①	出野
9	研究方法の探求(3)	質的研究について②	出野
10	研究方法の探求(4)	質的研究について③	出野
11	論文クリティーク(1)	小児看護学領域の研究の動向と課題の探究①	出野
12	論文クリティーク(2)	小児看護学領域の研究の動向と課題の探究②	出野
13	論文クリティーク(3)	小児看護学領域の研究の動向と課題の探究③	出野
14	論文クリティーク(4)	小児看護学領域の研究の動向と課題の探究④	出野
15	まとめ	講義内容のまとめを行う	出野

【6】 評価方法

- ・課題への取り組み(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
- ・評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

出野慶子 ideno■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45～13:00

【11】 特記事項

主体的に関心のある領域の文献検討を行い、研究課題を絞ることにつなげる。

科目名称	小児看護学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in Child Health Nursing	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	出野 慶子					
担当教員	出野慶子(看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 文献検討やフィールドワークをとおして、子どもや家族が抱える課題・看護支援について述べるができる。
2. 研究課題に沿ったデータ収集方法や分析方法について述べるができる。
3. 研究計画の概要を記述することができる。

【2】 授業方針・テーマ

子どもの発達や健康に関する課題とその影響について家族を含めて捉え、看護支援について検討する。また、研究を遂行する際の研究手法としてのデータ収集および分析方法について学ぶ。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

研究課題に関連する文献検討を主体的に行い、フィールドワーク等をとおして実現可能な研究計画書の作成につなげる。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	オリエンテーション	オリエンテーション	出野
2	フィールドワーク①	フィールドでの観察・インタビューの実施①	出野
3	フィールドワーク②	フィールドでの観察・インタビューの実施②	出野
4	フィールドワーク③	フィールドでの観察・インタビューの実施③	出野
5	フィールドワークの検討①	データ収集・分析方法の検討	出野
6	フィールドワーク④	フィールドでの観察・インタビューの実施④	出野
7	フィールドワーク⑤	フィールドでの観察・インタビューの実施⑤	出野
8	フィールドワーク⑥	フィールドでの観察・インタビューの実施⑥	出野
9	フィールドワークの検討②	データ収集・分析方法の検討	出野
10	概念分析	概念分析とは	出野
11	サブストラクション	サブストラクションとは	出野
12	研究計画(1)	研究計画に関するディスカッション①	出野
13	研究計画(2)	研究計画に関するディスカッション②	出野
14	研究計画(3)	研究計画に関するディスカッション③	出野
15	研究計画(4)	研究計画に関するディスカッション④	出野

【6】 評価方法

- ・ 課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)で総合的に評価する。
- ・ 評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

出野慶子 ideno■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45～13:00

【11】 特記事項

- ・ フィールドワークでは対象者に対する倫理的配慮を十分に行う。
- ・ 研究課題に関連する学術集会やセミナーには積極的に参加する。

科目名称	基礎看護学特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Nursing Arts	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科教授）安岡砂織（看護学研究科・准教授）					

【1】 教育目標

看護の本質や看護職者の生成と発達について探求するとともに、看護実践や看護職の経験について研究する方法を学ぶことで、自立して研究を行う能力を養う。看護実践や看護ケアの成り立ち、および看護職の生成と発達について検討し、看護の本質や看護職の生成と発達について探求する意義を考察する。

【2】 授業方針・テーマ

文献クリティークを通して文献を批判的に読む能力を養い、各自が関心をよせる事象の周辺にある概念を整理する。各自の看護実践を振り返り研究課題を明らかにし、研究計画書作成につなげる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生のプレゼンテーションを中心に進める。資料を作成しプレゼンテーションを行い、討議する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	「看護」とは①	オリエンテーション 「看護」・「ケア」・「看護職者の発達」の近似概念	菊池
2	「看護」とは②	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
3	「看護」とは③	実証主義的な研究方法による研究論文	菊池・安岡
4	「看護」とは④	実存主義的な研究方法による研究論文	菊池
5	質的研究方法①	実証主義と実存主義	菊池
6	質的研究方法②	質的研究の発展と展望	菊池
7	質的研究方法③	研究疑問と研究方法	菊池
8	文献の読み方③	サブトラクション	菊池
9	文献検討：「技術」①	サブトラクションシートを用いた文献クリティーク	菊池
10	文献検討：「技術」②	サブトラクションシートを用いた文献クリティーク	菊池
11	文献検討：「技術」③	サブトラクションシートを用いた文献クリティーク	菊池
12	文献検討：「技」①	サブトラクションシートを用いた文献クリティーク	菊池
13	文献検討：「技」②	サブトラクションシートを用いた文献クリティーク	菊池
14	文献検討：「技」③	サブトラクションシートを用いた文献クリティーク	菊池
15	まとめ	関心事象に関連する研究の課題を総括する	菊池

【6】 評価方法

課題への取り組み（40%）、プレゼンテーション（60%）で総合的に評価する。評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

開講時、提示する。

【8】 参考書

開講時、提示する。

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美 mayumi.kikuchi ■ med.toho-u.ac.jp

※ ■ を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 30 - 13 : 00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。
プレゼンテーション資料は事前に全員に配信し、各自が資料を読んで参加する。

科目名称	基礎看護学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in Nursing Arts	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美（看護学研究科教授）					

【1】 教育目標

看護の本質や看護職の生成と発達に関連した各自の関心あるテーマに沿って、文献検討と参与観察やインタビューを行い、自身の研究課題を明確化する。

【2】 授業方針・テーマ

演習参加者間での活発なディスカッションにより、関心をよせる事象に対する分析力、およびプレゼンテーション力を養う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生のプレゼンテーションを中心に進める。資料を作成しプレゼンテーションを行い、討議する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	演習概要	オリエンテーション 関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
2	演習計画の立案①	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
3	演習計画の立案②	関心事象の報告、問題の所在の明確化	菊池
4	演習計画の立案③	テーマに沿った演習課題の絞り込み	菊池
5	演習計画の立案④	データ収集・分析方法の検討	菊池
6	データ収集①	テーマに沿ったデータ収集①	菊池
7	データ収集②	テーマに沿ったデータ収集②	菊池
8	データ分析①	収集したデータの分析①	菊池
9	データ分析②	収集したデータの分析②	菊池
10	データ分析③	分析結果に基づく検討①	菊池
11	データ分析④	分析結果に関する記述的な研究成果の抄読①	菊池
12	データ分析⑤	分析結果に関する記述的な研究成果の抄読②	菊池
13	データ分析⑥	分析結果に関する記述的な研究成果の抄読③	菊池
14	データ分析⑦	分析結果に基づく検討②	菊池
15	まとめ	関心事象についての考察	菊池

【6】 評価方法

課題への取り組み（50%）、プレゼンテーション（50%）で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

開講時、提示する。

【8】 参考書

開講時、提示する。

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美 mayumi.kikuchi ■ med.toho-u.ac.jp

※ ■ を @ に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 30 - 13 : 00

【11】 特記事項

各自の看護経験を振り返り、演習に対して各自が責任をもって主体的に取り組むことを期待する。

科目名称	臨床看護学特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Clinical Nursing	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	原 三紀子					
担当教員	原三紀子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

臨床看護学領域における諸理論や国内外の研究の動向について学び、研究課題・研究方法について探求する。

【2】 授業方針・テーマ

臨床看護学における有用な諸理論や研究のクリティークを通して、臨床看護学における研究の課題を明らかにすることができる。講義は、プレゼンテーションを主体とする。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

各回のテーマについて事前に学習したものを発表し、ディスカッションを中心に進める。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション・学習計画の立案	原
2	看護実践に活かす理論①	臨床看護学に関連する概念・理論・モデル①	原
3	看護実践に活かす理論②	臨床看護学に関連する概念・理論・モデル②	原
4	看護実践に活かす理論③	臨床看護学に関連する概念・理論・モデル③	原
5	看護実践に活かす理論④	臨床看護学に関連する概念・理論・モデル④	原
6	看護研究クリティーク①	臨床看護学領域における研究の動向①	原
7	看護研究クリティーク②	臨床看護学領域における研究の動向②	原
8	看護研究クリティーク③	臨床看護学領域における研究の動向③	原
9	看護研究クリティーク④	臨床看護学領域における研究のクリティーク①	原
10	看護研究クリティーク⑤	臨床看護学領域における研究のクリティーク②	原
11	看護研究クリティーク⑥	臨床看護学領域における研究のクリティーク③	原
12	看護研究クリティーク⑦	臨床看護学領域における研究のクリティーク④	原
13	看護研究クリティーク⑧	臨床看護学領域における研究の課題①	原
14	看護研究クリティーク⑨	臨床看護学領域における研究の課題②	原
15	まとめ	学習内容のまとめ	原

【6】 評価方法

プレゼンテーション60%、レポート40%で評価する。
評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【7】 テキスト

参考文献は、適宜提示する。

【8】 参考書

参考文献は、適宜提示する。

【9】 科目担当者連絡先

原三紀子 mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45 - 13:00

【11】 特記事項

主体的に参加する。

科目名称	臨床看護学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in Clinical Nursing	選択	演習	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	原 三紀子					
担当教員	原三紀子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

各自の専門領域に関する文献レビューとフィールドワーク行い、研究テーマを明確化していく。

【2】 授業方針・テーマ

専門領域の研究の動向を踏まえ、研究課題を抽出する。フィールドワークの立案、実施、評価の過程を通して研究者としての態度を養う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

進行方法については、各自の予定に基づき決定する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	臨床看護学演習①	ガイダンス	原
2	臨床看護学演習②	専門領域における研究の動向①	原
3	臨床看護学演習③	専門領域における研究の動向②	原
4	臨床看護学演習④	専門領域における研究課題の抽出①	原
5	臨床看護学演習⑤	専門領域における研究課題の抽出②	原
6	臨床看護学演習⑥	専門領域における研究課題の抽出③	原
7	臨床看護学演習⑦	フィールドワーク①	原
8	臨床看護学演習⑧	フィールドワーク②	原
9	臨床看護学演習⑨	フィールドワーク③	原
10	臨床看護学演習⑩	フィールドワーク④	原
11	臨床看護学演習⑪	フィールドワーク⑤	原
12	臨床看護学演習⑫	フィールドワークの結果分析①	原
13	臨床看護学演習⑬	フィールドワークの結果分析②	原
14	臨床看護学演習⑭	フィールドワークの結果分析③	原
15	臨床看護学演習⑮	学習内容のまとめ	原

【6】 評価方法

プレゼンテーション40%、フィールドワークによる取組み40%、レポート20%で評価する。評価については授業内で講評を伝え、課題の共有をする。

【7】 テキスト

参考文献は、適宜提示する。

【8】 参考書

参考文献は、適宜提示する。

【9】 科目担当者連絡先

原三紀子 mikiko.hara■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12:45 - 13:00

【11】 特記事項

資料は事前に配布しておくこと。

科目名称	国際広域保健学特講 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced International Health I	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科教授)					

【1】 教育目標

自身の研究課題を見出し、博士論文の研究目的を焦点化するためのレビュー論文が書ける。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健・看護の活動・研究に関する国際的な知見を利用し、博士論文の研究を遂行するために必要な研究能力を強化する科目である。テーマに関するレビューを行う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

担当者は当日までに抄録の和訳と Introduction, Method, Results, Discussion の概要をまとめ、A3用紙2枚程度の資料を人数分準備する。担当者は著者の立場で、他の受講生は査読者の立場で論文についてディスカッションする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2	準備状況について確認	Literature Reviews について復習 https://writingcenter.unc.edu/tips-and-tools/literature-reviews/	夏原
3-13	論文購読	各々の興味関心に沿った論文を選択し、事前に受講生にも知らせる。 担当者は、批判的吟味をしながら内容を発表し、質問に答えることで著者の思考過程を追う。 抄読を繰り返すことで、論文から必要な情報を効率よく得るだけでなく、論文執筆のポイントをつかむようにする。	夏原
14-15	まとめ	自己の課題に関するレビュー論文のアウトライン作成 自己の課題に関するレビュー論文のアウトラインについて質疑応答を経て完成	夏原

【6】 評価方法

毎回のプレゼンテーションの資料準備40%、ディスカッション参加態度20%、レビュー論文のアウトライン（最終レポート）40%。

【7】 テキスト

必要時、文献、書籍などを提示する。
<https://writingcenter.unc.edu/tips-and-tools/>

【8】 参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。
<https://writingcenter.unc.edu/tips-and-tools/>

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美 kazumi.natsuhara@med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

論文を選択する際には、international journalのなるべく最新の原著論文から選ぶようにすること。

科目名称	国際広域保健学演習 I	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in International Health I	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科教授)					

【1】 教育目標

興味関心を持った国際保健/看護活動・研究の課題を人口学、栄養学、文化人類学等のさまざまな調査方法論を駆使してフィールドワークし、アセスメントできる。研究目的に適応した研究方法を状況に応じて設定することができる。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健活動・研究に用いられる様々な方法についての実践能力を強化する科目である。博士論文の研究計画立案のためのフィールドワークを行う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

文献検討は国際広域保健学特論 I と同様に行う。フィールドワークは十分な準備をもって臨み、学生が主体となって課題を実践する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1-3	目的を達成させるための方法	院生各々の研究目的を達成するために必要な方法について精査する。	夏原
4-6	質の高いデータ収集	論文から情報を得て、方法論を身につけ、必要な技術の習熟を図る。	夏原
7-13	データ収集方法の調整	データ収集予定地でのフィールドワークを経て研究方法の修正を行う。	夏原
14-15	研究計画書作成	最終レポートとして博士論文の研究計画書の方法の原稿を提出する。	夏原

【6】 評価方法

フィールドワーク事前準備40%、最終レポート60%

【7】 テキスト

必要時、文献、書籍などを提示する。

【8】 参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美kazumi.natsuhara@med.toho-u.ac.jp

※@を@に置き換える

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

フィールドワークの準備は言語の習得、調査許可取得を含めて各自の責任で取り組むこと。

科目名称	在宅看護学特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Home Health Nursing	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	藤原 和美					
担当教員	藤原和美（看護学研究科教授）					

【1】 教育目標

1. 在宅療養者・家族の健康上および生活上の課題の探究、効果的な看護実践方法の開発に必要な知識基盤を形成できる。2. 在宅看護の現象や支援方法に関連する理論・概念を探究できる。

【2】 授業方針・テーマ

在宅看護学領域における自己の関心現象や支援方法を探究する上で必要な理論・概念に関する文献を検討し、在宅看護学を体系化する基盤能力を養う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

ゼミ形式により進める。十分な準備に基づく発表と活発な討論により課題を深めることを期待する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	わが国の在宅看護の変遷と現状①	在宅療養を取り巻く社会状況と看護	藤原
2	わが国の在宅看護の変遷と現状②	在宅療養と社会制度・政策	藤原
3	諸外国の在宅看護の現状①	諸外国における在宅療養を取り巻く社会状況と看護	藤原
4	諸外国の在宅看護の現状②	諸外国における在宅療養と社会制度・政策	藤原
5	文献クリティーク①	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク①	藤原
6	文献クリティーク②	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク②	藤原
7	文献クリティーク③	在宅看護、在宅ケア、地域包括等に関する文献クリティーク③	藤原
8	在宅ケアシステムと地域包括ケア①	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連①	藤原
9	在宅ケアシステムと地域包括ケア②	療養者や家族の健康・QOLと支援サービスとの関連②	藤原
10	在宅ケアシステムと地域包括ケア③	在宅ケアシステムと地域包括ケアの課題検討①	藤原
11	在宅ケアシステムと地域包括ケア④	在宅ケアシステムと地域包括ケアの課題検討②	藤原
12	在宅看護活動の評価①	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	藤原
13	在宅看護活動の評価②	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	藤原
14	在宅看護活動の評価③	在宅看護学領域における看護の質の改善・向上 在宅看護活動の評価、サービスの標準化、政策的アプローチ	藤原
15	地域と在宅看護	地域における在宅看護活動	藤原

【6】 評価方法

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%

【7】 テキスト

必要な文献を適宜紹介する。

【8】 参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30-13：00

【11】 特記事項

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名称	在宅看護学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in Home Health Nursing	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	藤原 和美					
担当教員	藤原和美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

1. 在宅看護学領域で用いられている研究方法を探求し、研究論文を批判的に吟味・検討できる。
2. 予備的研究の演習等を通して、自己の研究課題を明確にし、研究計画書を作成することができる。

【2】 授業方針・テーマ

1. 在宅看護領域における研究テーマを主体的に選定し文献検討、理論分析を論文にまとめる。
2. 研究実施に必要な調整能力と遂行能力を養い研究計画書に基づき研究フィールドの確保、データ収集、および分析を行う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

授業はゼミ形式で行う。主体的な取り組みを期待する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	在宅看護学演習ガイダンス	藤原
2	在宅看護と在宅ケア	在宅看護の現状と課題を在宅ケアの視点で明確化	藤原
3	在宅ケアと地域包括ケアシステム	在宅ケアの現状と課題を地域包括ケアシステムの視点で明確化	藤原
4	地域と地域包括ケアシステム	在宅療養の現状と課題を地域包括ケアシステムの視点で明確化	藤原
5	フィールドワーク計画	フィールドワーク内容の検討	藤原
6	フィールドワーク①	フィールドワークの実際①	藤原
7	フィールドワーク②	フィールドワークの実際②	藤原
8	フィールドワーク③	フィールドワークの実際③	藤原
9	フィールドワーク④	フィールドワークの実際④	藤原
10	研究課題の明確化①	在宅看護学領域における研究課題の明確化①	藤原
11	研究課題の明確化②	在宅看護学領域における研究課題の明確化②	藤原
12	研究計画書の作成①	適切なデザイン、方法を含めて研究計画を作成①	藤原
13	研究計画書の作成②	適切なデザイン、方法を含めて研究計画を作成②	藤原
14	研究計画の発表①	研究計画の発表と評価	藤原
15	研究計画の発表②	研究計画の発表と評価	藤原

【6】 評価方法

課題の提出30%、プレゼンテーション30%、レポート40%

【7】 テキスト

必要な文献を適宜紹介する。

【8】 参考書

必要な文献を適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12:30-13:00

【11】 特記事項

紹介した文献および必要な資料を抄読し、課題、プレゼンテーションおよび論議に主体的に参加すること。

科目名称	地域看護・ケアシステム特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Community Health Nursing	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

概念分析の哲学的基盤を理解した上で、地域看護学・ケアシステム関連分野の概念を科学的に分析する方法を具体的に説明できる。文献レビューを通じて、現在の概念の用いられ方を根拠を示しながら説明できる。

【2】 授業方針・テーマ

学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。文献を統合した成果をプレゼンテーションおよびレポートとして提出する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方、	岸
2	概念の哲学的基盤	地域看護学における概念	岸
3	概念の哲学的基盤	概念の哲学的基盤 (1)	岸
4	概念の哲学的基盤	概念の哲学的基盤 (2)	岸
5	概念分析	概念分析 (1)	岸
6	概念分析	概念分析 (2)	岸
7	概念分析	概念分析 (3)	岸
8	メタ統合	統合的レビュー (1)	岸
9	メタ統合	統合的レビュー (2)	岸
10	メタ統合	メタ統合 (1)	岸
11	メタ統合	メタ統合 (2)	岸
12	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討 (1)	岸
13	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討 (2)	岸
14	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討 (3)	岸
15	文献検討	関心のある地域看護学関連テーマの文献検討 (4)	岸

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

RodgersBL, Knaf1KA. (2000). ConceptsDevelopmentinNursing.

【8】 参考書

RodgersBL, Knaf1KA. (2000). ConceptsDevelopmentinNursing.

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	地域看護・ケアシステム演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in Community Health Nursing	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

文献の講読やフィールドワークを通じて、地域の健康課題を探究し、さらに、個人・家族・集団・地域を対象とし、住民とのパートナーシップにより地域の健康向上を目指した地域看護活動の展開方法を具体的に説明できる。

【2】 授業方針・テーマ

学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

英語の書籍の精読を基にしたプレゼンテーションとフィールドワークよりすすめる。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	地域看護活動の展開	地域看護におけるアセスメント	岸
3	地域看護活動の展開	地域看護計画の立案	岸
4	地域看護活動の展開	地域看護における評価と科学的根拠	岸
5	地域看護活動の展開	地域看護におけるリーダーシップ	岸
6	地域看護活動の展開	地域ケアシステムの構築	岸
7	演習計画立案	上記の学習を踏まえたフィールドワーク先の検討 (1)	岸
8	演習計画立案	上記の学習を踏まえたフィールドワーク先の検討 (2)	岸
9	フィールドワーク	フィールドワーク (1)	岸
10	フィールドワーク	フィールドワーク (2)	岸
11	フィールドワーク	フィールドワーク (3)	岸
12	フィールドワーク	フィールドワーク (4)	岸
13	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討 (1)	岸
14	フィールドワーク成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討 (2)	岸
15	フィールドワーク成果	フィールドワークに基づく地域看護活動展開方法の検討 (3)	岸

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (40%)、レポート (40%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

別途提示する。

【8】 参考書

別途提示する。

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	地域看護・健康政策特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Community Health Nursing/ health policy	選択	講義	1年次・秋春	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

健康政策に関する理念、発展過程およびその背景、展開方法など、多面的に把握し、問題分析・評価し、新たな政策課題について根拠を示しながら説明できる。さらに課題解決のための研究・実践について具体的に述べるができる。

【2】 授業方針・テーマ

院生が、今までに経験し、かつ関心を持つフィールドを題材にして、文献などにより健康政策の現状、問題点・課題を明示し、新たな方策案までをプレゼンテーションし討論する。
学生の主体的発表を組み合わせを行い、発表・討論を重視する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

文献検討は学生が主体的に学習する。院生各自のフィールド題材の発表で教員はコメンテーターの役割を担う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	健康政策	わが国の健康政策の理念と変遷	岸
3	健康政策	健康政策の発展過程とその背景	岸
4	健康政策	健康政策の発展過程とその理論	岸
5	健康政策	健康政策に関する文献クリティーク	岸
6	文献検討・フィールド研究	院生各自が、関心ある健康政策について7～12までの講義において文献検討、フィールド研究等を実施する	岸
7	文献検討・フィールド研究	各種制度の背景、理念	岸
8	文献検討・フィールド研究	各種制度の発展過程	岸
9	文献検討・フィールド研究	各種制度の問題分析・評価 (1)	岸
10	文献検討・フィールド研究	各種制度の問題分析・評価 (2)	岸
11	文献検討・フィールド研究	各種制度の問題分析・評価 (3)	岸
12	文献検討・フィールド研究	各種制度の政策課題と新たな方策案の提言	岸
13	成果発表・討論	院生によるパワーポイントを用いた発表と討論	岸
14	成果発表・討論	院生によるパワーポイントを用いた発表と討論	岸
15	成果発表・討論	健康政策と地域看護活動	岸

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。
プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。
レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【8】 参考書

教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	地域看護・健康政策演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Community Health Nursing /Health Policy	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

健康政策の変遷を踏まえつつ、地域保健法や介護保険法などの健康政策について、制度の実践活動事例にあたり、健康政策を具現化するための発展過程およびそこに求められる知識・技術を理解し実践する。政策化するための過程、計画立案、評価など、地域看護の専門家として必要な研究態度、知識、技術の修得を目指す。

【2】 授業方針・テーマ

臨地演習と学内カンファレンスを織り交ぜ、地域看護分野のさまざまな場面で活用、応用できる資質を形成する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

臨地演習と学内カンファレンスを織り交ぜ理解と知識の定着をはかる。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本演習の目的と進め方	岸
2	政策形成過程	政策化、施策化、事業化とは (文献研究)	岸
3	政策形成過程	政策化、施策化、事業化とは (文献研究)	岸
4	政策形成過程	政策化、施策化、事業化のプロセス (演習)	岸
5	政策形成過程	政策化、施策化、事業化のプロセス (演習)	岸
6	政策形成過程	計画立案 (演習)	岸
7	政策形成過程	予算化 (演習)	岸
8	政策形成過程	プレゼンテーション (演習)	岸
9	政策形成過程	上記演習を題材に「政策化等に求められる知識・技術」についての討論を実施する (演習)	岸
10	施策化の実践事例の分析	事業化、施策化の実践事例の分析 (演習)	岸
11	施策化の実践事例の分析	事業化、施策化の実践事例の分析 (演習)	岸
12	施策化の実践事例の分析	上記演習を題材に「発展要因」、「阻害要因」について討論し、求められる知識・技術を明らかにする。(演習)	岸
13	施策化の実践事例の分析	新たに事業化、施策化、政策化への取組みの事例を用いて具現化するための発展過程を考察する (演習)	岸
14	施策化の実践事例の分析	新たに事業化、施策化、政策化への取組みの事例を用いて具現化するための発展過程を考察する (演習)	岸
15	施策化の実践事例の分析	健康政策と地域看護活動に対する研究的取組み	岸

【6】 評価方法

課題への取り組み (20%)、プレゼンテーション (40%)、レポート (40%) で総合的に評価する。
評価については授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【8】 参考書

教科書は使用しないが、授業中に検討すべき文献、参考書などを指示する。

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	国際保健学特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced International Health	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

自身の研究課題を見出し、博士論文の研究目的を焦点化するためのレビュー論文が書ける。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健・看護の活動・研究に関する国際的な知見を利用し、博士論文の研究を遂行するために必要な研究能力を強化する科目である。テーマに関してのレビューを行う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

担当者は当日までに抄録の和訳とIntroduction, Method, Results, Discussionの概要をまとめ、A3用紙2枚程度の資料を人数分準備する。担当者は著者の立場で、他の受講生は査読者の立場で論文についてディスカッションする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	オリエンテーション	夏原
2	準備状況について確認	Literature Reviews について復習 https://writingcenter.unc.edu/tips-and-tools/literature-reviews/	夏原
3-13	論文講読	各々の興味関心に沿った論文を選択し、事前に受講生にも知らせる。 担当者は、批判的吟味をしながら内容を発表し、質問に答えることで著者の思考過程を追う。 抄読を繰り返すことで、論文から必要な情報を効率よく得るだけでなく、論文執筆のポイントをつかむようにする。	夏原
14-15	まとめ	自己の課題に関するレビュー論文のアウトラインを作成し、質疑応答を経て完成	夏原

【6】 評価方法

毎回のプレゼンテーションの資料準備40%、ディスカッション参加態度20%、レビュー論文のアウトライン（最終レポート）40%。

【7】 テキスト

必要時、文献、書籍などを提示する。
<https://writingcenter.unc.edu/tips-and-tools/>

【8】 参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。
<https://writingcenter.unc.edu/tips-and-tools/>

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美kazumi.natsuhara@med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

論文を選択する際には、internationaljournalのなるべく最新の原著論文から選ぶようにすること。

科目名称	国際保健学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in International Health	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	夏原 和美					
担当教員	夏原和美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

興味関心を持った国際保健/看護活動・研究の課題を人口学、栄養学、文化人類学等のさまざまな調査方法論を駆使してフィールドワークし、アセスメントできる。研究目的に適応した研究方法を状況に応じて設定することができる。

【2】 授業方針・テーマ

国際保健活動・研究に用いられる様々な方法についての実践能力を強化する科目である。博士論文の研究計画立案のためのフィールドワークを行う。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

文献検討は国際保健学特論と同様に行う。フィールドワークは十分な準備をもって臨み、学生が主体となって課題を実践する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1-3	目的を達成させるための方法	院生各々の研究目的を達成するために必要な方法について精査する。	夏原
4-6	質の高いデータ収集	論文から情報を得て、方法論を身につけ、必要な技術の習熟を図る。	夏原
7-13	データ収集方法の調整	データ収集予定地でのフィールドワークを経て研究方法の修正を行う。	夏原
14-15	研究計画書作成	最終レポートとして博士論文の研究計画書の方法の原稿を提出する。	夏原

【6】 評価方法

フィールドワーク事前準備40%、最終レポート60%

【7】 テキスト

必要時、文献、書籍などを提示する。

【8】 参考書

必要時、文献、書籍などを提示する。

【9】 科目担当者連絡先

夏原和美kazumi.natsuhara@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日10時~12時

【11】 特記事項

フィールドワークの準備は言語の習得、調査許可取得を含めて各自の責任で取り組むこと。

科目名称	精神看護学特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Mental Health and Psychiatric Nursing	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	伊藤 桂子					
担当教員	伊藤桂子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

精神保健医療福祉の現場における看護活動の展開と研究実践について理解し探求する。精神保健・精神看護学に関する疫学の科学的根拠・手法を知り、さらに国内外の地域における精神保健・精神看護に関する課題への対策の進め方について事例を通して探究する。

【2】 授業方針・テーマ

精神看護学に関連する文献検討を通して、現代の精神保健・精神看護に関する課題と対策について思考し、各自が取り組みたい研究テーマの焦点化ができるように教授する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

毎回の課題に対して資料を作成し、それを基にゼミナール形式で討議を行う。課題についてはオリエンテーションで提示する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	精神保健福祉医療に関する疫学①	精神保健福祉医療に関する疫学の科学的根拠と手法①	伊藤
2	精神保健福祉医療に関する疫学②	精神保健福祉医療に関する疫学の科学的根拠と手法②	伊藤
3	諸外国におけるメンタルヘルスの動向①	諸外国の精神保健福祉医療の現状：各国で直面している課題	伊藤
4	諸外国におけるメンタルヘルスの動向②	諸外国の精神保健福祉医療の現状：政策やシステム	伊藤
5	日本におけるメンタルヘルスの動向①	日本の精神保健福祉医療の現状：関係法規、政策やシステム	伊藤
6	日本におけるメンタルヘルスの動向②	日本の精神保健福祉医療の現状：研究の動向	伊藤
7	討議①	メンタルヘルスに関して関心のある現象に特化した研究の動向	伊藤
8	精神障害をもつ人の援助に関する研究の動向①	統合失調症、気分障害をもつ人の援助に関する研究	伊藤
9	精神障害をもつ人の援助に関する研究の動向②	神経症圏の障害をもつ人の援助に関する研究	伊藤
10	精神障害をもつ人の援助に関する研究の動向③	アディクション問題をもつ人の援助に関する研究	伊藤
11	精神障害をもつ人の援助に関する研究の動向④	精神障害をもつ人の家族への援助に関する研究	伊藤
12	討議②	関心のある精神障害および障害者に対する研究のレビュー	伊藤
13	主な看護援助方法、治療的介入に関する研究の動向①	各種精神療法を用いた治療的介入と援助について	伊藤
14	主な看護援助方法、治療的介入に関する研究の動向②	地域移行支援と援助について	伊藤
15	まとめ	研究課題関連の現象を構成する概念の抽出	伊藤

【6】 評価方法

課題への取り組み (20%)、プレゼンテーション (60%)、レポート (20%) で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

伊藤桂子 keiko.itou@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 45 - 13 : 00

【11】 特記事項

エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。

科目名称	精神看護学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Mental Health and Psychiatric Nursing	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	伊藤 桂子					
担当教員	伊藤桂子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

精神保健・精神看護学において関心のあるテーマに沿って文献検討とフィールドワークを行い、理論と実践の関連や矛盾について思考し、自身の研究課題に関する明確化を図る。

【2】 授業方針・テーマ

フィールドワーク等を通して、精神保健・精神看護学における課題を捉え、研究を実践できる技術・研究態度・研究を遂行する能力を高める。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

毎回の課題に対して資料を作成し、それを基にゼミナール形式で討議を行う。課題についてはオリエンテーションで提示する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	課題とするテーマの選定	研究課題とするテーマの選定	伊藤
2	精神保健、精神看護に関する文献講読①	精神医療福祉保健政策と現代社会の課題に関する検討	伊藤
3	精神保健、精神看護に関する文献講読②	精神保健、精神看護に関するテーマに沿った研究の動向の検討①	伊藤
4	精神保健、精神看護に関する文献講読③	精神保健、精神看護に関するテーマに沿った研究の動向の検討②	伊藤
5	フィールドワーク①	フィールドワークにおける演習計画立案①	伊藤
6	フィールドワーク②	フィールドワークにおける演習計画立案②	伊藤
7	フィールドワーク③	観察法やインタビュー調査を用いた演習①	伊藤
8	フィールドワーク④	観察法やインタビュー調査を用いた演習②	伊藤
9	フィールドワーク⑤	演習のデブリーフィング①	伊藤
10	フィールドワーク⑥	観察法やインタビュー調査を用いた演習③	伊藤
11	フィールドワーク⑦	観察法やインタビュー調査を用いた演習④	伊藤
12	フィールドワーク⑧	演習のデブリーフィング②	伊藤
13	研究データの分析①	フィールドで得られたデータの分析①	伊藤
14	研究データの分析②	フィールドで得られたデータの分析②	伊藤
15	まとめ	研究課題の精選	伊藤

【6】 評価方法

課題への取り組み (20%)、プレゼンテーション (60%)、レポート (20%) で総合的に評価する。評価については授業内で講評し、課題の共有をする。

【7】 テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

【8】 参考書

必要に応じて適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

伊藤桂子 keiko.itou@med.toho-u.ac.jp
※@を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日 12 : 45 - 13 : 00

【11】 特記事項

エビデンスの高い論文を読み、論理的にまとめた上でプレゼンテーションを行う
主体的に学び、科学的な視点を持って討議に参加する。

科目名称	公衆衛生看護学特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Community Health Nursing	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

概念分析の哲学的基盤を理解した上で、公衆衛生看護学関連分野の概念を科学的に分析する方法論を習得し、文献レビューを通じて、現在の概念の用いられ方について根拠を示しながら説明できる。また公衆衛生看護学で活用できる理論・ツールについて検討し、課題解決の方法について具体的に述べるができる。

【2】 授業方針・テーマ

学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。文献を統合した成果をプレゼンテーションおよびレポートとして提出する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	公衆衛生看護学における概念	公衆衛生看護学における概念	岸
3	公衆衛生看護学における概念	公衆衛生看護学における概念	岸
4	公衆衛生看護学における概念	公衆衛生看護学における概念	岸
5	概念分析	概念分析 (1)	岸
6	概念分析	概念分析 (2)	岸
7	概念分析	概念分析 (3)	岸
8	概念分析	概念分析 (4)	岸
9	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論(1)	岸
10	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論(2)	岸
11	公衆衛生看護で活用できる理論	公衆衛生看護で活用できる理論(3)	岸
12	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価(1)	岸
13	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価(2)	岸
14	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価(3)	岸
15	公衆衛生看護活動の分析と評価	公衆衛生看護活動の分析と評価(4)	岸

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

RodgersBL, Knaf1KA. (2000). ConceptsDevelopmentinNursing.

【8】 参考書

RodgersBL, Knaf1KA. (2000). ConceptsDevelopmentinNursing.

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	公衆衛生看護学演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Seminar in Community Health Nursing	選択	演習	1年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	岸 恵美子					
担当教員	岸恵美子 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

文献の講読やフィールドワークを通じて、地域の健康課題を探究し、さらに、個人・家族・集団・地域を対象とし、住民とのパートナーシップにより地域の健康向上を目指した公衆衛生看護活動の展開方法を具体的に述べることができる。

【2】 授業方針・テーマ

学生の主体的な学習を尊重し、学生のプレゼンテーションを中心にすすめる。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

英語の書籍の精読を基にしたプレゼンテーションとフィールドワークよりすすめる。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	講義ガイダンス	本講義の目的と進め方	岸
2	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護におけるアセスメント	岸
3	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護計画の立案	岸
4	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護における評価	岸
5	公衆衛生看護活動の展開	地域ケアシステムの構築	岸
6	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護における管理	岸
7	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案 (1)	岸
8	文献検討	文献検討を踏まえた演習計画立案 (2)	岸
9	フィールドワーク	フィールドワーク (1)	岸
10	フィールドワーク	フィールドワーク (2)	岸
11	フィールドワーク	フィールドワーク (3)	岸
12	フィールドワーク	フィールドワーク (4)	岸
13	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討 (1)	岸
14	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討 (2)	岸
15	フィールドワークの成果	フィールドワークに基づく公衆衛生看護活動展開方法の検討 (3)	岸

【6】 評価方法

講義・演習への取り組み (20%)、プレゼンテーション (40%)、レポート (40%) で総合的に評価する。プレゼンテーションの等の取り組みについては授業内で評価を伝え、課題の共有をする。レポートについてA、B、Cの3段階で評価し、講評を伝える。

【7】 テキスト

別途提示する。

【8】 参考書

別途提示する。

【9】 科目担当者連絡先

岸恵美子emiko.kishi■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日、12:30～13:00

【11】 特記事項

事前に予習をして講義に臨むこと。

科目名称	医療言語論特講	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Advanced Studies of Medical Discourse	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	小林 薫					
担当教員	小林薫 (看護学研究科・准教授) 平田松吾 (看護学研究科・非常勤講師)					

【1】 教育目標

言語のさまざまな側面を知的に把握して考察する能力とともに、多様な言語活動の場である医療を、医療プロパーの視点を越えるより広い視野の中にとらえ直す高度な能力を養う。

【2】 授業方針・テーマ

医療現場はさまざまな様態の言語が飛び交う場としてとらえることができる。科学（医療）の言語はその一部をなしているにすぎない。講義では、テキストの精密な読解を通じて、比喩・たとえ話・祈り・告白等のさまざまな言語の様態を考察し、それらと比較しながら科学的言語の特性・限界を明らかにすることを試みる。テキスト解釈での言語の認識問題などを取り上げることで、質的研究での「言葉」の持つ役割について探究する。あわせて、特にポスト構造主義の言語学および文学理論 (e.g. ナラトロジー) が医療における／医療を語る「ことば」の分析に果たしうる役割について、NarrativeMedicineという考え方を軸に検討する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

テキストの読解をもとに講義を進め、学生とともにディスカッションを行う。英文のテキストの精密な読みの訓練も含まれる。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	言語活動の多様性	言語活動の多様性－言語に関する諸問題の俯瞰を以て講義全体のイントロダクションとする	小林・平田
2	ソシユールの言語論	ソシユールの言語論	平田
3	科学的言語と説得	科学的言語と説得－『アリストテレス弁論術』を中心に、科学的言語と真理・説得の問題を考察する	平田
4	比喩とは何か	比喩とは何か－比喩論と医療の関係を考察する	平田
5	隠喩と科学	隠喩と科学－科学的思考と隠喩の関係を考察する	平田
6	言語と言表行為	たとえ話・ことわざ、祈り・誓い	平田
7	医療における言語	医療における言語の多様性と病の隠喩	小林・平田
8	文献検討1	RitaCharon, NarrativeMedicine精読と検討1	小林
9	文献検討2	RitaCharon, NarrativeMedicine精読と検討2	小林
10	文献検討3	RitaCharon, NarrativeMedicine精読と検討3	小林
11	文献検討4	RitaCharon, NarrativeMedicine精読と検討4	小林
12	文献検討5	RitaCharon, NarrativeMedicine精読と検討5	小林
13	文献検討6	RitaCharon, NarrativeMedicine精読と検討6	小林
14	文献検討7	RitaCharon, NarrativeMedicine精読と検討7	小林
15	まとめ	医療における言語の可能性	小林

【6】 評価方法

授業中の態度や取組み50%、レポート50%

【7】 テキスト

テキストプリント形式で適宜配布する。

【8】 参考書

- 1) アリストテレス (岩田靖夫訳) 『弁論術』 岩波文庫
- 2) 丸山圭三郎 『ソシユールを読む』 岩波書店
- 3) Labov, W. Therapeutic Discourse: Psychotherapy as Conversation. Academic Press, 1977

【9】 科目担当者連絡先

小林薫 kaoru.kobayashi@med.toho-u.ac.jp

※@を@に置き換える。

【9】 オフィスアワー
講義前後

【10】 オフィスアワー

講義前後

【11】 特記事項

参考書目はできる限り読むこと。

科目名称	看護理論	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Nursing Theory	選択	講義	1年次・春	2単位	30時間
科目責任者	菊池 麻由美					
担当教員	菊池麻由美 (看護学研究科・教授)					

【1】 教育目標

「看護」という営みを理解し、新たな実践を創造する理論的枠組みとする。看護学の理論体系の発展経緯と看護現象の概念化や理論化の意味や重要性を理解する。看護実践の基盤となる諸理論をクリティークするとともに、理論構築の方法を学修する。

【2】 授業方針・テーマ

看護理論は「看護」という営みを理解し、新たな看護実践を創造する理論枠組として価値づけられる。本科目では、代表的な看護理論を取り上げ分析と評価を行う。それにより理論の構成要素を理解し、理論構築の方法を学修する。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

討議形式の授業・課題検討・課題発表をするので積極的な参加を期待する。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	看護学の理論体系の発展経緯①	看護における理論開発の歴史 現代の看護知識の構成要素・看護理論の概観	菊池
2	看護学の理論体系の発展経緯②	看護理論の分析と評価	菊池
3	看護学の理論体系の発展経緯③	看護理論の構築	菊池
4	看護理論の分析と評価①	看護理論①	菊池
5	看護理論の分析と評価②	看護理論①	菊池
6	クリティーク演習①	看護理論のクリティーク①	菊池
7	看護理論の分析と評価③	看護理論②	菊池
8	看護理論の分析と評価④	看護理論②	菊池
9	クリティーク演習②	看護理論のクリティーク②	菊池
10	看護理論の分析と評価⑤	看護理論③	菊池
11	看護理論の分析と評価⑥	看護理論③	菊池
12	クリティーク演習③	看護理論のクリティーク③	菊池
13	課題発表①	看護理論のクリティーク④	菊池
14	課題発表②	看護理論のクリティーク⑤	菊池
15	まとめ	卓越した看護実践への看護理論の活用 看護実践の質を維持・発展させるための理論構築	菊池

【6】 評価方法

課題への取り組み (50%)、プレゼンテーション (50%) で総合的に評価する。
評価については、授業内で講評し、課題を共有する。

【7】 テキスト

筒井真優美編集 (2015), 看護理論家の業績と理論評価, 医学書院
JacquelineFawcett、著、大田喜久子筒井真優美訳：看護理論の分析と評価, 医学書院。
LorraineOlszewskiWalker, KayCoalsonAvant著, 中木高夫, 川崎修一訳：看護における理論構築の方法, 医学書院。

【8】 参考書

筒井真優美編集(2015), 看護理論家の業績と理論評価, 医学書院
JacquelineFawcett、著、大田喜久子筒井真優美訳：看護理論の分析と評価, 医学書院.
LorraineOlszewskiWalker, KayCoalsonAvant著, 中木高夫, 川崎修一訳：看護における理論構築の方法, 医学書院.

【9】 科目担当者連絡先

菊池麻由美mayumi.kikuchi ■med.toho-u.ac.jp
※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30-13：00

【11】 特記事項

各自の臨床経験を振り返り、課題に取り組むことを期待する。
事前に配布された授業資料およびテキスト該当箇所は事前に読み、各自の意見をもって授業に参加することを期待する。

科目名称	多職種連携・協働演習	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Seminar in Interprofessional Collaboration	選択	演習	1・2年次・春	2単位	30時間
科目責任者	横井 郁子					
担当教員	横井郁子（看護学研究科・教授） 藤原和美（看護学研究科・教授） 岸恵美子（看護学研究科・教授） 御任充和子（地域連携教育支援センター・特任講師） 林弥生（佐倉病院・看護部） 堀孔美恵（大橋病院・看護部） 山本由香（大森病院・看護部）					

【1】 教育目標

- さまざまな医療・ケア提供の場へ赴き、「生活支援」「家族支援」「医療ケア提供力」「地域アセスメント」「ケースマネジメント」等の視点から分析し、それぞれの特徴を見出す能力を養う。
- 質の高いケアのための連携・協働について1での分析をふまえて述べることができる。

【2】 授業方針・テーマ

受講者を看護職と限定しない。
各医療・ケア提供の場の特徴が連携・協働にどのように影響するのかも考察してほしい。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

フィールドワークの計画は、学生自らが立案し、教員の指導を得て実践に臨む。実践の場での協力依頼、連絡・調整も学習の一環とする。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	各医療・ケア提供場所の役割・特徴の理解	文献検討 フィールドワーク計画	横井・藤原・岸・御任・林・堀・山本
2	フィールドワーク1	医療施設（回復期リハビリテーション病棟等）	横井
3	フィールドワーク1	医療施設（回復期リハビリテーション病棟等）	横井
4	フィールドワーク1	医療施設（回復期リハビリテーション病棟等）	横井
5	フィールドワーク1	医療施設（回復期リハビリテーション病棟等）	横井
6	フィールドワーク2	地域包括支援センター	横井
7	フィールドワーク2	地域包括支援センター	横井
8	フィールドワーク2	地域包括支援センター	横井
9	フィールドワーク2	地域包括支援センター	横井
10	フィールドワーク3	訪問看護ステーション	横井
11	フィールドワーク3	訪問看護ステーション	横井
12	フィールドワーク3	訪問看護ステーション	横井
13	フィールドワーク3	訪問看護ステーション	横井
14	成果発表と討議1	プレゼンテーションと討議	横井・藤原・岸・御任・林・堀・山本
15	成果発表と討議2	プレゼンテーションと討議	横井・藤原・岸・御任・林・堀・山本

【6】 評価方法

フィールドワークへの取り組み60%、プレゼンテーション40%で総合的に評価する。

【7】 テキスト

必要に応じて提示する。

【8】 参考書

必要に応じて提示する。

【9】 科目担当者連絡先

横井郁子連絡先：yokoiyk■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

毎週木曜日12：30～13：00

【11】 特記事項

フィールドワークの場所、日程はできるだけ調整するが希望に添えない場合もある。

科目名称	共生社会と医療	必選区分	授業区分	開講時期	単位数	時間数
英文名称	Symbiotic Society and Medical Care	選択	講義	12年次・秋	2単位	30時間
科目責任者	藤原 和美					
担当教員	藤原和美 (看護学研究科・教授)、横井郁子 (看護学研究科・教授)、岸恵美子 (看護学研究科・教授) 伊藤桂子 (看護学研究科・教授)、倉田慶子 (看護学部・助教) 平田松吾 (看護学研究科・非常勤講師)、御任充和子 (地域連携教育支援センター・特任講師)					

【1】 教育目標

地域包括ケアが推進される現代において、暮らしを継続できる「支える医療」の関心も高まっている。多様な人が主体的に社会に参画し、ともに生きていく社会と医療のあり方について、医療を必要とする人の暮らしをとおして探求できる。

【2】 授業方針・テーマ

受講者を看護職と限定しない。
ゲストスピーカーによる話題提供をもとに議論し課題を深めていく。

【3】 看護研究科ディプロマ・ポリシーとの関連性

到達目標を達成することにより、以下の素養を身につけることにつながる。

- 博士前期課程1. 各専門分野における高度な実践力を身につけている
- 博士前期課程2. 科学的エビデンスに基づく研究能力を身につけている
- 博士後期課程1. 学際的かつ科学的な新しい教育・研究方法を開発する高い能力をもっている
- 博士後期課程2. 社会の健康の向上に資する自立した研究者・教育者である

【4】 授業の進行方法・学習研究の方法等

講義、ゼミ形式で行う。

【5】 授業計画

	項目	内容	担当教員
1	共生社会とは①	共生する社会について考える	平田
2	共生社会とは②	共生する社会について考える	平田
3	共生社会と地域包括ケアシステム①	共生社会と地域包括ケアシステム	岸、横井、藤原
4	共生社会と地域包括ケアシステム②	共生社会と地域包括ケアシステム (高齢者)	横井、岸、藤原
5	共生社会と精神障害①	精神障害を持って生きる	伊藤
6	共生社会と精神障害②	精神障害を持って生きる	伊藤
7	共生社会とがんサバイバー①	がんと闘い生きる (ゲストスピーカー)	横井
8	共生社会とがんサバイバー②	共生社会とがんサバイバー (ゲストスピーカー)	横井
9	共生社会と重度心身障害①	共生社会と重度心身障害児と家族 (ゲストスピーカー)	藤原、倉田
10	共生社会と重度心身障害②	共生社会と重度心身障害児と家族 (ゲストスピーカー)	藤原、倉田
11	ガイダンス	テーマとプレゼンテーションについてのガイダンス	藤原、御任
12	これからの共生社会	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：これからの共生社会	横井、岸、伊藤、藤原、倉田、御任
13	共生社会と専門職①	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、藤原、倉田、御任
14	共生社会と専門職②	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、藤原、倉田、御任
15	共生社会と専門職③	プレゼンテーションを受けて考察 テーマ：共生社会と専門的人材	横井、岸、伊藤、藤原、倉田、御任

【6】 評価方法

課題の提出30%、プレゼンテーション60%で総合的に評価する。

【7】 テキスト

講義の中で適宜紹介する。

【8】 参考書

講義の中で適宜紹介する。

【9】 科目担当者連絡先

藤原和美kazumi.fujiwara■med.toho-u.ac.jp

※■を@に置き換える。

【10】 オフィスアワー

事前にメールでアポイントを取ること

【11】 特記事項

共生社会について定義を含むさまざまな課題について予習し臨むこと。

*最少開講人数3名